

令和2年度

生活困窮者自立支援制度における農業分野等との連携強化モデル事業

「全国アンケート調査結果報告書」

一般社団法人 J A 共済総合研究所

令和3年3月

## 目次

I.目的	1
II.アンケート調査結果概要	2
III.全国アンケート調査結果報告（就労準備支援事業）	9
■調査実施概要	9
1. 就労準備支援事業等の体制	12
2. 支援対象者数とその特性	15
3. 農業分野等の取組み状況	18
4. 農業活動の取組み経緯	24
5. 農業活動の体制と参加者数	26
6. 農業活動の取組み内容	29
7. 農業プログラムの実施状況	36
8. 農業活動の実施による支援対象者の変化	44
9. 今後の意向と課題	46
10. 参考資料	54
IV.全国アンケート調査結果報告（就労訓練事業）	56
■調査実施概要	56
1. 事業内容と支援対象者の特性	58
2. 農業分野等の取組み状況	60
3. 農業活動の取組み経緯	66
4. 農業活動の体制と参加者数	68
5. 農業活動の取組み内容	71
6. 農業プログラムの実施状況	77
7. 支援対象者への金銭給付状況	80
8. 協力事業者での活動と保険への加入等	83
9. 農業活動の実施による支援対象者の変化	86
10. 今後の意向と課題	87
11. 参考資料	91
V.明らかになった主な状況と課題	92
VI.全国アンケート調査票	96
VII.参考資料	120
1. 実施モデル事業	120
(1) 実施モデル概要	120
(2) 労働力支援モデル～案内～	121
(3) 広域モデル事業～案内～	124
2. シンポジウム開催報告資料	127
(1) 開催案内	127
(2) メディア掲載報告	129

## 1. 目的

内閣府において令和元年度に農福連携等推進会議が設置され、「農福連携等推進ビジョン」が掲げられた。ここでは近年広がりを見せている、障害者等が農作業に従事するという農福連携を推進するために「知る」・「取組む」・「広げる」の3つのアクションを掲げている。さらには「Ⅲ「農」「福」連携の広がりへの展開」において、「福」の広がりとして働きづらさや生きづらさを感じている「高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等」「犯罪や非行をした者」の就労や社会参加や立ち直りを促進すると掲げている。

こうした中で、令和元年度は高齢者の農福連携の普及を図るべく、厚生労働省・老人保健健康増進等事業において「農福連携による高齢者の健康増進・生きがいづくり・社会参加と農山漁村の活性化の支援に関する調査研究事業」(JA共済総合研究所)が実施され、農を通じた要介護認定高齢者・元気高齢者の心身機能の改善・維持・増進、さらにはレクリエーション・生きがいづくりの機会の創出、そして地域や社会と繋がりや貢献できる機会を創出できることを明らかにした。

生活困窮者(ひきこもり等を含む)においても、一人ひとりの状態に応じた就労支援が求められており、農福連携を通じた支援の在り方を探り、検討・構築・普及していくことが期待されている。しかしながら、その実態は必ずしも明らかになっていない状況にある。

そこで本アンケート調査においては、生活困窮者の就労準備支援事業および就労訓練事業に関する農業・林業・水産業等の分野における就労支援の各自治体・実施団体における取組み実態を明らかにする。一つには取組みの有無・体制・内容についての現状、二つには現在取り組んでいる事業・事業所等における課題・展望等を明らかにすることで、生活困窮者の農業分野等を通じた社会的自立の可能性を探ると共に、生活困窮者の農福連携、農業分野等の取組み拡大・充実に役立てていくものである。なお、本アンケートは令和2年度厚生労働省社会・援護局地域福祉課による「生活困窮者自立支援制度における農業分野等との連携強化モデル事業」にかかる調査である。

担当：調査研究部 主席研究員 濱田健司 研究員 高木英彰
---------------------------------

## II. アンケート調査結果概要

### 【就労準備支援事業実施者アンケート調査結果】

#### 1. 就労準備支援事業等の体制

○自治体主管部局調査（以下「自治体調査」という）の回収票数は262件、就労準備支援委託先調査（以下「委託先調査」という）の回収票数は208件であった。委託先の法人格は「NPO法人」、「社会福祉協議会」が多い。

○自治体調査では、事業内容は「就労準備支援事業のみ」が73.7%、「就労準備支援事業＋就労訓練事業」が24.4%である。就労準備支援事業については「委託している」が90.7%に達している。

○委託先調査では、生活困窮者自立支援制度に関する受託事業は、「就労準備支援事業」が53.8%、「就労準備支援事業＋自立相談支援事業」が32.2%である。

○自治体調査では、就労準備支援事業（直営）の実施体制（専任＋兼任）は「1人」が60.0%、「2人」が20.0%であり、平均は1.9人である。専任職員は置かない自治体は6割ある。

委託先調査では、就労準備支援事業の実施体制は（専任＋兼任）は「1人」から「3～4人」までさまざま、平均は3.1人である。専任職員を置いているのは6割に達する。

#### 2. 支援対象者数とその特性

○自治体調査では、就労準備支援事業（直営）の支援対象者数は「1～9人」が50%を占め、平均は10.1人である。委託先調査では、支援対象者数は「1～9人」が53.8%を占め、平均は18.8人である（法人によっては1つの事業所単位だけでなく、広域ブロック等事業所単位での重複回答があるため人数が多くなっている）。

○支援対象者数の属性別構成は、自治体調査・委託先調査共に、性別では男性：女性の割合はほぼ2：1、年代別では10代から60代まで幅広く、無就業の期間別では「1年未満」から「11年間以上」までさまざまである。年代では委託先の方が支援対象者の年代はやや高く、無就業期間では自治体の方が長期間の者がやや多い。

○支援対象者の特性は、自治体調査・委託先調査では「ひきこもり（状態の方）」（66.7%、50.0%）、「本人の収入がない、あるいはほとんどない（60.0%、69.7%）」、「他者とコミュニケーションを図ることが難しい」（50.0%、68.8%）が多くなっている。または3～4割台ほどが発達障害あるいは身体・知的・精神障害の可能性のある者である。

また委託先調査においては「本人の収入がない、あるいはほとんどない」や「勤労意欲が希薄」「自己有用感がない」との回答割合が自治体調査に比べ高い。

#### 3. 農業分野等の取組み状況

○農業分野等の取組み状況をみると、自治体調査では「取り組んでいる」が16.7%であり、取り組む予定や検討しているところは4割近くに達している。委託先調査では「取り組んでいる」が39.6%、取り組む予定や検討しているところは2割ある。

委託先では既に取り組んでいるところが多く、自治体は取組みを予定・検討しているところが多い。

「取り組んでいる」との回答を属性別にみると、受託事業別では「就労訓練あり」の団体の場合62.5%と高い。また担当職員数や支援対象者数が多いほど高い傾向もみられる。

○農業分野等に取り組んでいない理由は、自治体調査では「農業分野等をするための施設・器具がないため」（57.1%）、「農業分野等の技術がないため」（50.0%）、「農地等を確保することが難しいため」（35.7%）、「農業関係者等との連携が必要なため」（35.7%）、「職員が不足し、負担になるため」（35.7%）などが上位を占めている。委託先調査においても自治体調査と同様の項目が上位を占め、農業にかかる技術、施設・器具、農地等がないことや職員不足が取組みの阻害要因となっている。なお、

「農業分野等の現場に出てきてもらうことが難しい」「対象者に体力がない」など、対象者に関する不安も有している。

○農業分野等に取り組むための課題をみると、自治体調査では「農業技術等を指導できる人材確保」(57.1%)、「農業分野等を実施するための農業関係者等との連携」(50.0%)、「農業分野等を実施するための農地等確保」(42.9%)、「農業分野等を実施するための資材確保」(28.6%)などが上位を占めている。委託先調査においても自治体調査と同様の項目が上位を占め、農業にかかる人材・農地・資材等の確保が課題となっている。なお、委託調査先では「実施のための助成」を期待している。

○これから取り組もうとしている団体における農業分野等に取り組むに当たっての課題をみると、自治体調査では「体制の整備」(54.5%)、「関係部署との連携」(54.5%)、「農業・福祉等の相互理解」(54.5%)などが上位を占めている。委託先調査でも自治体調査とほぼ同様の項目が上位を占めているが、「体制の整備」(76.2%)が飛びぬけていることや「予算確保」(38.1%)への回答が多いことが委託先の回答の特徴となっている。

○農業分野等の取組みを開始したきっかけを委託先調査でみると、「農福連携に可能性があると思ったため」(36.6%)が最も多く、次いで「農福連携に取り組みたかったため」(28.0%)、「地域農業の活性化に繋がるといったため」(24.4%)、「行政に頼まれて」(19.5%)の順となっている。農福連携に可能性や希望を抱き、また地域農業のため、行政に依頼されて開始している。

○取り組んでいる農業分野等の種類は、自治体調査では「農業活動」は5件(100%)、それ以外は皆無であった。委託先調査では「農業活動」は79件(96.3%)、「林業活動」は3件(3.7%)、「水産業活動」は1件(1.2%)、「厚生労働省生活困窮者等の就農訓練事業」は4件(4.9%)であった。ほとんどが農業活動である。

#### 4. 農業活動の取組み経緯

○就労準備支援事業委託先調査のうち農業活動票に回答が得られたのは81件である。

○農業活動の取組み開始時期は、「1年未満」が11.1%、「1～2年前」が27.2%であり、ここ数年で取り組むようになった団体が4割近くを占める。

○取組みを開始したきっかけは、「農業活動に生活困窮者への効果があると思ったため」(56.8%)と、生活困窮者への効果を期待して始めている。

#### 5. 農業活動の体制と参加者数

○農業担当の支援職員数(専任+兼任)は「1人」(44.4%)が最も多く、次いで「2人」(28.4%)、「3～4人」(14.8%)の順で、職員数は多くても2人の体制の団体が多数を占め、平均は1.9人である。半数近くの団体は農業担当の専任職員を置かず兼任職員だけの体制となっている。

○支援対象者のうち農業活動の参加者は「1～2人」が43.2%と最も多く、「3～4人」の11.1%を合計すると5人に満たない少人数での実施が半数を上回る。一方、「10～19人」(11.1%)、「20人以上」(4.9%)など多人数で実施する団体も一定数ある。平均参加者数は5.8人である。

○農業活動参加者の属性別構成は、性別では男性が73.9%、女性が26.1%、年代別では20代から60代まで幅広い。また無就業の期間別では「1年未満」から「11年間以上」までとさまざまである。

#### 6. 農業活動の取組み内容

○農業活動の作業形態は、「農作業請負」が39.5%、「プログラムのために自主運営する農園作業」が40.7%、「農作業請負+プログラムのために自主運営する農園作業」が12.3%である。作業形態を農業活動参加者数別にみると、参加者数の少ない農業活動では「農作業請負」の割合が高いが、逆に参加者数の多い農業活動では「プログラムのために自主運営する農園作業」の割合が高い。

○作業内容は「種まき」から「収穫」「出荷調整」まで多岐にわたる。中でも「収穫」は87.7%に達する。逆に取組みの少ない作業は「農業散布」「給餌」などである。作業内容を作業形態別にみると、<プログラム自主運営>の場合、ほとんどの作業において<農作業請負>よりも取組みの割合が高い。プロ

プログラム自主運営においては一連の農作業を通しての取組みが多く、逆に農作業請負は作業内容を絞った取組みが多いという傾向を示唆している。

○加工・販売等については「実施している」が28.4%、「実施していない」が69.1%である。これを農業活動参加者数別にみると、＜10人以上＞では「実施している」割合がやや高い。作業形態別にみると、「実施している」の割合は＜農作業請負＞の場合12.5%であるが、＜プログラム自主運営＞は36.4%、＜農作業請負＋プログラム自主運営＞は50.0%であり、プログラム自主運営を行う場合、加工・販売等まで実施するケースが少なくない。加工・販売等の実施内容は「飲食」は少なく、「販売」(73.9%)と「加工」(56.5%)が多い。

○栽培している農産物等の種類は「野菜」が80.2%と圧倒的に多い。そのほか「果物」、「米」、「花卉」などがある。

○プログラム自主運営の農業活動について実施場所をみると、「農地」が81.4%と圧倒的に多く、「ハウス」も18.6%に達する。農地の種別は「借地」が65.7%、「市民農園」が31.4%、「自己所有地」が14.3%である。

○プログラム自主運営の農業活動について農地面積をみると、農地の場合1aに満たないものから250aまでさまざまであり、そのほとんどは借地である。

## 7. 農業プログラムの実施状況

○日数の決まったプログラムの有無をみると、「ある(複数のプログラムがある)」が17.3%、「ある(1つのプログラムのみ)」が16.0%と1/3がプログラムを有している。これを農業活動参加者数別にみると、参加者数が多くなるほど「ある」とする割合が高い。作業形態別にみると＜農作業請負＞＜プログラム自主運営＞＜農作業請負＋プログラム自主運営＞の順で「ある」とする割合が高い。プログラムの日数は「10日間以内」が40.7%、「11～20日間」が25.9%であり、20日間以内のプログラムが多数を占める。プログラムの期間は「通年ある」が44.4%、「期間が決まっている」が18.5%であるが、これを農業活動参加者数別にみると、参加者数が多くなるにつれ「通年ある」の割合が高くなっている。

○作業時間の決め方は、「支援対象者によって時間は異なる」が34.6%、「だいたい同じ時間」が25.9%であり、支援対象者の状態によって作業時間を決めるプログラムがやや多い。標準的な作業時間は「1～2時間」が44.4%、「3～4時間」が32.1%であり、長くても4時間以内が多い。

○支援対象者を受け入れてくれる外部の協力事業者において農業活動を「実施している」が39.5%、「実施していない」が55.6%である。これを作業形態別にみると、＜農作業請負＞や＜農作業請負＋プログラム自主運営＞では「実施している」の割合がやや高く、農作業請負では外部協力事業者との連携が行われるケースがプログラム自主運営に比べ多い。協力事業者への謝礼は「支払っている」が34.4%、「支払っていない」が59.3%である。謝礼の換算方法は「1日当たり〇円」で換算するところが54.5%と最も多い。

○農業活動に当たって保険に「加入している」が79.0%に達する。加入している保険の種類は「人身傷害」、「対人」、「物損」などが多く、これらを組み合わせた複合型の保険も少なくない。

○支援対象者の農業活動で重視していることは、「働くことの充実感や楽しさを理解できるようにしている」が最も多く81.5%に達している。次いで「成果が見えるようにしている(達成感を感じやすい)」(64.2%)、「他者とのコミュニケーションをなるべくとれるようにしている」(60.5%)、「自己有用感が得られるようにしている」(56.8%)の順に多い。働くことの意欲を高めることやコミュニケーション力・自己有用感向上を重視しており、そのために個別・少人数指導ができるようにしたり、成果を見えやすくしているなどの工夫をしていると考えられる。

## 8. 農業活動の実施による支援対象者の変化

○農業活動の実施による支援対象者の変化についてみると、「良くなった」の割合は＜精神の状況＞で最も高く76.5%に達し、そのほか＜体の状況＞(65.4%)、＜生活リズム＞(64.2%)、＜自己有用感＞(63.0%)、＜繋がる人間関係者数(知人・友人等の付き合う人間関係の数)＞(61.7%)、＜コミュニ

ケーション力> (60.5%)なども6～7割の団体で、農業活動の効果を認めている。生活リズムが整い、精神や体の状況が改善し、繋がる人間関係者数や自己有用感やコミュニケーション力が増えている。「良くなった」の割合を農業活動参加者数別にみると、どの項目においても参加者数が多くなるにつれ高くなっている。作業形態別にみると、多くの項目でプログラム自主運営の方が農作業請負に比べ高い。

## 9. 今後の意向と課題

○農業活動についての今後の意向をみると、「現状維持」が48.1%、「拡大したい」が34.6%である。農業活動参加者数別にみると、「拡大したい」の割合は参加者数規模の大きい団体での拡大意向が強い。また作業形態別にみると、「拡大したい」の割合は<プログラム自主運営>より<農作業請負>の方の拡大意向がやや強い。

○農業活動に取り組むに当たっての課題をみると、「体制の整備」(44.4%)、「予算確保」(37.0%)、「支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと」(35.8%)、「地域との連携」(33.3%)、「農業・福祉等の相互理解」(30.9%)などが上位を占めている。体制整備と予算確保が必要であり、支援対象者に興味を持ってもらい、地域のさまざまな団体等と連携して行うことを主な課題としてあげている。農業活動に取り組むにあたっての課題を今後の意向別にみると、<現状維持>の上位3位は「予算確保」、「支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと」、「体制の整備」であり、<拡大したい>の上位3位は「体制の整備」、「農業・福祉等の相互連携」、「地域との連携」である。特に体制を整備することが大きな課題であり、そのための予算の確保などが期待されていることが推察される。

○今後の意向についての自由記述

現状維持の理由：多くが予算等の関係やほかの業務等でスタッフの人材を配置すること難しいこと、また支援対象者を集めることが難しいということをあげられている。一方で、支援対象者への効果が認められることから継続したいという。

拡大の理由：土や生き物と触れ合うことによる効果、また他者と自然にコミュニケーションが図れるようになるなどの効果を得ている。またより高い効果、多様な人々を受け入れるためのプログラムを充実させたい、一層の売上を上げることでより高い賃金を支払えるようにしたいということがあげられている。

縮小・止める理由：自治体からの委託料金・予算の確保が難しい、人材の配置が難しい、現場まで移動に時間がかかるといったことがあげられている。

○農業活動の取組みについての自由記述

各種の助成：農業者・団体と連携するため、事業所として実施するため、そして支援対象者のモチベーションを引き出せる賃金支払いのための助成金を期待している。

農業活動の問題点：「予算の確保や指導者の選定」「資材等の確保」「どうしても作業の進捗が利用者の方々の体調や気分によって変動してしまうが、一般農家の方々と同じようなレベルでの管理をすることを求められる」「農業活動は時期や天候に左右されることも多く、定期的な訓練には向いていないところがある」「農業法人や農園は、郊外に位置するところが多く、支援対象者の自宅から通うには不便である。公共交通機関を使用すると交通費が高くなる」「農業としては、ただ単に農作業するのではなくいいものを作るには、レベルを上げる必要(販売するには)がある。また人件費を賄うのは難しい」など、予算を確保すること、施設や資材の確保、農業を指導できる人材の確保があげられている。また就労訓練事業に関しては協力してもらっている農業者による理解を得ること、天候等に左右されない通年の農作業を確保すること、賃金の支払いや支援する側の人件費を賄うためには販売による収入を得ることなどが難しいとしている。

取組みの内容・効果：「すべて外部の農業者での「就労体験」との形で実施」「継続した実施」「県、市、JA、様々な機関と連携し農福連携に取り組んでいる」「農業法人のため、規模も大きく、合宿も含め、願っている」「次のステップとして個別に農家さんでの就業体験をさせていただける機会があれば、利用者にとっては「仕事」に近づける良い実践となる」「様々な種類の作業のある農業は、引きこもりがちの方には向いていることを選ぶことができる」「農業をした経験を活かして就農に向かうこと

ができます」「連携している農園での作業は就労訓練として非常に有意義」「外に出て農作業に従事しハウス等で体を動かすなどの訓練を行うことで、自然と体力がついた、疲れて眠れるようになった、お腹が減り食事を摂るようになった」「農作業をされている他者とのコミュニケーションをとることが出来自信をつけた」「生活困窮者自立支援事業で菜園作業に取り組むことはとても有意義であると実感している」など、農業でのさまざまな作業を提供すると共に、外部の農業者や地方自治体やJAなどと連携して実施し、規模の大きな理解のある農業法人で宿泊も含め取り組んでもらっているという。農業にはさまざまな作業があることから個々の状態に応じた支援が可能であり、体力回復、生活リズムの改善、他者とのコミュニケーション力向上に繋がっている。生活困窮者自立支援事業において農業活動に取り組むことは有意義であり、社会参加や就農にも有効であるということがあげられている。

## 【就労訓練事業実施者アンケート調査結果】

### 1. 事業内容と支援対象者の特性

○就労訓練事業の団体等の法人格は「社会福祉法人(社協を除く)」が51.1%と半数を占め、次いで「NPO法人」(22.2%)、「株式会社」(13.3%)である。

○実施団体等の取り組んでいる事業内容は、「障害福祉サービス事業」が35.6%、「介護保険事業」が26.7%であり、「その他」の内訳では生活困窮者や生活保護関係の事業が比較的多い。障害福祉および介護保険サービス事業を実施しているところが6割以上で、福祉関係の団体等が多い。

○支援対象者の特性は、コミュニケーション力が低い、ひきこもり状態の方、収入がない者が多い。または4割ほどが発達障害あるいは身体・知的・精神障害の可能性がある方という。

### 2. 農業分野等の取組み状況

○農業分野等の取組み状況をみると、「取り組んでいる」が約4割であり、今後取り組む予定や検討しているところは1割以上ある。

○農業分野等に取り組んでいない理由は、そもそも農林水産業を実施していないところが6.5割で、そのほかは農業分野等の技術がないが8割、施設・器具がないが6割を占めている。そして農業分野等に取り組むための課題については、指導できる人材確保、農地等の確保などが7割、資材確保が6割と、実施するには人材と農地・資材が必要ということがあげられている。

○これから取り組もうとしている団体等における農業分野等に取り組むための課題をみると、「地域との連携」(80.0%)、「体制の整備」(60.0%)などが上位を占め、地域内の農業・福祉関係者等との関係構築、実施するための体制が必要ということがあげられている。

○農業分野等の取組みを実施している団体等の開始したきっかけについてみると、「障害福祉サービス事業に取り組んでいたため」(47.4%)が最も多く、次いで「農福連携に可能性があると思ったため」(36.8%)、「農福連携に取り組みたかったため」(31.6%)などとなっている。既に障害者等の農福連携に取り組んでいたり、新たな農福連携の可能性などを抱き始めたところが多い。また1/4ほどが地域貢献や地域農業の活性化にも繋がることをイメージしている。

○取り組んでいる農業分野等の種類は、「農業活動」は18件(94.7%)であった。それ以外では「林業活動」は1件(5.3%)、「厚生労働省生活困窮者等の就農訓練事業」は2件(10.5%)で、農業活動がほとんどであった。

### 3. 農業活動の取組み経緯

○就労訓練事業を実施している団体等の農業活動の取組み開始時期は、「1年未満」が11.1%、「1～2年前」が22.2%であり、最近になって取り組むようになった団体が1/3を占める。

○取組みを開始したきっかけは、生活困窮者への効果がある(66.7%)、地域農業の活性化に繋がる(44.4%)、障害者の農福連携からヒントを得て(33.3%)の順となっている。農福連携にヒントを得て、農業活動による生活困窮者への効果を期待している。

#### 4. 農業活動の体制と参加者数

○農業活動の支援職員数(専任+兼任)は合計4人以下が7割超を占め、平均は4.8人である。専任職員を置いていない団体が38.9%を占めている。

○支援対象者のうち農業活動の参加者数は「1～2人」が27.8%、「3～4人」が16.7%であり、合わせて4人以下が44.5%を占めている。平均は10.7人である。

○農業活動参加者数の属性別構成をみると、性別では男性が73.4%、女性が26.6%、年代別では主として20代から50代まで(16.5%～27.3%)と幅広い。また無就業の期間別では「1年未満」から「6～10年間」まで(16.2%～23.5%)さまざまである。

#### 5. 農業活動の取組み内容

○農業活動の作業形態は、「農作業請負」が22.2%、「プログラムのために自主運営する農園作業」が50.0%、「農作業請負+プログラムのために自主運営する農園作業」が27.8%である。自主運営する農園でのプログラムによる作業が多い。

○作業内容は「種まき」から「収穫」「出荷調整」まで多岐にわたる。なかでも「草取り」は94.4%に達し、比較的高度なノウハウを必要とする「農薬散布」「給水」は少なくなっている。また畜産の取組みが少ないため「給餌」は少ない。

○加工・販売等の実施については「実施している」ところが7割を上回っている。加工・販売等の実施内容は販売が約6割、加工が約5割、飲食が約3割となっている。

○栽培している農産物等の種類は「野菜」が72.2%と圧倒的に多い。そのほか「果物」や「米」が27.8%となっている。就労準備支援事業に比べると比較的いろいろな種類を栽培している。

○農業活動の実施場所は「農地」が88.9%と圧倒的に多く、「ハウス」も55.6%に達する。

農地の種別は「借地」が68.8%、「自己所有地」が37.5%である。

○プログラム自主運営の農業活動についての農地面積等をみると、農地の場合1aに満たないものから400aまでさまざまであり、その多くは借地である。ハウスの場合は、1棟から2棟までで面積は概ね10aに満たない小さな規模が多い。

#### 6. 農業プログラムの実施状況

○日数の決まったプログラムの有無では、「ある(複数のプログラムがある)」が11.1%、「ある(1つのプログラムのみ)」が16.7%と3割弱である。またプログラムがある場合、その日数は「10日間以内」「61日～90日間」「91日以上」に分かれている。プログラムの期間は「通年ある」が61.1%、「期間が決まっている」が11.1%、「不定期」が16.7%となっている。

○作業時間の決め方は、「支援対象者によって時間は異なる」が約4割で、支援対象者の状態によって作業時間を決めるケースが多い。また標準的な作業時間は「1～2時間」が38.9%、「3～4時間」が27.8%で、長くても4時間以内が多数を占める。就労準備支援事業とほぼ同じ時間である。

#### 7. 支援対象者への金銭給付状況

○支援対象者への給付金は「給付している」が66.7%、「給付していない」が22.2%で、2/3が給付している。給付している場合の雇用形態は「非雇用型のみ」が最も多く66.7%、「雇用型のみ」が16.7%、「非雇用型+雇用型」が8.3%である。給付内容は「交通費」41.7%、「工賃(非雇用型)」が50.0%である。給付している工賃・賃金をみると、1時間当たりの平均工賃は主として200円～500円の範囲であり、最低賃金以上の賃金を支払っているところが27.3%(3か所)ある。給付対象は「全員に給付」が58.3%と最も多く、そのほか能力のある者や能力に応じて支払うのは25.0%となっている。

#### 8. 協力事業者での活動と保険への加入等

○支援対象者を受け入れてくれる外部の協力事業者において農業活動を「実施している」のは16.7%、「実施していない」が72.2%で、これは自主運営する農園でのプログラムが多いことによる。協力事業

者での活動を実施している団体は3件であるが、協力事業者への謝礼は支払っていると答えた団体はなかった。

○農業活動に当たって保険に「加入している」が77.7%に達する。加入している保険の種類は「人身傷害」、「物損」、「対人」が多い。

○支援対象者の農業活動で重視しているのは「他者とのコミュニケーションをなるべくとれるようにしている」(83.3%)と「働くことの充実感や楽しさを理解できるようにしている」(83.3%)への回答が飛びぬけて多い。次いで「個別に指導できるようにしている」(61.1%)、「成果が見えるようにしている(達成感を感じやすい)」(61.1%)、「個別に対応できる複数の農業活動プログラムがある」(50.0%)などが上位を占めている。コミュニケーション力や働くことの意欲を高めることを重視しており、そのために個別指導ができるようにしたり、プログラムを複数用意し、成果を見えやすくしているなどの工夫をしている。

## 9. 農業活動の実施による支援対象者の変化

○農業活動の実施による支援対象者の変化についてみると、「良くなった」の割合は<生活のリズム>と<コミュニケーション力>でそれぞれ66.7%に達している。そのほか<精神の状況>や<就労リズム>でも61.1%、<体の状況>や<繋がる人間関係者数(知人・友人等の付き合い人間関係の数)>でも55.6%となっており、農業活動の効果を認めている。生活・就労リズムが整い、精神や体の状況が改善し、繋がる人間関係者数やコミュニケーション力が増えている。

## 10. 今後の意向と課題

○農業活動についての今後の意向をみると、「現状維持」が38.9%、「拡大したい」が44.4%で、多くが取組みを拡大していきたいとしている。

○農業活動に取り組むに当たっての課題をみると、「予算確保」(50.0%)、「体制の整備」(44.4%)、「地域との連携」(33.3%)、「支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと」(33.3%)などが上位を占めている。就労準備支援事業と同様、予算確保と体制整備が必要であり、地域のさまざまな団体等と連携し、支援対象者に興味を持ってもらうことを主な課題としてあげている。

○今後の意向についての自由記述では、拡大したい理由に「体力向上、精神の安定が図れるだけでなく、農業への関心を引き出し、農業分野への就労へ繋がったケースも複数あった。農業を通じた支援には非常に可能性を感じる」「支援対象者の30～40%は、何らかの障害の可能性があり、土に触れること自体に効果があると思います」と前向きな声が多いものの、縮小したい理由に「支援活動はしたいと思いますが、損益を考えると予算の確保が難しい」、現状維持では「労働力の確保という面では助かっている部分はあるが、それ以外は正直、訓練プログラムをご本人に合わせて作っていくことがかなりの重荷です」とあり、効果を認めてはいるが損益の課題、支援に関する負担を感じているケースがみられる。

○農業活動の取組みについての自由記述をみると、「支援員に対する補助金があればもう少し丁寧な支援ができる」「専任で行う職員の確保が必要であると感じている」「しっかりと時間をとってプログラムや評価の仕方などに取り組める資金的な環境整備が求められます」「対象者には「お金」というモチベーション維持のアイテムが必要なので、事業者がもちだしている今のシステムでは、継続して対象者を引き受けるかどうかの選択に慎重になってしまいます」「利用者が満足いく工賃を稼ぐため、農業に携わる人材確保と専門的な知識を持った指導者がいる。現状は工賃を支払うだけの収入はなく、他の事業から繰り入れしている状況」と、ほとんどが支援をするためのプログラムを構築したり、実施するための人員確保のための資金、また支援対象者のモチベーションを引き出すための賃金・工賃給付のための支援が必要ということをあげている。就労訓練での事業収支、支援者への金銭給付が課題になっていることが窺える。

### Ⅲ.全国アンケート調査結果報告（就労準備支援事業）

#### ■調査実施概要

##### (1) 調査対象

就労準備支援事業を実施する自治体主管部局及び委託先

##### (2) 調査の方法

メールによる発信と返信

アンケート調査票の流れ

###### ①都道府県・指定都市・中核市の場合

厚生労働省→都道府県・指定都市・中核市（→委託先）→JA共済総合研究所

###### ②一般市の場合

厚生労働省→都道府県→一般市（→委託先）→JA共済総合研究所

##### (3) 配布先

自治体：47都道府県、20指定都市、60中核市、就労準備支援を実施している一般市

参考：自治体における就労準備支援事業の実施状況

資料：厚生労働省調べ（令和元年5月現在）

	N	実施 している	実施 していない	不明
都道府県	47	38	7	2
指定都市	20	20	0	0
中核市	60	51	9	0
一般市	779	382	397	0
計	906	491	413	2

注)一般市には東京23区、一部の町村を含む

就労準備支援事業委託先：自治体を通じて配布。

##### (4) 調査期間

令和2年12月15日から令和3年1月29日

##### (5) 調査内容

調査内容は下表の通り、回答は令和元年度の実績とした。

	調査項目	自治体 主管部局調査	就労準備支援 委託先調査
基礎票	①就労準備支援事業等の体制	○	○
	②支援対象者数とその特性	○	○
	③農業分野等の取組み状況	○	○
農業活動票	④農業活動の取組み経緯	○	○
	⑤農業活動の体制	○	○
	⑥農業活動の参加者数	○	○
	⑦農業活動の取組み内容	○	○
	⑧農業活動による支援対象者の変化	○	○
	⑨今後の意向と課題	○	○

自治体主管部局調査：②以降の項目は就労準備支援事業を直営で行っている団体について

農業活動票：就労準備支援事業として農業活動に取り組んでいる団体について

\*自治体主管部局調査の農業活動票（直営）は回答件数が少ないため、事例として巻末に掲示した。

\*林業活動票、水産業活動票も農業活動票と同様の項目について調査したが、回答件数が少ないため、事例として巻末に掲示した。

## (6) 用語の定義

### ①農業分野等：

農業活動、林業活動、水産業活動（水産加工を含む）など

### ②農福連携：

障害者・高齢者・生活困窮者等が農業活動に従事する取組み

### ③農業活動：

収入のための農産物生産を行う農業、訓練・生きがいづくり・健康づくり・社会参加等のためのゆるやか農業、自給・ケア・レクリエーション等のための農的活動

### ④林業活動：

収入のための木材を生産する仕事（苗づくり・植栽・下草刈り・枝打ち・つる刈り・除伐・伐・主伐・搬出・運搬・林道整備・林地残材処理・木材加工など）、訓練・生きがいづくり・健康づくり・社会参加・自給・ケア・レクリエーション等のための活動

### ⑥水産業活動：

漁業・水産物加工業、訓練・生きがいづくり・健康づくり・社会参加・自給・ケア・レクリエーション等のための活動

### ⑦生活困窮者：

自立相談支援窓口を通じて自立を目指す者

### ⑧団体等：

地方自治体より就労準備支援事業を受託、就労訓練事業の認定を受けている社会福祉法人・農業法人・個人事業主など

## (7) 回収票の構成

自治体主管部局調査（以下「自治体調査」という）の回収票数は262件、就労準備支援委託先調査（以下「委託先調査」という）の回収票数は208件であった。委託先の法人格は「NPO法人」、「社会福祉協議会」が多い。

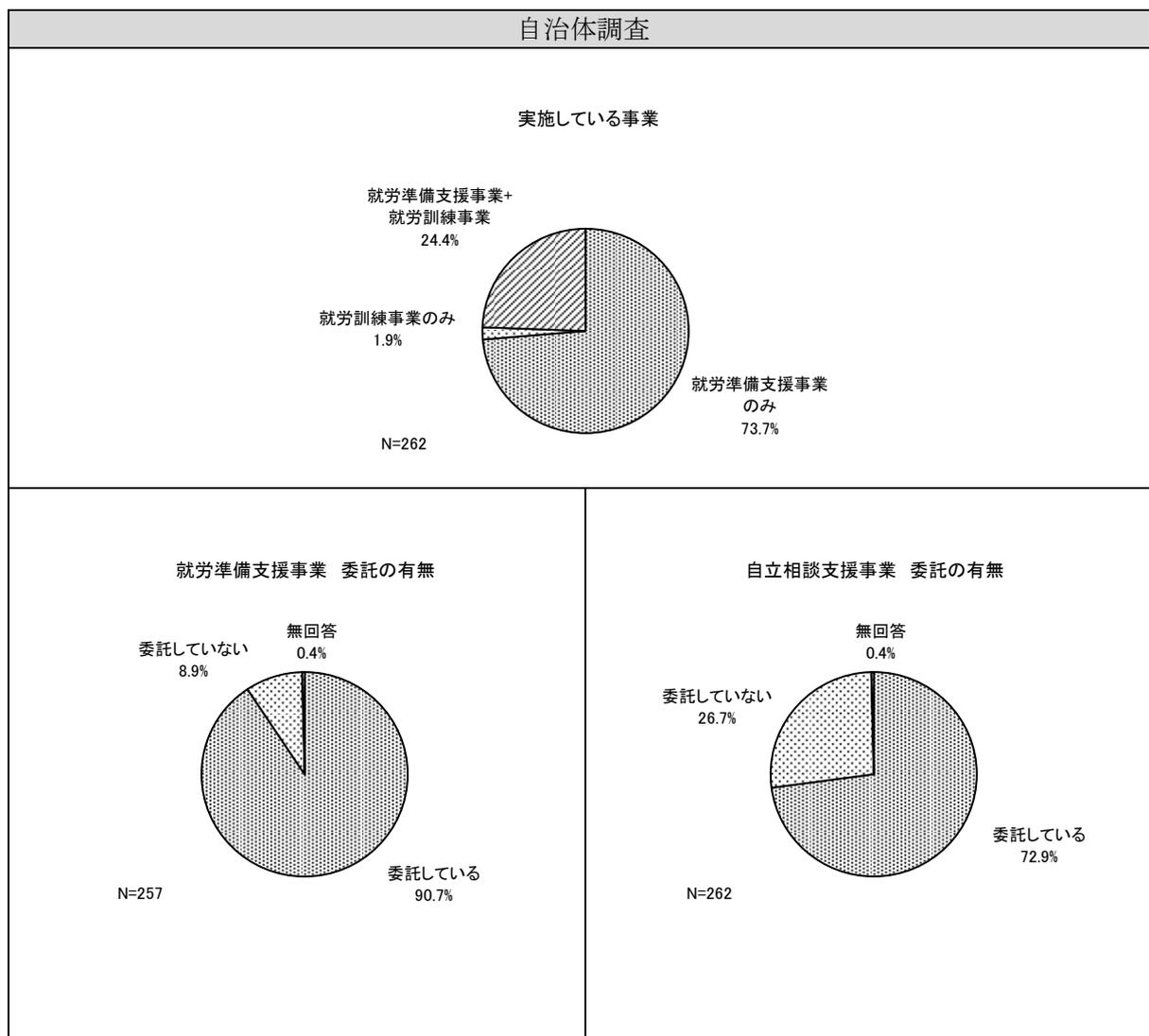
自治体調査			委託先調査		
回収票数(地方別)			回収票数(地方別)		
地方	回収票数 (件)	構成比 (%)	地方	回収票数 (件)	構成比 (%)
北海道	12	4.6	北海道	8	3.8
東北	17	6.5	東北	14	6.7
関東	62	23.7	関東	57	27.4
北陸・甲信越	18	6.9	北陸・甲信越	18	8.7
東海	27	10.3	東海	30	14.4
近畿	57	21.8	近畿	30	14.4
中国	25	9.5	中国	14	6.7
四国	13	5.0	四国	14	6.7
九州・沖縄	31	11.8	九州・沖縄	23	11.1
計	262	100.0	計	208	100.0
自治体区分			法人格		
	回収票数 (件)	構成比 (%)			
都道府県	24	9.2	<p style="text-align: right;">(%)</p> <p style="text-align: center;">N=208</p>		
指定都市	11	4.2			
中核市	33	12.6			
一般市	194	74.0			
計	262	100.0			
			社会福祉協議会	22.1	
			社会福祉法人(社協除く)	14.4	
			社団法人	4.3	
			財団法人	2.4	
			NPO法人	26.4	
			株式会社	17.3	
			その他	13.0	

# 1. 就労準備支援事業等の体制

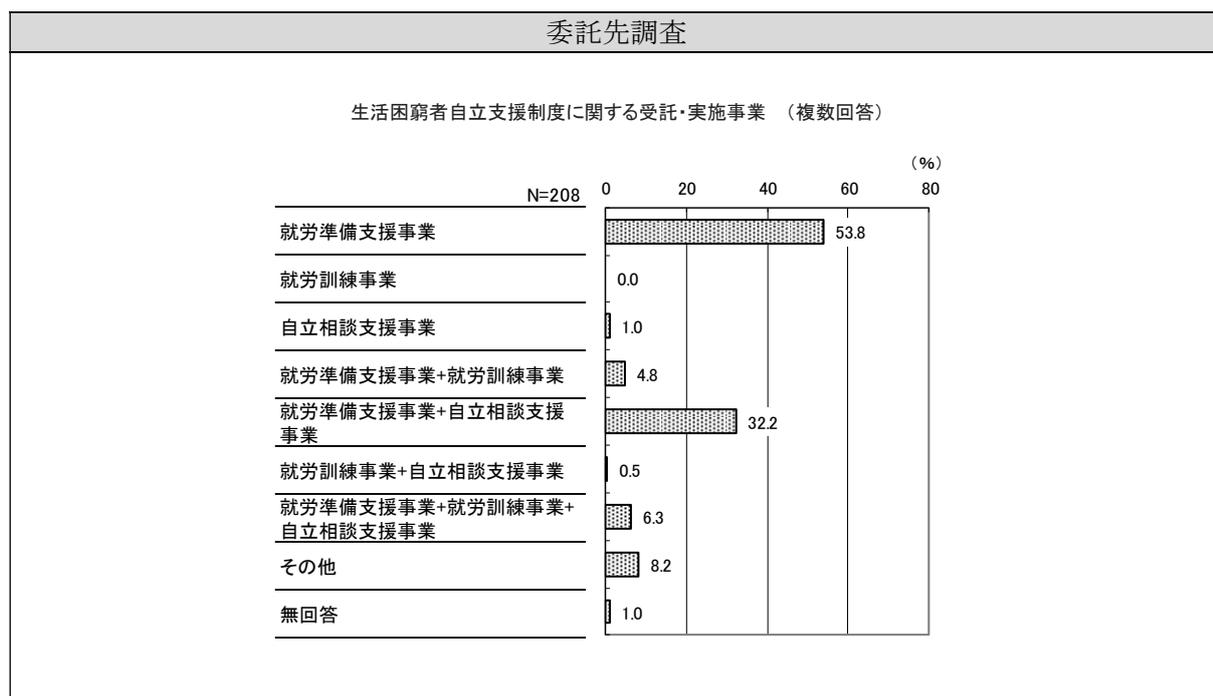
## (1) 事業内容

自治体調査では、事業内容は「就労準備支援事業のみ」が73.7%、「就労準備支援事業+就労訓練事業」が24.4%である。

就労準備支援事業の委託の有無をみると、「委託している」が90.7%に達しており、「委託していない」は8.9%にとどまる。自立相談支援事業の委託の有無をみると、「委託している」が72.9%、「委託していない」が26.7%となっている。



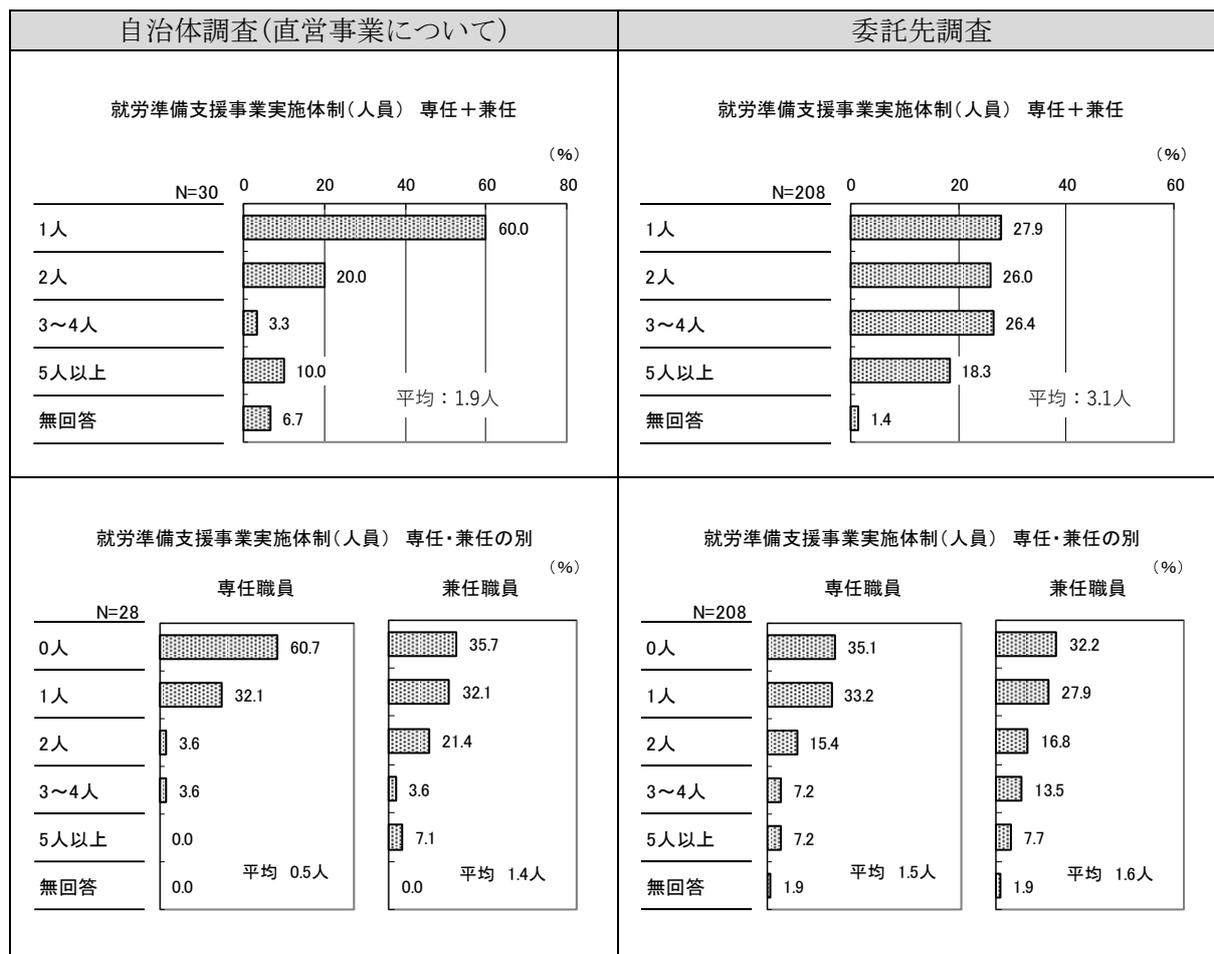
委託先調査では、生活困窮者自立支援制度に関する受託および実施する事業は、「就労準備支援事業」が53.8%、「就労準備支援事業+自立相談支援事業」が32.2%である。



## (2) 実施体制 (人員)

自治体調査では、就労準備支援事業(直営)の実施体制(専任+兼任)は「1人」が60.0%、「2人」が20.0%であり、平均は1.9人である。専任・兼任の別でみると、専任職員が「0人」、つまり専任職員は置かず兼任職員だけの自治体も60.7%を占める。専任職員数の平均は0.5人、兼任職員数の平均は1.4人であり、専任職員よりも兼任職員の方が多い。

委託先調査では、就労準備支援事業の実施体制は(専任+兼任)は「1人」から「3～4人」まで広く分布しており、平均は3.1人である。専任・兼任の別でみると、専任職員が「0人」は35.1%である。専任職員数の平均は1.5人、兼任職員数の平均は1.6人であり、専任職員と兼任職員の数がほぼ同数である。



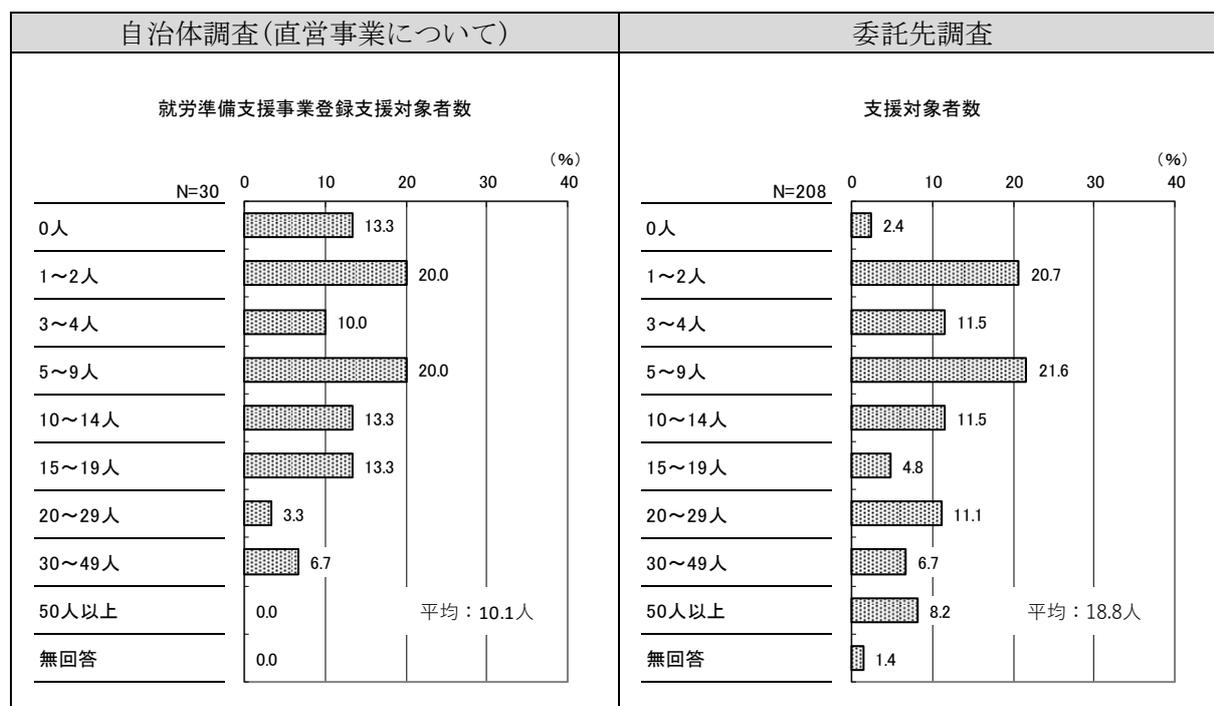
## 2. 支援対象者数とその特性

### (1) 支援対象者数

自治体調査では、就労準備支援事業（直営）の支援対象者数は「1～9人」が50%を占め、平均は10.1人である。

委託先調査では、支援対象者数は「1～9人」が53.8%を占め、平均は18.8人である（法人によっては1つの事業所単位だけでなく、広域ブロック等事業所単位での重複回答があるため人数が多くなっている）。

注) 令和元年度の実績で回答を求めたため、「実績なし」の場合は「0人」とした。



## (2) 支援対象者の属性別構成

自治体調査をみると、支援対象者数の属性別構成は、性別では男性：女性の割合はほぼ2：1、年代別では10代から60代まで幅広く、無就業の期間別では「1年未満」から「11年間以上」まで分散している。

委託先調査をみると、支援対象者数の属性別構成は、性別では男性：女性の割合はほぼ2：1、年代別では10代から60代まで幅広く、無就業の期間別では「1年未満」から「11年間以上」まで分散している。

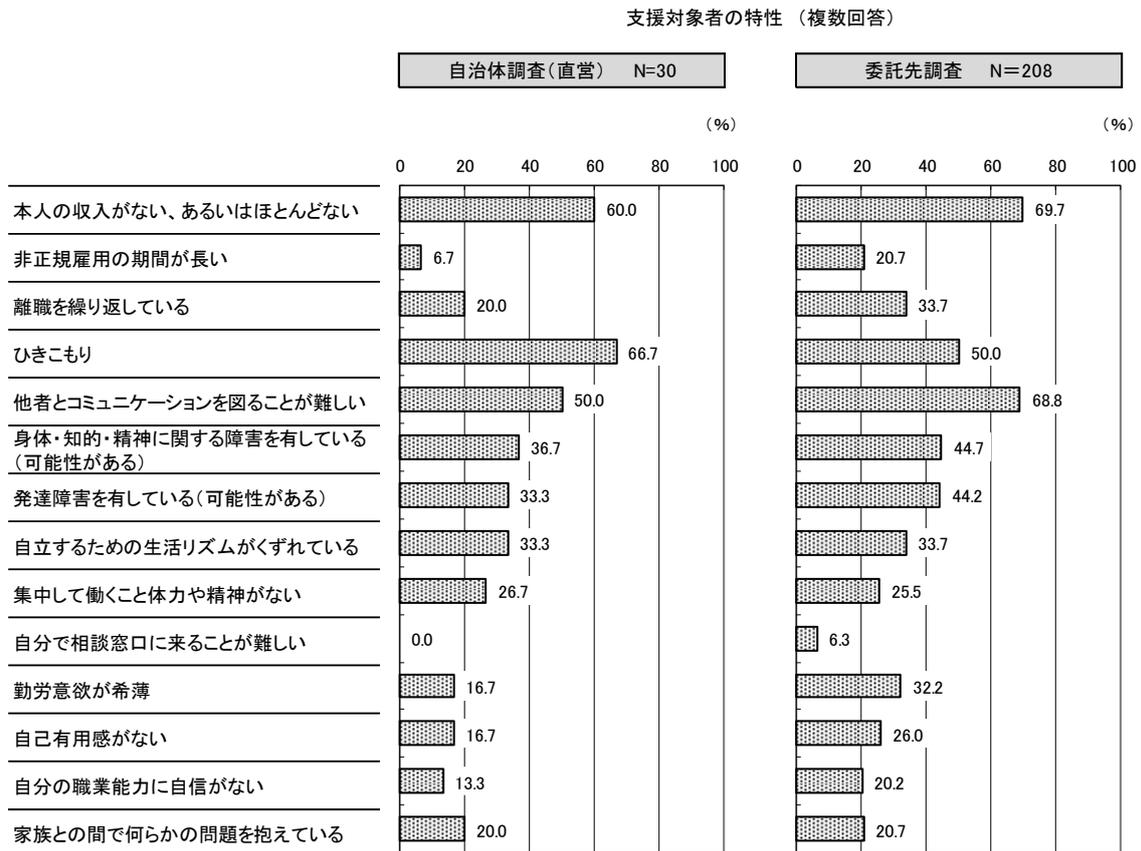
支援対象者の属性別構成は、自治体調査と委託先調査との間に大きな差はみられない。

自治体調査(直営事業について)			委託先調査																																																														
<p>登録支援対象者数（性別）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一自治体当たり 支援対象者数 (人)</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N=26</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>男性</td> <td>6.7</td> <td>66.8</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>3.3</td> <td>33.2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10.1</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				一自治体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)	N=26			男性	6.7	66.8	女性	3.3	33.2	計	10.1	100.0	<p>支援対象者数（性別）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一団体当たり 支援対象者数 (人)</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N=200</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>男性</td> <td>12.9</td> <td>68.4</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>5.9</td> <td>31.6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18.8</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				一団体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)	N=200			男性	12.9	68.4	女性	5.9	31.6	計	18.8	100.0																														
	一自治体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)																																																															
N=26																																																																	
男性	6.7	66.8																																																															
女性	3.3	33.2																																																															
計	10.1	100.0																																																															
	一団体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)																																																															
N=200																																																																	
男性	12.9	68.4																																																															
女性	5.9	31.6																																																															
計	18.8	100.0																																																															
<p>登録支援対象者数（年代別）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一自治体当たり 支援対象者数 (人)</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N=26</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10代</td> <td>0.8</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>20代</td> <td>2.2</td> <td>21.4</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>2.0</td> <td>20.2</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>2.5</td> <td>24.8</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>1.8</td> <td>17.6</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>0.7</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td>70代以上</td> <td>0.1</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10.1</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				一自治体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)	N=26			10代	0.8	8.4	20代	2.2	21.4	30代	2.0	20.2	40代	2.5	24.8	50代	1.8	17.6	60代	0.7	6.5	70代以上	0.1	1.1	計	10.1	100.0	<p>支援対象者数（年代別）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一団体当たり 支援対象者数 (人)</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N=200</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10代</td> <td>0.6</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>20代</td> <td>3.4</td> <td>18.0</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>3.6</td> <td>19.2</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>5.1</td> <td>27.2</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>4.4</td> <td>23.3</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>1.4</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td>70代以上</td> <td>0.4</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18.8</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				一団体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)	N=200			10代	0.6	3.0	20代	3.4	18.0	30代	3.6	19.2	40代	5.1	27.2	50代	4.4	23.3	60代	1.4	7.3	70代以上	0.4	1.9	計	18.8	100.0
	一自治体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)																																																															
N=26																																																																	
10代	0.8	8.4																																																															
20代	2.2	21.4																																																															
30代	2.0	20.2																																																															
40代	2.5	24.8																																																															
50代	1.8	17.6																																																															
60代	0.7	6.5																																																															
70代以上	0.1	1.1																																																															
計	10.1	100.0																																																															
	一団体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)																																																															
N=200																																																																	
10代	0.6	3.0																																																															
20代	3.4	18.0																																																															
30代	3.6	19.2																																																															
40代	5.1	27.2																																																															
50代	4.4	23.3																																																															
60代	1.4	7.3																																																															
70代以上	0.4	1.9																																																															
計	18.8	100.0																																																															
<p>登録支援対象者数（無就業の期間別）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一自治体当たり 支援対象者数 (人)</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N=26</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1年未満</td> <td>1.9</td> <td>19.1</td> </tr> <tr> <td>1～3年間</td> <td>1.6</td> <td>15.6</td> </tr> <tr> <td>4～5年間</td> <td>0.7</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td>6～10年間</td> <td>1.2</td> <td>11.5</td> </tr> <tr> <td>11年間以上</td> <td>3.2</td> <td>31.3</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>1.6</td> <td>15.6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10.1</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				一自治体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)	N=26			1年未満	1.9	19.1	1～3年間	1.6	15.6	4～5年間	0.7	6.9	6～10年間	1.2	11.5	11年間以上	3.2	31.3	不明	1.6	15.6	計	10.1	100.0	<p>支援対象者数（無就業の期間別）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一団体当たり 支援対象者数 (人)</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N=183</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1年未満</td> <td>4.3</td> <td>22.4</td> </tr> <tr> <td>1～3年間</td> <td>3.8</td> <td>19.8</td> </tr> <tr> <td>4～5年間</td> <td>1.5</td> <td>7.9</td> </tr> <tr> <td>6～10年間</td> <td>2.5</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>11年間以上</td> <td>3.5</td> <td>18.5</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>3.5</td> <td>18.5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>19.1</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				一団体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)	N=183			1年未満	4.3	22.4	1～3年間	3.8	19.8	4～5年間	1.5	7.9	6～10年間	2.5	13.0	11年間以上	3.5	18.5	不明	3.5	18.5	計	19.1	100.0						
	一自治体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)																																																															
N=26																																																																	
1年未満	1.9	19.1																																																															
1～3年間	1.6	15.6																																																															
4～5年間	0.7	6.9																																																															
6～10年間	1.2	11.5																																																															
11年間以上	3.2	31.3																																																															
不明	1.6	15.6																																																															
計	10.1	100.0																																																															
	一団体当たり 支援対象者数 (人)	構成比 (%)																																																															
N=183																																																																	
1年未満	4.3	22.4																																																															
1～3年間	3.8	19.8																																																															
4～5年間	1.5	7.9																																																															
6～10年間	2.5	13.0																																																															
11年間以上	3.5	18.5																																																															
不明	3.5	18.5																																																															
計	19.1	100.0																																																															

### (3) 支援対象者の特性

自治体調査をみると、支援対象者の特性は「ひきこもり(状態の方)」(66.7%)が最も多く、次いで「本人の収入がない、あるいはほとんどない」(60.0%)、「他者とコミュニケーションを図ることが難しい」(50.0%)の順となっている。

委託先調査においても、自治体調査と同様、「本人の収入がない、あるいはほとんどない」(69.7%)、「他者とコミュニケーションを図ることが難しい」(68.8%)、「ひきこもり(状態の方)」(50.0%)などが上位を占めている。

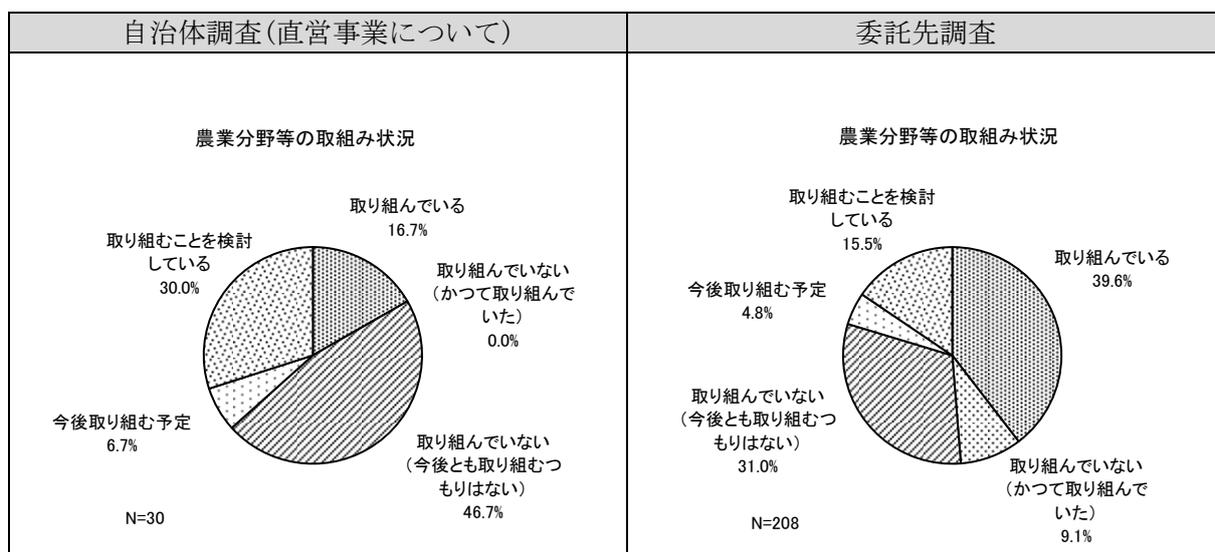


### 3. 農業分野等の取組み状況

#### (1) 農業分野等の取組み状況

農業分野等の取組み状況をみると、自治体調査では「取り組んでいる」が16.7%であり、「今後取り組む予定」(6.7%)、「取り組むことを検討している」(30.0%)など前向きな自治体も4割近くに達している。

委託先調査では「取り組んでいる」が39.6%、「今後取り組む予定」(4.8%)、「取り組むことを検討」(15.5%)となっている。「取り組んでいる」との回答を属性別にみると、受託事業別では「就労訓練あり」の団体の場合62.5%と高い。また担当職員数や支援対象者数が多いほど高い傾向もみられる。



委託先調査		農業分野等の取組み状況 (属性別)						(%) N=
		取り組んでいる	取り組んでいない(かつて取り組んでいた)	取り組んでいない(今後とも取り組むつもりはない)	今後取り組む予定	取り組むことを検討している	無回答	
受託事業	就労準備支援	45.5	0.9	27.7	3.6	14.3		112
	就労準備支援 + 自立相談支援	20.9	7.5	44.8	7.5	17.9		67
	就労訓練あり	62.5	0.0	0.0	0.0	16.7		24
(専任+兼任) 職員数	1~2人	33.0	10.7	36.6	4.5	15.2		112
	3~4人	46.0	9.1	27.3	1.8	21.8		55
	5人以上	55.3	0.0	5.3	21.1	10.5	0.3	38
支援対象者数	1~4人	31.3	10.4	29.9	6.0	22.4		67
	5~9人	46.7	0.0	6.7	33.3	4.4	0.9	45
	10人以上	43.2	10.2	28.4	4.5	13.6		88

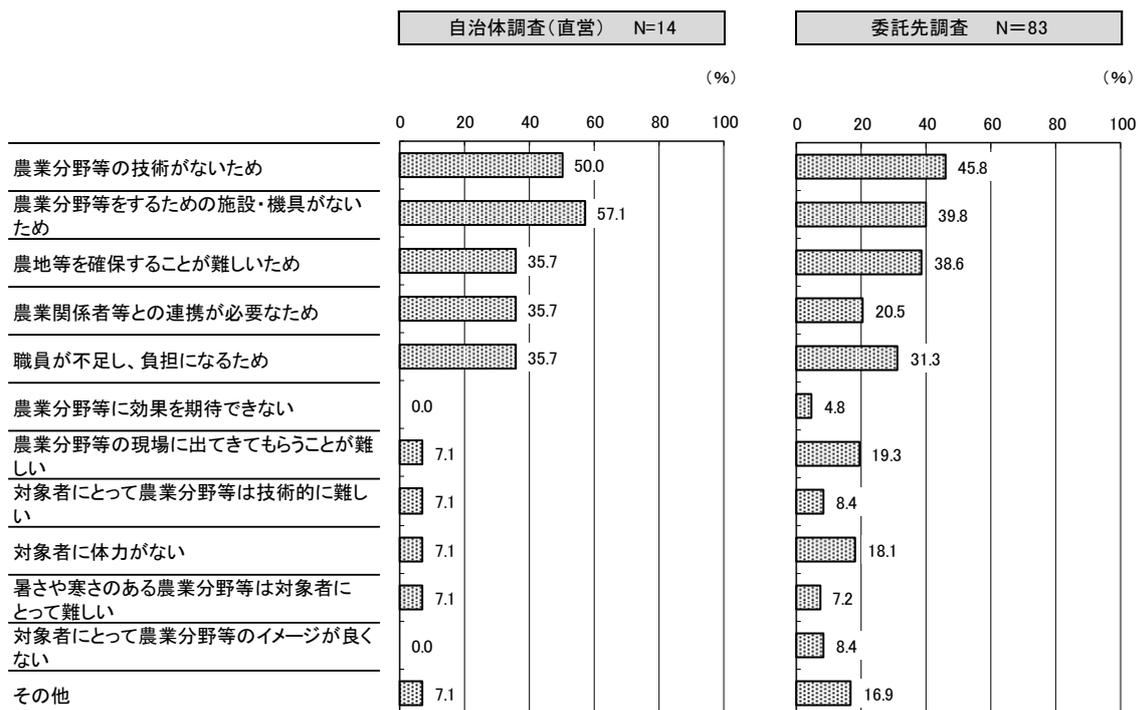
\*「就労訓練あり」:「就労準備支援+就労訓練」、「就労準備支援+就労訓練+自立相談支援」などを含む

(2) 農業分野等に取り組んでいない理由・課題（農業分野等に取り組んでいない団体について）

農業分野等に取り組んでいない理由をみると、自治体調査では「農業分野等をするための施設・器具がないため」(57.1%)、「農業分野等の技術がないため」(50.0%)、「農地等を確保することが難しいため」(35.7%)、「農業関係者等との連携が必要なため」(35.7%)、「職員が不足し、負担になるため」(35.7%)などが上位を占めている。

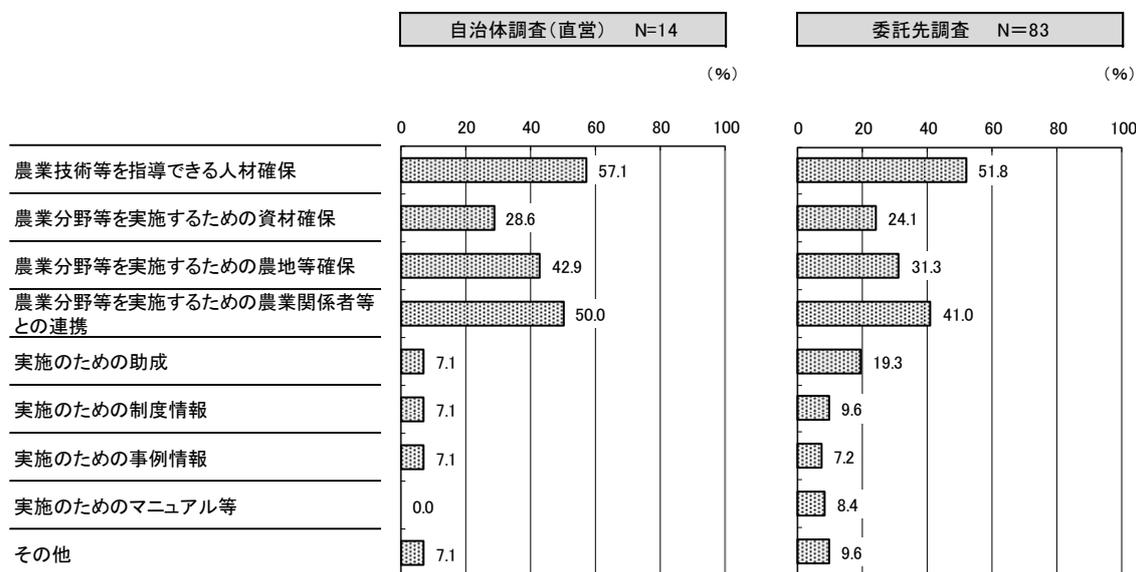
委託先調査においても自治体調査と同様の項目が上位を占め、農業分野等との関係の薄さや職員不足が取組みの阻害要因となっている。

農業分野等に取り組んでいない理由（複数回答）



農業分野等に取り組むための課題をみると、自治体調査では「農業技術等を指導できる人材確保」(57.1%)、「農業分野等を実施するための農業関係者等との連携」(50.0%)、「農業分野等を実施するための農地等確保」(42.9%)、「農業分野等を実施するための資材確保」(28.6%)などが上位を占めている。委託先調査においても自治体調査と同様の項目が上位を占めている。

農業分野等に取り組むための課題（複数回答）

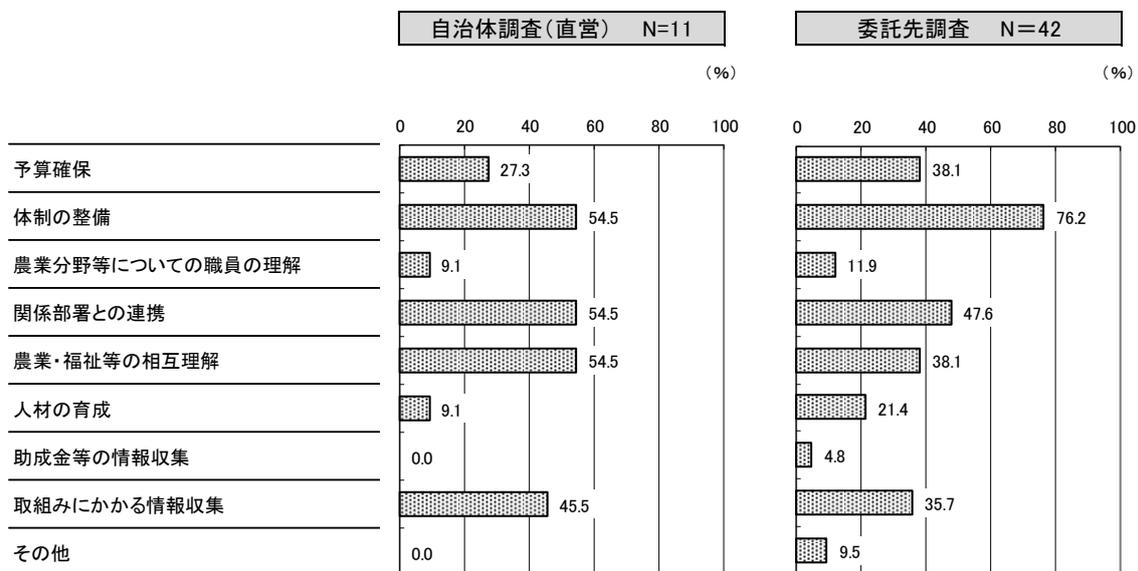


(3) 農業分野等に取り組むに当たっての課題（農業分野等に取り組もうとしている団体について）

農業分野等に取り組むに当たっての課題をみると、自治体調査では「体制の整備」(54.5%)、「関係部署との連携」(54.5%)、「農業・福祉等の相互理解」(54.5%)などが上位を占めている。

委託先調査でも自治体調査とほぼ同様の項目が上位を占めているが、「体制の整備」(76.2%)が飛びぬけていることや「予算確保」(38.1%)への回答が多いことが委託先の回答の特徴となっている。

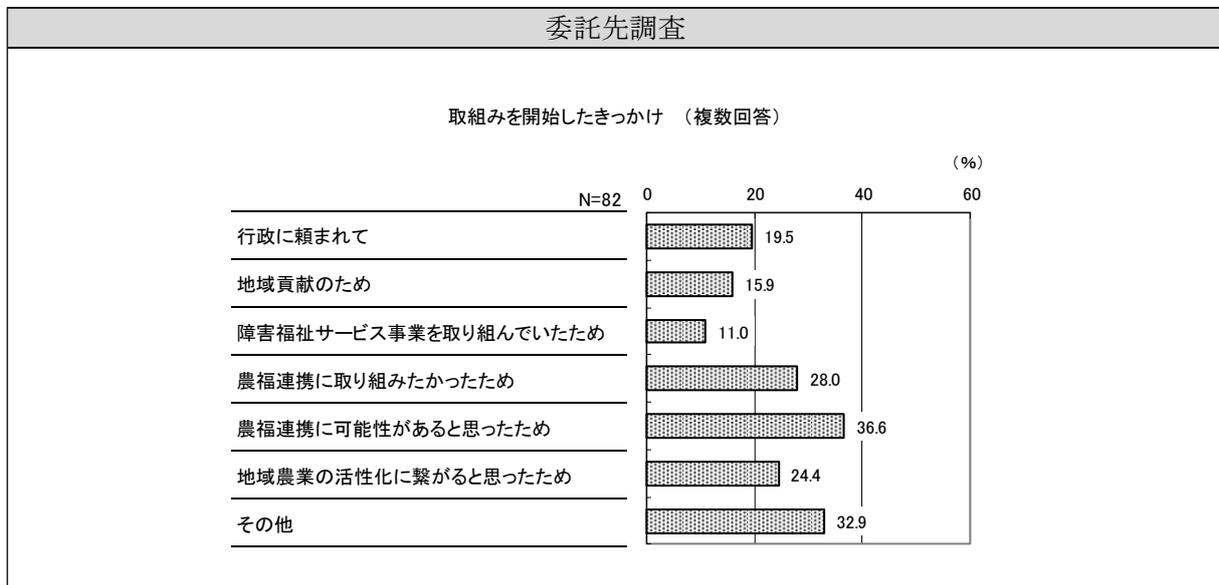
農業分野等に取り組むに当たっての課題（複数回答）



(4) 農業分野等の取組みを開始したきっかけ（農業分野等に取り組んでいる団体について）

農業分野等の取組みを開始したきっかけを委託先調査でみると、「農福連携に可能性があると思ったため」(36.6%)が最も多く、次いで「農福連携に取り組みたかったため」(28.0%)、「地域農業の活性化に繋がるといったため」(24.4%)、「行政に頼まれて」(19.5%)の順となっている。

農業分野等の取組みを開始したきっかけについて「その他」の内訳をみると、「支援対象者への効果、必要性」、「支援プログラムの一環、支援メニューの多様化」などに関する記述がみられる。



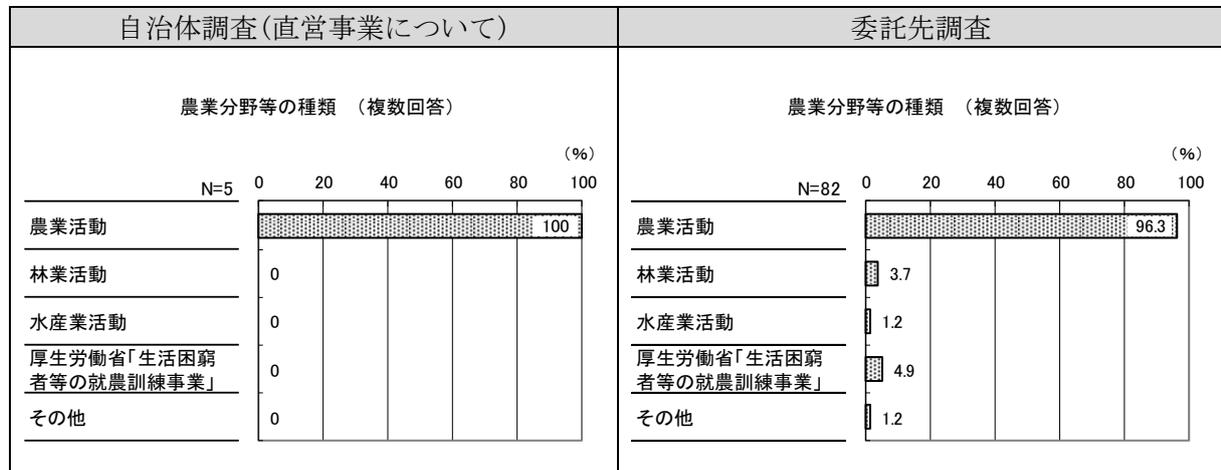
取組みを開始したきっかけ 「その他」の内訳

支援対象者への効果、必要性
支援対象者に有効な支援と判断したため
生活能力・コミュニケーション能力育成に有効であると考えたため
作物を育てることを通して、利用者に「何かしてみよう」という気持ちを持ってもらえると考えたため
農業に携わると精神的に活性化される効果が出るため
農作業による精神・体調など健康回復や就労意欲喚起等の効果を期待
支援対象者に農業経験という強みがあったことから、自己有用感を高めてもらい、地域とつながるきっかけにしようとしたため
就労準備に必要な様々な経験を積み、参加される方の変化が期待できたため
一般企業で働く以前の状態の方に対して能力の判断、定期的な対応が必要なため
支援プログラムの一環、支援メニューの多様化など
就労準備プログラムの一環として
認定訓練、就労準備支援事業実施のため
若者就業サポートステーションで以前から就労体験として取り入れていたため
多様なプログラムの一つとして
支援メニュー拡充のため
体力増進、コミュニケーション力の向上等を目的とする支援プログラムの一環
その他
就労できない人たちの居場所作りのため
もともと施設利用者の作業支援として野菜作り、花作りを行っていた
もともと他の事業(若者の就労支援)で実施していた
お茶の生産に取り組んでいたため
支援対象者に合った就労ができる可能性があったため
支援対象者の希望
日払いの可能性があったため
農事組合法人の人手不足と対象者のコミュニケーション、体力の向上がマッチした
市全体で農福連携に取り組んでいるため

(5) 農業分野等の種類（農業分野等に取り組んでいる団体について）

農業分野等の種類を具体的にみると、自治体調査では「農業活動」は5件（100%）、それ以外の「林業活動」、「水産業活動」、「厚生労働省生活困窮者等の就農訓練事業」は皆無であった。

委託先調査では「農業活動」は79件（96.3%）、「林業活動」は3件（3.7%）、「水産業活動」は1件（1.2%）、「厚生労働省生活困窮者等の就農訓練事業」は4件（4.9%）であった。



#### 4. 農業活動の取組み経緯

##### (1) 回収票の構成

就労準備支援事業委託先調査のうち農業活動票に回答が得られたのは81件である。

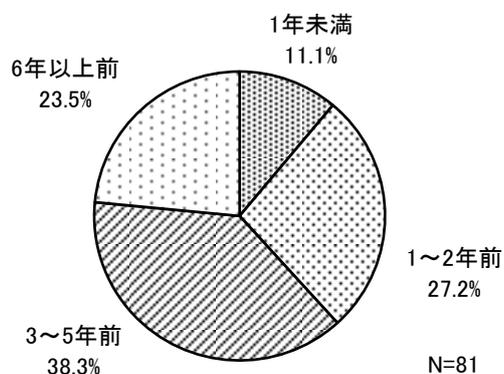
回収票数(地方別)

地方	回収票数 (件)	構成比 (%)
北海道	2	2.5
東北	5	6.2
関東	17	21.0
北陸・甲信越	8	9.9
東海	7	8.6
近畿	13	16.0
中国	7	8.6
四国	9	11.1
九州・沖縄	13	16.0
計	81	100.0

##### (2) 取組み開始経緯

農業活動の取組み開始時期は、「1年未満」が11.1%、「1～2年前」が27.2%であり、最近になって取り組むようになった団体が4割近くを占める。

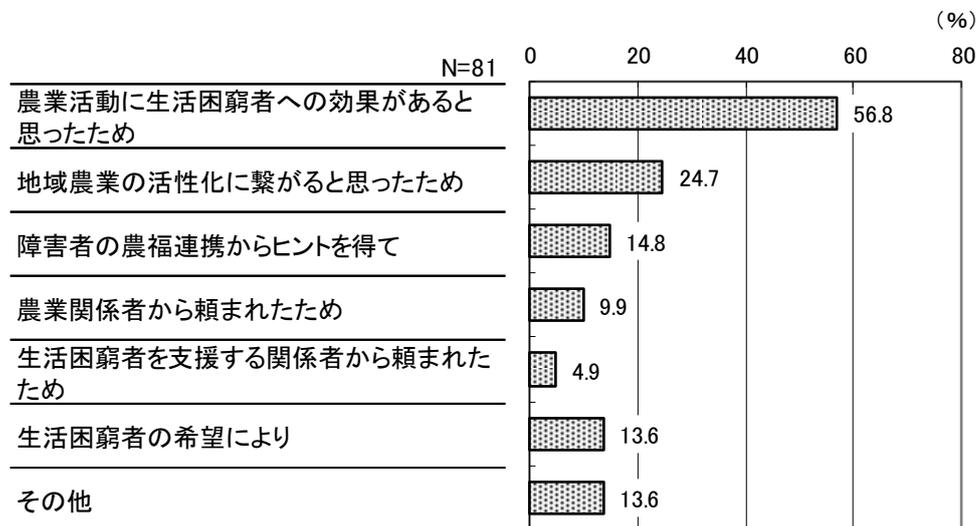
農業活動 取組み開始時期



### (3) 取組みを開始したきっかけ

取組みを開始したきっかけは、「農業活動に生活困窮者への効果があると思ったため」(56.8%)が飛びぬけて多い。

農業活動 取組みを開始したきっかけ (複数回答)



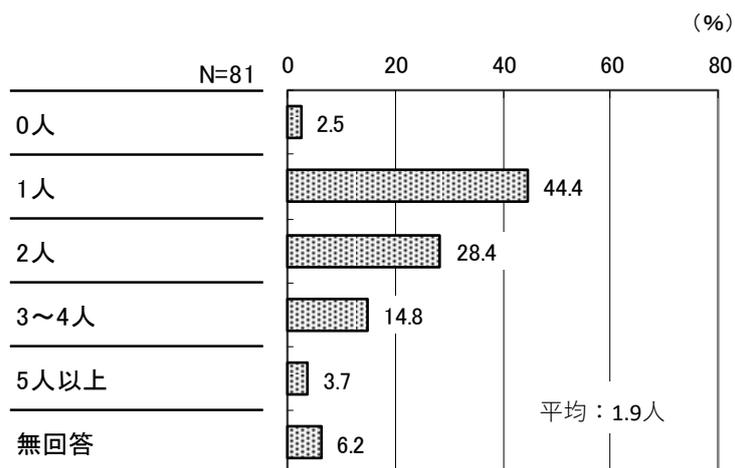
## 5. 農業活動の体制と参加者数

### (1) 農業担当の支援職員数

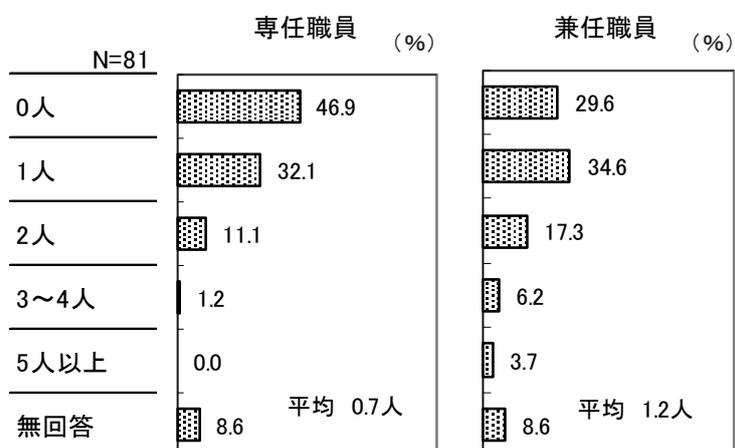
農業担当の支援職員数（専任+兼任）は「1人」（44.4%）が最も多く、次いで「2人」（28.4%）、「3～4人」（14.8%）の順となっている。職員数は多くても2人の体制の団体が多数を占めている。平均は1.9人である。

専任、兼任の別でみると、専任職員が「0人」が46.9%を占めており、半数近くの団体は農業担当の専任職員を置かず兼任職員だけの体制となっている。

農業担当の支援職員数（専任+兼任）



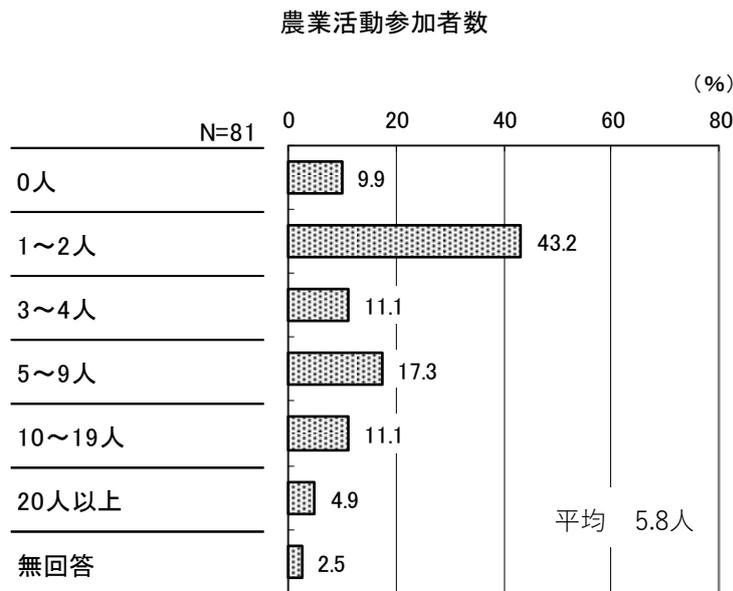
農業担当の支援職員数 専任・兼任の別



## (2) 農業活動の参加者数

支援対象者のうち農業活動の参加者は「1～2人」が43.2%と最も多く、「3～4人」の11.1%を合計すると5人に満たない少数人数での実施が半数を上回る。一方、「10～19人」(11.1%)、「20人以上」(4.9%)など多人数で実施する団体も一定数ある。平均参加者数は5.8人である。

就労準備支援対象者数に占める農業活動参加者数の割合をみると、支援対象者数が「1～4人」では68.0%であるのに対し、「30人以上」では11.8%に過ぎない。農業活動への参加者数は必ずしも支援者対象者数の規模に比例して拡大するわけではないことを示している。



就労準備支援対象者数に占める農業活動参加者数の割合

	N (件)	①	②	②÷①×100	
		就労準備支援 対象者数 (人)	農業活動 参加者数 (人)	割合 (%)	
支援 対象 者 数	1～4人	21	50	34	68.0
	5～9人	19	128	45	35.2
	10～19人	10	128	54	42.2
	20～29人	9	205	56	27.3
	30人以上	16	1,567	185	11.8
計	75	2,078	374		18.0

### (3) 農業活動参加者の属性別構成

農業活動参加者の属性別構成をみると、性別では男性が73.9%、女性が26.1%、年代別では20代から60代まで幅広い構成となっている。無就業の期間別では「1年未満」から「11年間以上」まで分散している。

農業活動参加者数（性別）

N=71	一団体当たり 参加者数	構成比
	(人)	(%)
男性	4.3	73.9
女性	1.5	26.1
計	5.8	100.0

農業活動参加者数（年代別）

N=71	一団体当たり 参加者数	構成比
	(人)	(%)
10代	0.2	2.9
20代	1.0	18.0
30代	1.0	17.8
40代	1.5	26.3
50代	1.4	24.1
60代	0.5	9.5
70代以上	0.1	1.2
計	5.8	100.0

農業活動参加者数（無就業の期間別）

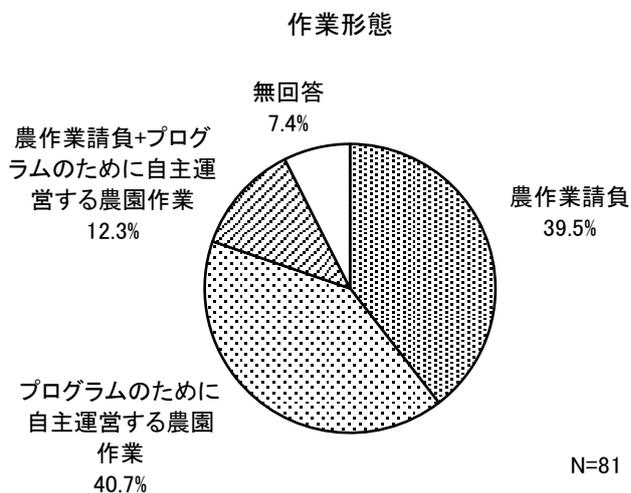
N=65	一団体当たり 参加者数	構成比
	(人)	(%)
1年未満	1.2	20.8
1～3年間	1.2	21.0
4～5年間	0.5	9.2
6～10年間	1.1	19.3
11年間以上	1.1	18.8
不明	0.6	10.9
計	5.9	100.0

## 6. 農業活動の取り組み内容

### (1) 作業形態

農業活動の作業形態は、「農作業請負」が39.5%、「プログラムのために自主運営する農園作業」が40.7%、「農作業請負+プログラムのために自主運営する農園作業」が12.3%である。

作業形態を農業活動参加者数別にみると、参加者数の少ない農業活動では「農作業請負」の割合が高いが、逆に参加者数の多い農業活動では「プログラムのために自主運営する農園作業」の割合が高い。



作業形態（農業活動参加者数別）

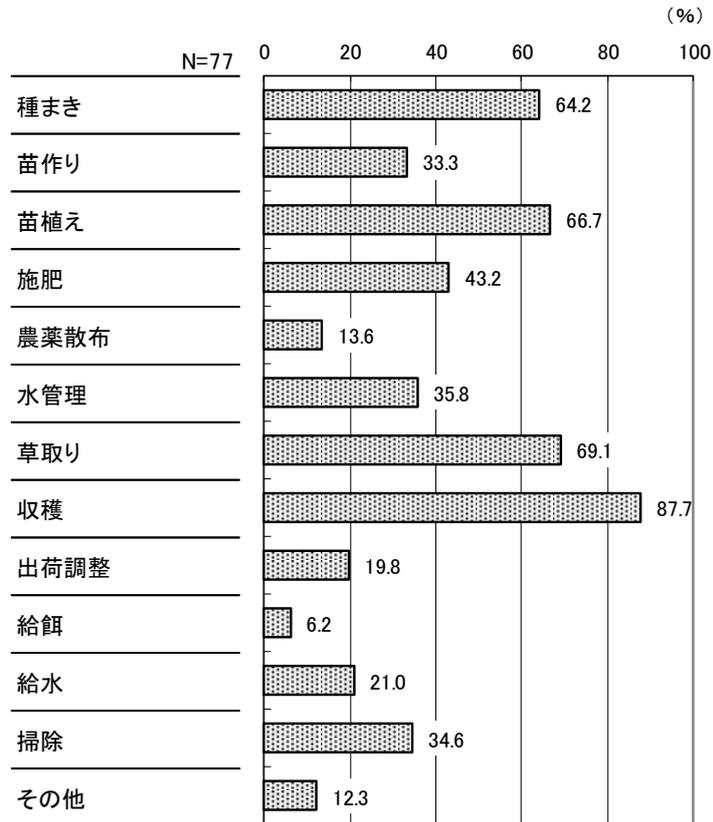
	農作業請負	プログラムのために自主運営する農園作業	農作業請負+プログラムのために自主運営する農園作業	無回答	N=
	(%)				
1~4人	45.5	38.6	11.4	4.5	44
5~9人	50.0	28.6	14.3	7.1	14
10人以上	23.1	53.8	15.4	7.7	13

## (2) 作業内容

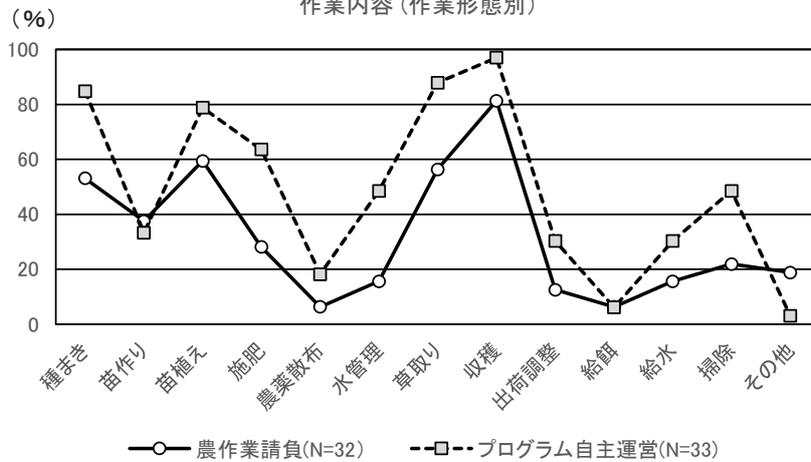
作業内容は「種まき」、「苗植え」、「草取り」、「収穫」などプロセスにおける一連の取組みがみられるが、中でも「収穫」は87.7%に達する。逆に取組みの少ない作業は「農薬散布」、「給餌」などである。

作業内容を作業形態別にみると、＜プログラム自主運営＞の場合、ほとんどの作業において＜農作業請負＞よりも取組みの割合が高い。プログラム自主運営においては一連の農作業を通しての取組みが多く、逆に農作業請負は作業内容を絞っての取組みが多いという傾向を示唆している。

作業内容（複数回答）



作業内容（作業形態別）

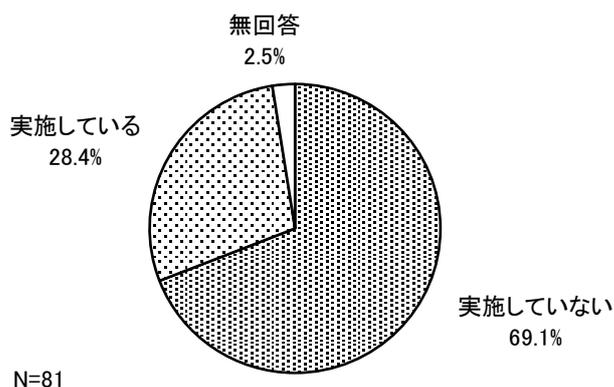


### (3) 加工・販売等の実施状況

加工・販売等の実施については「実施している」が28.4%、「実施していない」が69.1%である。これを農業活動参加者数別にみると、<10人以上>では「実施している」割合がやや高い。

作業形態別にみると、「実施している」の割合は<農作業請負>の場合12.5%であるが、<プログラム自主運営>は36.4%、<農作業請負+プログラム自主運営>は50.0%であり、プログラム自主運営を行う場合、加工・販売等まで実施するケースが少なくない。

加工・販売等 実施の有無

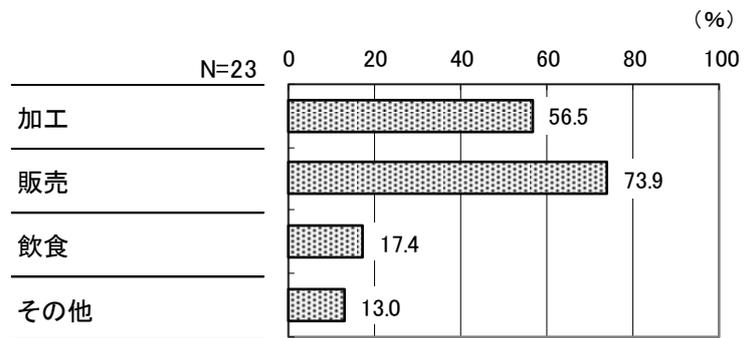


加工・販売等 実施の有無 (属性別)

		実施していない	実施している	無回答	(%)	N=
参加者数	1~4人	70.5	29.5			44
	5~9人	71.4	28.6			14
	10人以上	53.8	38.5			13
作業形態	農作業請負	87.5	12.5			32
	プログラム自主運営	60.6	36.4			33
	農作業請負+プログラム自主運営	50.0	50.0			10

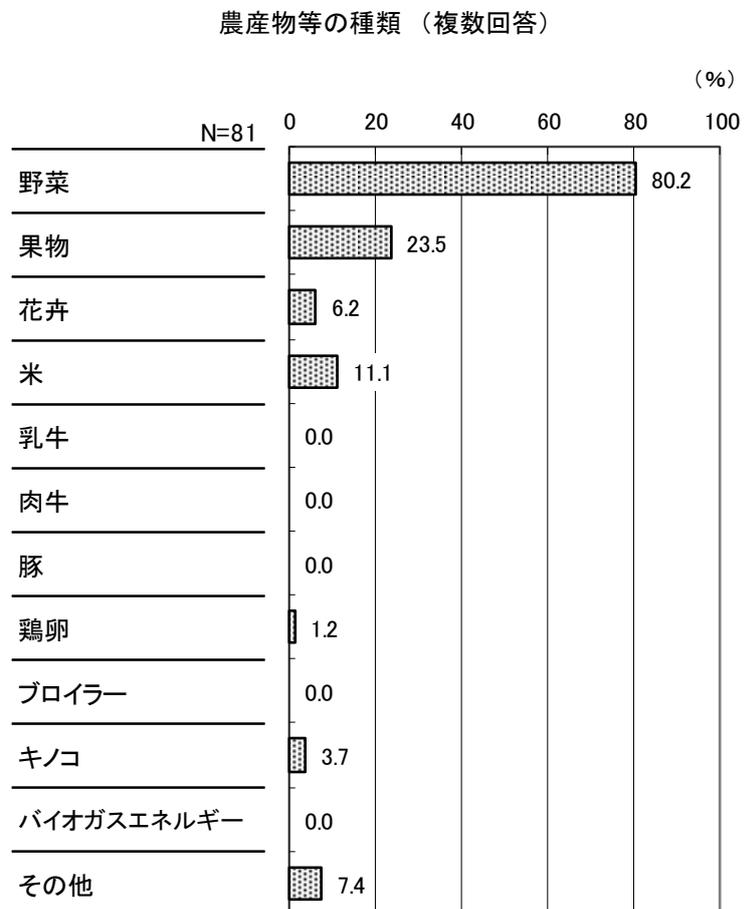
加工・販売等の実施内容は「販売」(73.9%)と「加工」(56.5%)が多く、「飲食」は比較的少ない。

加工・販売等 実施内容 (複数回答)



#### (4) 農産物等の種類

農産物等の種類は「野菜」が80.2%と圧倒的に多い。そのほか「果物」、「米」、「花卉」などへの取組みもある。

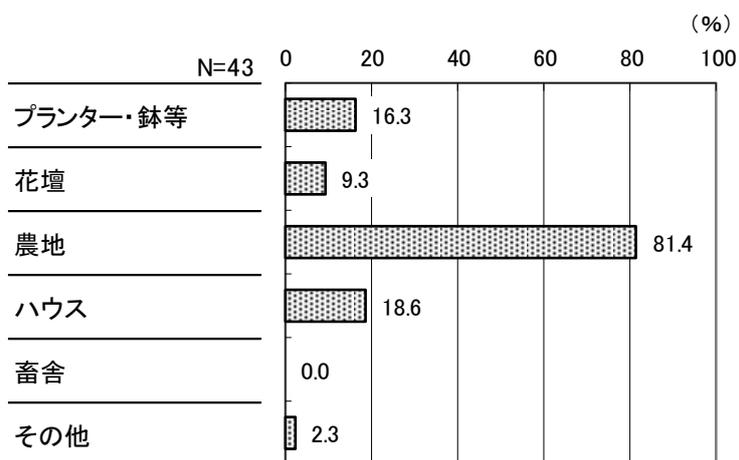


### (5) 農業活動の実施場所

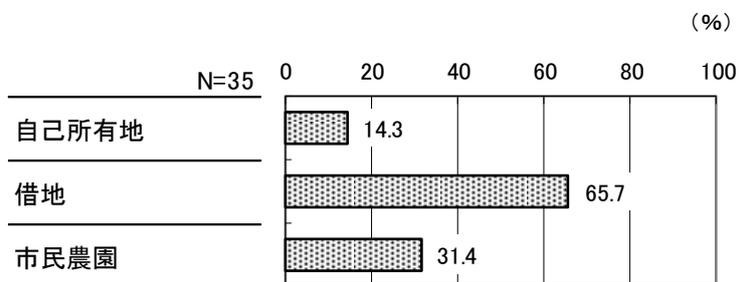
プログラム自主運営の農業活動について実施場所をみると、「農地」が81.4%と圧倒的に多く、「ハウス」も18.6%に達する。「畜舎」への回答は皆無である。

農地の種別は「借地」が65.7%、「市民農園」が31.4%、「自己所有地」が14.3%である。ハウスの種別は「借地」が75.0%、「自己所有地」が50.0%である。農地やハウスのいずれも借地の利用が多数を占める。

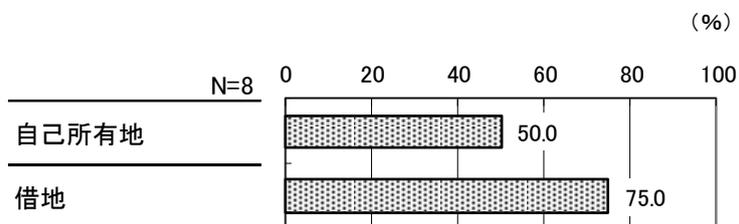
実施場所（複数回答）



農地の種別（複数回答）



ハウスの種別（複数回答）



(6) 農地面積等

プログラム自主運営の農業活動について農地面積等の回答例をみると、農地の場合1aに満たないものから250aまでさまざまであり、そのほとんどは借地で賄われている。市民農園を利用する場合は15㎡から50㎡の規模、ハウスの場合も棟数や面積もさまざまである。

農地		
NO	農地面積	うち借地
1	0.15a	0.15a
2	0.4a	0.4a
3	2a	2a
4	2a	2a
5	3.5a	3.5a
6	9.9a	9.9a
7	10a	10a
8	15.5a	10a
9	17.8a	17.8a
10	30a	30a
11	30a	30a
12	32a	32a
13	50a	0a
14	150a	150a
15	250a	250a

市民農園	
NO	面積
1	15㎡
2	30㎡
3	30㎡
4	30㎡
5	50㎡

ハウス	
NO	棟
1	7棟
2	1棟
3	1棟
4	2棟
5	20棟

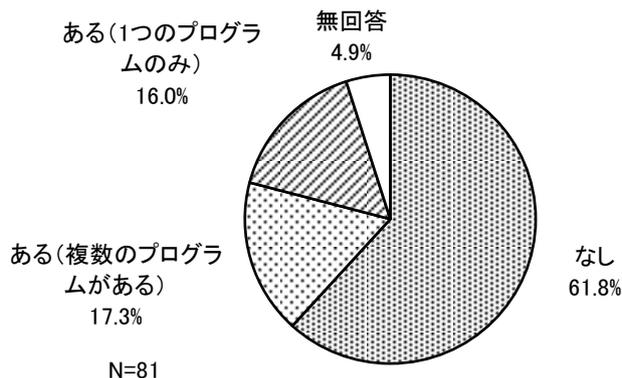
## 7. 農業プログラムの実施状況

### (1) 日数の決まったプログラムの有無

日数の決まったプログラムの有無をみると、「ある（複数のプログラムがある）」が17.3%、「ある（1つのプログラムのみ）」が16.0%である。

これを農業活動参加者数別にみると、参加者数が多くなるほど「ある」とする割合が高くなる傾向が顕著である。作業形態別にみると＜農作業請負＞よりも＜プログラム自主運営＞の方が、＜プログラム自主運営＞よりも＜農作業請負+プログラム自主運営＞の方が「ある」とする割合が高い。

農業プログラム 日数の決まったプログラムの有無



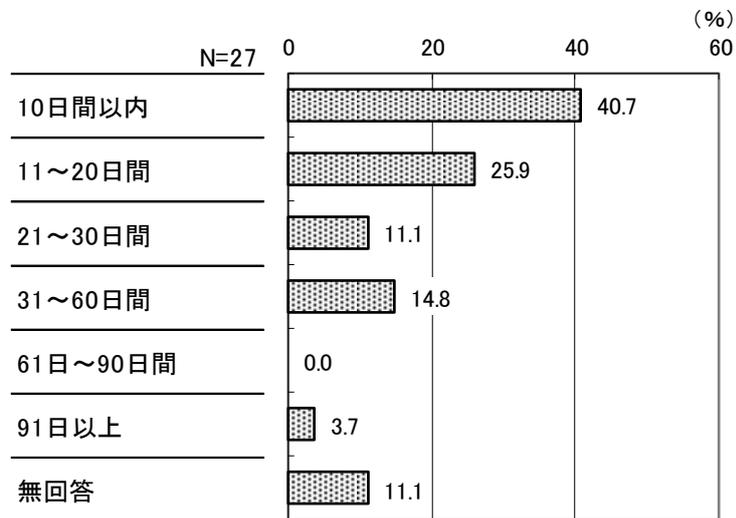
農業プログラム 日数の決まったプログラムの有無（属性別）

		なし	ある (複数のプログラムがある)	ある (1つのプログラムのみ)	無回答	
		N=				
		%				
参加者活動数	1～4人		70.5	13.6	11.4	44
	5～9人	42.9		21.4	28.6	14
	10人以上	30.8	38.5		30.8	13
作業形態	農作業請負		75.0	12.5	9.4	32
	プログラム自主運営	60.6		18.2	21.2	33
	農作業請負+プログラム自主運営	40.0	40.0		20.0	10

## (2) 日数の決まったプログラムの日数

日数の決まったプログラムがある場合、その日数は「10日間以内」が40.7%、「11～20日間」が25.9%であり、20日間以内に収めるプログラムが多数を占める。

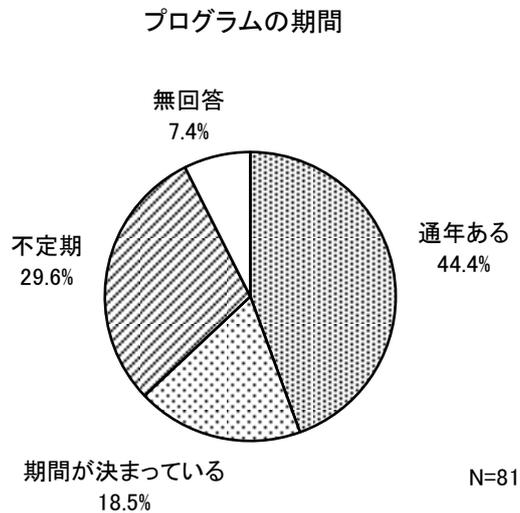
プログラムの日数（複数回答）



### (3) プログラムの期間

プログラムの期間は「通年ある」が44.4%、「期間が決まっている」が18.5%、「不定期」が29.6%である。

これを農業活動参加者数別にみると、参加者数が多くなるにつれ「通年ある」の割合が高くなる傾向がみられる。



プログラムの期間 (属性別)

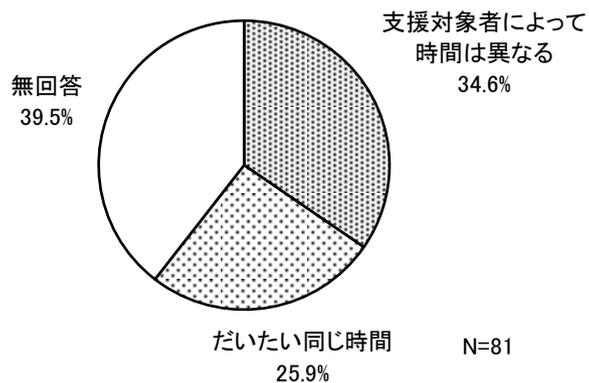
		通年ある	期間が決まっている	不定期	無回答	N=
		(%)				
参加者活動数	1~4人	36.4	20.5	38.6		44
	5~9人	50.0		21.4	21.4	14
	10人以上	69.2		15.4	15.4	13
作業形態	農作業請負	46.9	15.6	34.4		32
	プログラム自主運営	45.5	18.2	30.3		33
	農作業請負+プログラム自主運営	40.0	40.0	20.0		10

#### (4) 作業時間の決め方と標準的な作業時間

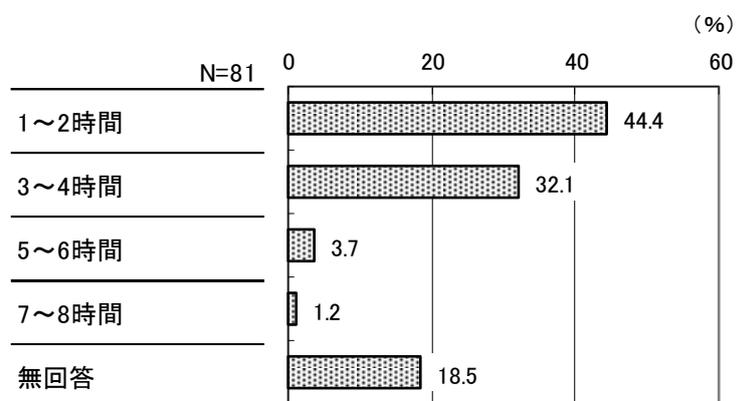
作業時間の決め方は、「支援対象者によって時間は異なる」が34.6%、「だいたい同じ時間」が25.9%であり、支援対象者の状態によって作業時間を決めるプログラムがやや多い。

標準的な作業時間は「1～2時間」が44.4%、「3～4時間」が32.1%であり、長くても4時間以内が目途となっている。

作業時間の決め方



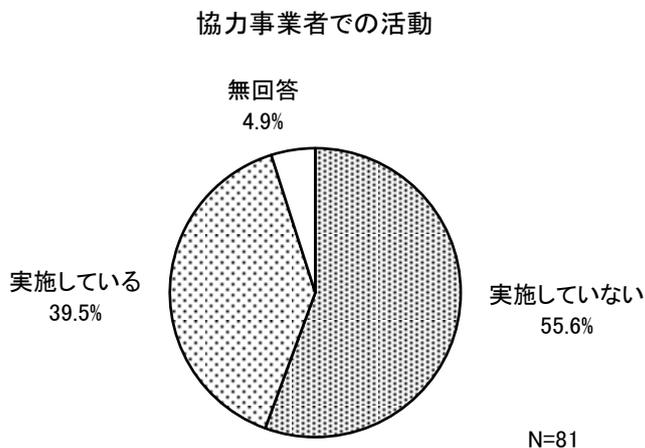
標準的な作業時間



(5) 協力事業者での活動

支援対象者を受け入れてくれる外部の協力事業者において農業活動を実施しているか否かについては、「実施している」が39.5%、「実施していない」が55.6%である。

これを農業活動参加者数別にみても大きな差異はみられない。作業形態別にみると、＜農作業請負＞や＜農作業請負＋プログラム自主運営＞では「実施している」の割合がやや高く、農作業請負では外部協力事業者との連携が行われるケースがプログラム自主運営に比べ多いことを示している。

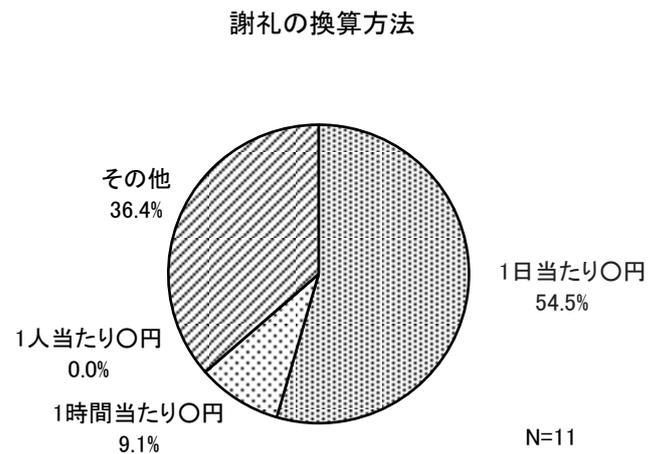
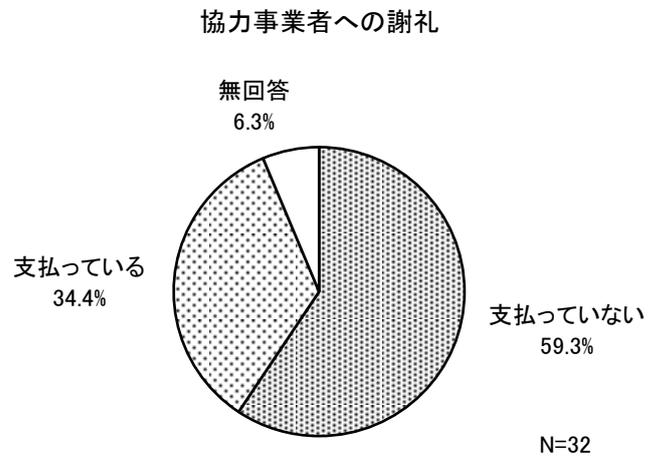


協力事業者での活動 (属性別)

		実施していない	実施している	無回答	
		(%)			N=
参加者活動数	1～4人	56.8	38.6		44
	5～9人	57.1	35.7		14
	10人以上	53.8	46.2		13
作業形態	農作業請負	43.8	50.0		32
	プログラム自主運営	72.7	27.3		33
	農作業請負+プログラム自主運営	60.0	40.0		10

## (6) 協力事業者への謝礼

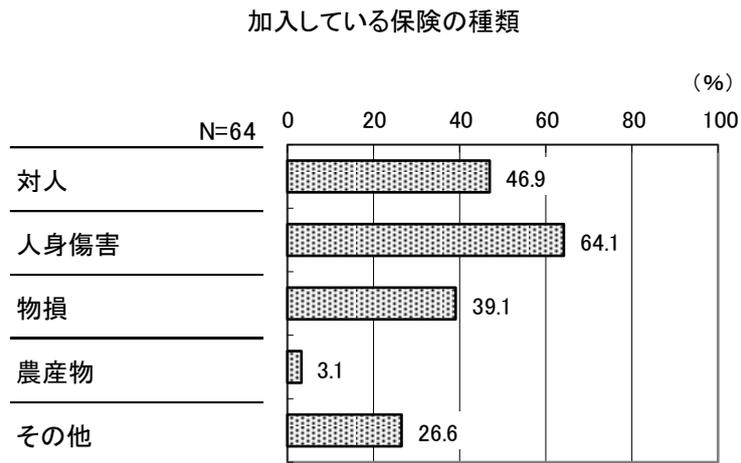
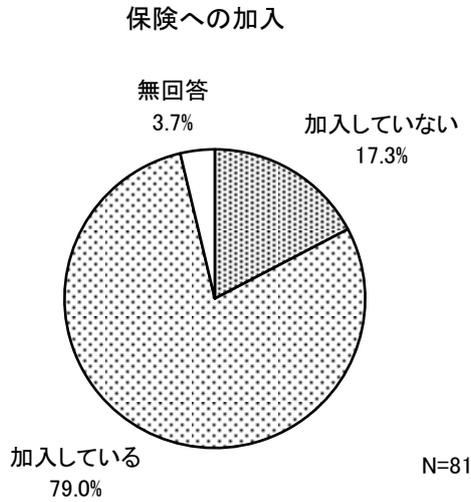
協力事業者への謝礼は「支払っている」が34.4%、「支払っていない」が59.3%である。  
謝礼の換算方法は「1日当たり〇円」で換算するところが54.5%と最も多い。



(7) 保険への加入

農業活動に当たって保険に加入しているか否かをみると、「加入している」が79.0%に達する。

加入している保険の種類は「人身傷害」、「対人」、「物損」などが多く、これらを組み合わせた複合型の保険も少なくない。また「その他」の内訳をみると、ボランティア保険の利用も多い。



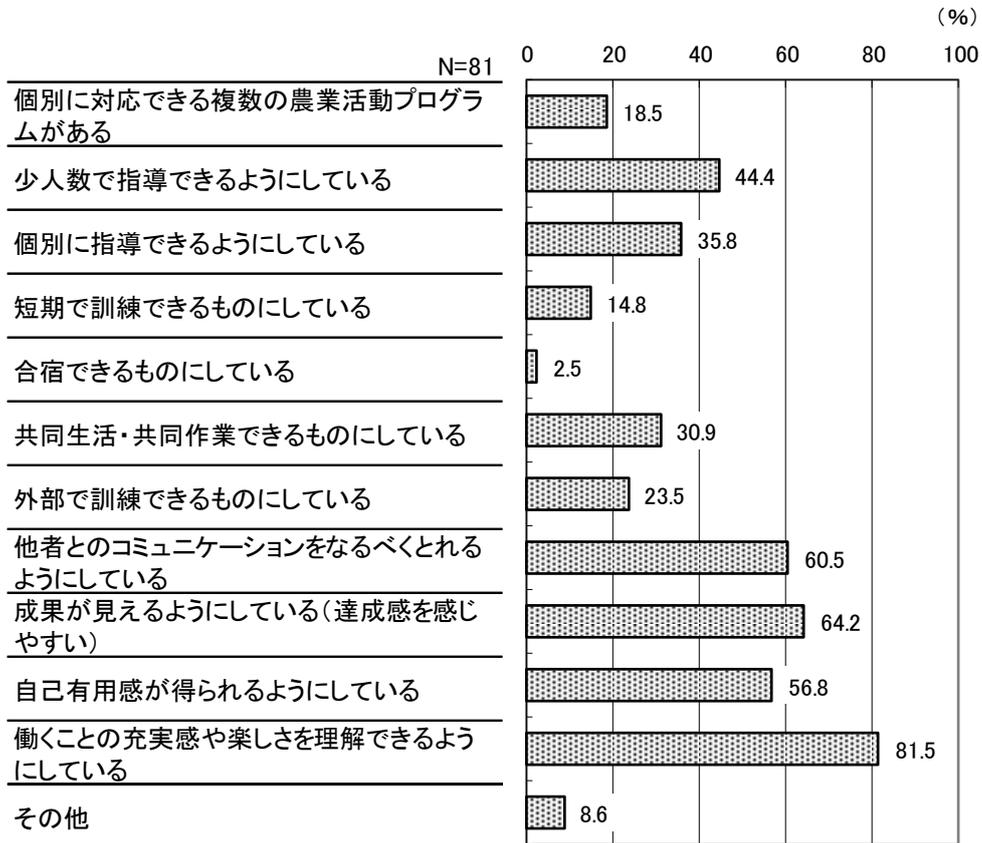
「その他」の内訳

種類	件数 (件)
ボランティア保険	9
傷害保険	4
携行品損害	1
その他複合型保険	2

(8) 支援対象者の農業活動で重視していること

支援対象者の農業活動で重視していることは、「働くことの充実感や楽しさを理解できるようにしている」が最も多く81.5%に達している。次いで「成果が見えるようにしている（達成感を感じやすい）」(64.2%)、「他者とのコミュニケーションをなるべくとれるようにしている」(60.5%)、「自己有用感が得られるようにしている」(56.8%)の順に多い。

支援対象者の農業活動 重視していること（複数回答）



## 8. 農業活動の実施による支援対象者の変化

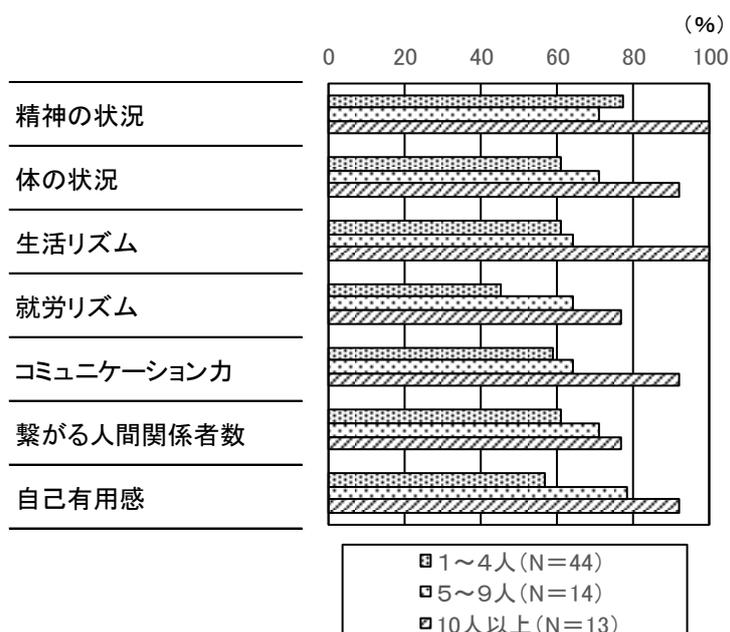
農業活動を実施による支援対象者の変化についてみると、「良くなった」の割合は〈精神の状況〉で最も高く76.5%に達している。そのほか〈体の状況〉(同65.4%)、〈生活リズム〉(同64.2%)、〈自己有用感〉(同63.0%)、〈繋がる人間関係者数(知人・友人等の付き合う人間関係の数)〉(同61.7%)、〈コミュニケーション力〉(同60.5%)なども6～7割の団体で効果を認めている。

農業活動の実施による支援対象者の変化

	N=81 (%)			
	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答
精神の状況	76.5	13.6	0.0	9.9
体の状況	65.4	24.7	0.0	9.9
生活リズム	64.2	25.9	0.0	9.9
就労リズム	49.4	38.3	0.0	12.3
コミュニケーション力	60.5	28.4	0.0	11.1
繋がる人間関係者数	61.7	28.4	0.0	9.9
自己有用感	63.0	27.2	0.0	9.9

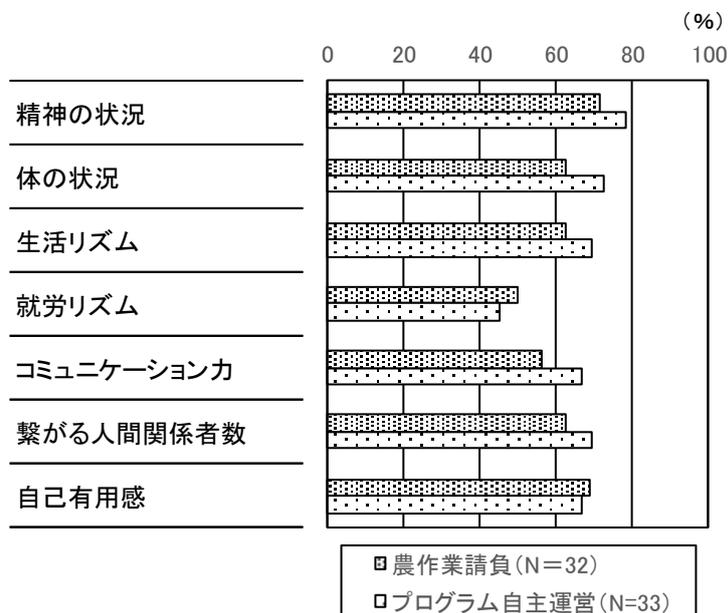
「良くなった」の割合を農業活動参加者数別にみると、どの項目においても参加者数が多くなるにつれ高くなる傾向が顕著である。農業活動は多人数で行う方が支援対象者への効果が高いといえる。

農業活動の実施による支援対象者の変化 「良くなった」の割合  
(農業活動参加者数別)



「良くなった」の割合を作業形態別にみると、多くの項目でプログラム自主運営の方が農作業請負に比べ高いという傾向がみられる。

農業活動の実施による支援対象者の変化「良くなった」の割合  
(作業形態別)



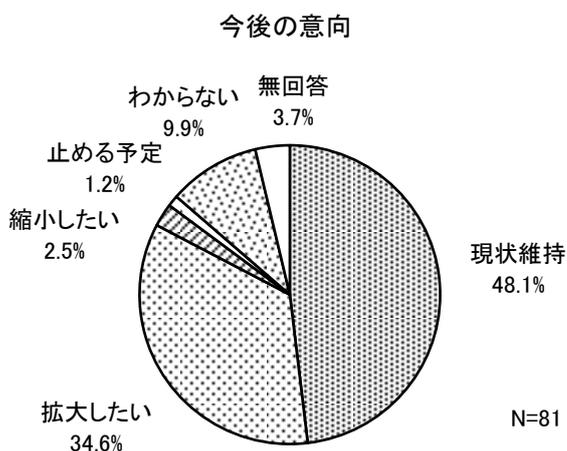
## 9. 今後の意向と課題

### (1) 今後の意向

農業活動についての今後の意向をみると、「現状維持」が48.1%、「拡大したい」が34.6%である。

農業活動参加者数別にみると、「拡大したい」の割合は<1～4人>で29.5%、<5～9人>で28.6%、<10人以上>で61.5%であり、参加者数規模の大きい団体での拡大意向が強い。

作業形態別にみると、「拡大したい」の割合は<農作業請負>で43.8%、<プログラム自主運営>で30.3%であり、<農作業請負>の方の拡大意向がやや強い。



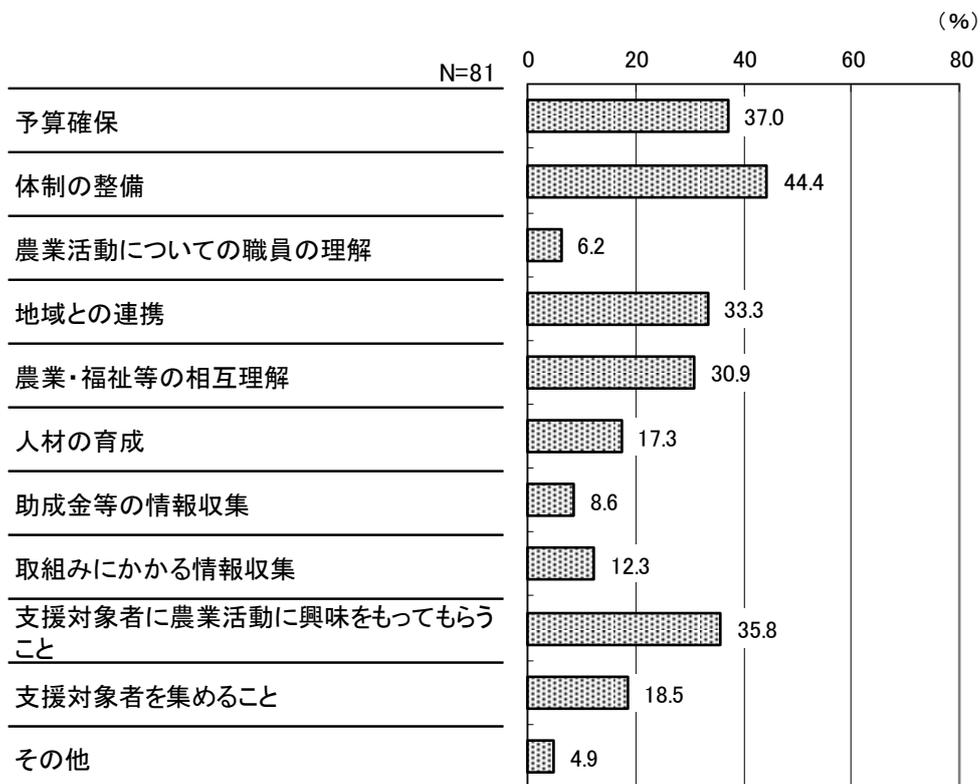
今後の意向 (属性別)

		現状維持	拡大したい	縮小・やめる	わからない 無回答	N=
		(%)				
参加者数	1～4人	47.7	29.5	4.6		44
	5～9人	57.1	28.6			14
	10人以上	30.8	61.5		7.7	13
作業形態	農作業請負	40.6	43.8			32
	プログラム自主運営	63.6	30.3	6.0		33
	農作業請負+ プログラム自主運営	40.0	20.0	20.0		10

## (2) 農業活動に取り組むに当たっての課題

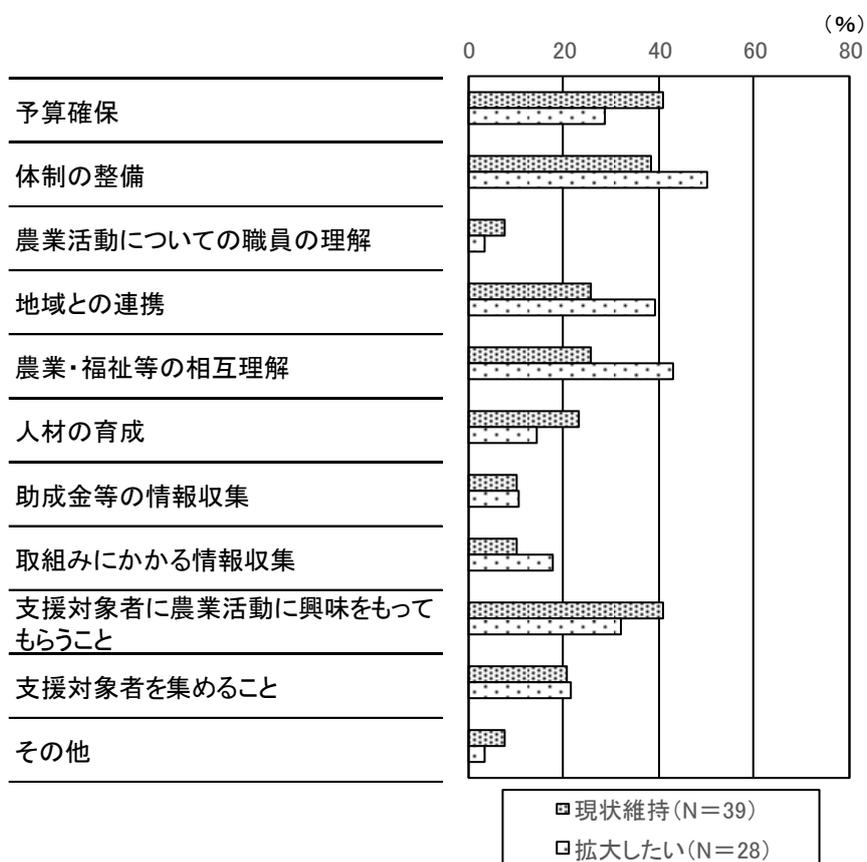
農業活動に取り組むに当たっての課題をみると、「体制の整備」(44.4%)、「予算確保」(37.0%)、「支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと」(35.8%)、「地域との連携」(33.3%)、「農業・福祉等の相互理解」(30.9%)などが上位を占めている。

農業活動に取り組むに当たっての課題（複数回答）



農業活動に取り組むに当たっての課題を今後の意向別にみると、＜現状維持＞の上位3位は「予算確保」、「支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと」、「体制の整備」であり、＜拡大したい＞の上位3位は「体制の整備」、「農業・福祉等の相互連携」、「地域との連携」である。

農業活動に取り組むに当たっての課題（今後の意向別）



### (3) 今後の意向についての自由記述

今後の意向についての理由等の自由記述をみると、＜現状維持＞の場合、予算不足・人材不足、希望者が少ない、他の事業との関連などが挙げられている。＜拡大したい＞の場合、支援対象者への効果、プログラムの拡大・充実、収入・作業賃確保などが挙げられている。

#### 今後の意向についての自由記述

##### 【現状維持】

###### ◇予算不足・人材不足

①資金不足。国の制度に当てはまらない事業のため、補助金等への応募ができない。②支援スタッフの不足。人件費が確保できない。
拡大したいがそれを支える支援員の負担が大きく対応できない。また、事業の維持拡大に係る経費も膨らみ、予算の維持に苦慮することが想定されるため。
現状では人員、予算などの面で拡大するのは難しい。
支援対象者の就労に対する意欲が向上するなど、一定の成果が見られるが、予算・人材の確保が困難なため、これ以上の拡大はできない。
拡大していきたい意向はあるが、現状の職員の支援体制では難しいため。

###### ◇希望者が少ない

就労体験メニューとして、農業を希望される利用者がそれほど多くないため。
現状では、農業に興味を示す利用者数はさほど多くないため。
職員数、利用者数、また利用者の高齢化により拡大は難しい。
支援対象者で農業活動を望む人が、今のところ少ないため。

###### ◇他の事業との関連

農業だけでなく、他の業種での就労体験プログラムも実施しているため。
現状、通年を通して午前と午後のプログラムで訓練を行っており、拡大しても対応できないため。ただし、窓口となり、弊社福祉事業や他施設等へ繋ぐ調整を行っている。
被保護者就労準備支援事業併用のため、生活困窮者支援対象者の参加啓発を促進予定。
就労訓練は農業分野以外でも実施していることと、支援対象者の希望に応じて行うため、現況から拡大するつもりはない。

###### ◇その他

支援対象者の状況に応じて支援の内容が変化するため。
区民農園による条件による。
自然に囲まれ、よい気分転換になる。様々な作業があり、対象者の見立てができる。野菜の栽培の背景や苦勞を知ることで、食べ物を大切に、感謝する事につながる。
現在、本人・事業所・農業関係者の三者の関係が良好であり、その中で、支援対象者本人が安心して活動することで、社会参加への自信を高めることが出来ていると思うから。
これまでと同じく、農業を作業体験としてやってみたいと考える方に対して、取り組めるプログラムを一緒に考えていこうと思います。
現在、市主導にて週1回農業体験の受け入れをさせていただいている。

##### 【拡大したい】

###### ◇支援対象者への効果

農福連携の効果をより上げたい。
目に見える成果と達成感、他者と自然にコミュニケーションを図れるため。

食につながる農業は生きる基本であり、自立に向けての効果が期待できる上、自然の中での作業であるため精神状態も前向きになり有効であるため。
現在は単発の不定期で行っているため効果が分からないが、拡大することによって様々な面で変化が期待できると考えるため。
支援対象者の30～40%は、何らかの障害の可能性があるので、土に触れること自体に効果があると思います。また、面談室を離れて畑で話すことは解放感もあって、通常の面談では得られない効果も期待できます。
参加することで、就労に必要なものや人生が豊かに変化することが、皆様に感じられるものである。多くの人が体験することで、様々な効果が得られる。
人との交流が難しい参加者の場合、土や生き物に触れることを通して、無理なく、自然な形で他の参加者や農業関係者と交流することができ、とても大切な社会資源と考えるため。
人とのコミュニケーションの苦手な方など、利用者の特性に応じて、農作業などがある人には積極的にすすめたい。
他の事業所にボランティアとして参加した利用者の満足度が高かったため。

#### ◇プログラムの拡大・充実

コロナの感染拡大が終息することが大前提となるが、コロナの前は収穫した農作物を参加者で調理して食べるまでを一つのパッケージとしてプログラムを運営していたため、そこまでは時機を見ながら戻したいと考えております。
農業活動は季節に応じて作業内容が変わるため、利用者の様々な側面を観測することができる。また弊所の農園プログラムでは「計画～作付～育成～収穫～調理」というプロセスを準備しており、プログラムとして様々な可能性（個々の就労準備段階に応じたプログラムも作れ、チームを作って計画立案してもらうような集団作業を強めたプログラムにもできる。調理実習を組み込めば生活自立支援にもなりうる等）を秘めている。以上のように、支援プログラムとしての懐の深さがあるため今後の拡大を望んでいる。
就労準備支援事業対象者が少ないこともあり、個別支援時に本人に合う作業を開拓しているので現状。当会は引きこもり支援事業も実施しており、自立支援相談においても引きこもりに関する相談は増加傾向にある。今後は、地域の新たな農業者とのつながりを深め、多様な作業をプログラム化できるようにしたい。

#### ◇収入・作業賃の確保

生産量を増やして加工や販路拡大につなげて作業賃を発生させるとともに、地域に発信する取組みにしたいから。
プログラム実施だけではなく、収入が得られる形にしていき、支援対象者が就農できるようにしたい。

#### ◇その他

地域特性として農園や自然があふれる公園も多いことから、担い手として地域産業への活性化や観光保全という面で、支援対象者が社会参加や活躍する出番を創出し演出できると思うため。
生活困窮者だけでなく高齢者他を含め活動できる農園が望まれる。規模は小規模。時期は未定である。
現在のスペースは、介護予防の高齢者との共同作業で行っている。密な状況もあるので現在のスペースをもう少し拡大し、現状の少人数で実施することで参加者一人一人をしっかりと見て関わることができる。一人一人の次のステップの支援につながっている。
野菜の水耕栽培を検討している。

#### 【縮小・止める】

管理のしやすさを重視したい。農家との職場体験は継続したい。ただ体験中に一人で行かせられる者と、スタッフが同行しなければいけない者が分かれるため、スタッフの時間が割かれる。
現状の利用者においては、体調などの問題で夏場などの気候が厳しい状況下での作業が難しい方が多いため、来年度は少し縮小して行おうと思っています。今後の利用者の状況などによっては、再度元に戻すことも考えています。

委託料については、自治体より体験者数に応じた単価契約で支払われるため、事業を継続することが難しくなった。

【わからない】

活動場所が遠方のため、移動も含めた活動時間かかりすぎるため検討中。

予算の確保等の様々な課題があるため、事業拡大が困難である。

新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、企業側より作業ストップとの指示があるため今後については不明。

今年度は対象者がいないことと、コロナ感染拡大防止のため、農事組合法人へ行く予定がないため。

#### (4) 農業活動の取組みについての自由記述

農業活動の取組みについての自由記述をみると、各種の助成の要望、農業活動の問題点、取組みの内容・効果などに関するものが挙げられている。

##### 農業活動の取組みについての自由記述

###### ◇各種の助成の要望

農業団体や農家と連携できる政策（必要に応じて農家サイドに金銭的なインセンティブを生じさせるなど）を強力に打ち出して欲しい。農業に取り組む場合、移動の困難が伴うため、送迎をするための予算（人件費、車両リース料、燃料費、その他の経費）を増やして欲しい。
農業体験に事業所で取り組むための予算を別に立てて欲しい。
相談者に就労準備プログラムの参加意欲をもってもらうため、少額でもいいので助成制度をお願いしたい。

###### ◇農業活動の問題点

農業プログラムを活用した生活困窮者の支援に関しては予算の確保や指導者の選定、対応職員の農業分野に関する知識不足等の課題があり、スムーズに体制を整備することが困難である。地域の農業従事者へ協力を依頼するが、予算の確保が困難なため、ボランティアでの参加をお願いする他なく、農業に必要な資材等の確保も難航している。
地域の特性上、借りることが出来る農地を探すことは出来るのですが、どうしても作業の進捗が利用者の方々の体調や気分によって変動してしまうが、一般農家の方々と同じようなレベルでの管理をすることを求められると、草刈りや休日の農作物の管理など、スタッフの負担が大きくなってしまいがちな部分が悩ましいところです。ご理解いただいている方からは多大なご協力はいただいているものの、農家の方一人ひとりに依るところが大きいと思います。
農業活動で得られる自己効力感や心身共に健康になるといったメリットは大きいものの、農業法人や農園は、郊外に位置するところが多く、支援対象者の自宅から通うには不便であること、公共交通機関を使用すると交通費が高くなるため、補助をするにしても、一時的には支援対象者に立て替えてもらうことになり、本人にとって負担が大きく、なかなか参加意思を示す支援対象者の数は少ない。
農業としては、ただ単に農作業するのでなくいいものを作るには、レベルを上げる必要（販売するには）がある。また人件費を賄うのは難しい。現状は、通年で対象者が集めにくいので、プログラムとしては就労体験としての取り組みとなっている。管理面では通年で農業担当できる余裕がない。現在の農地の現状としては土壌改良が必要な状況で作物栽培が難しい。感想としては農作業は簡単でないが、共同作業、野外作業となるので、対象者にとっていろいろな人と関わること、また気分的にもリフレッシュできる有用な活動である。
支援対象者個々人の状態や状況から農業活動に入るか、その他の就労訓練に入るかとなるが、農業活動は時期や天候に左右されることも多く、定期的な訓練には向いていないところがあるため、最近は屋内の訓練の方の需要が多い。
支援対象者の農業分野への適正もあり、労働力の確保が難しい場合が多い。また設備投資等の予算の確保もある。そのため就労準備支援事業の中で農業活動を取り入れていくには色々な方々と連携していかなくては単独では難しい活動であると感じる。ただ農業分野は拡大していける可能性が大きいので、取り組んでいきたい分野である。上手に取り組んでいる団体との横のつながりや情報共有ができればうれしい。

###### ◇取組みの内容・効果

様々な種類の作業のある農業は、引きこもりがちなお方々には向いていることを選ぶことができるため、とても良い作業プログラムとなっています。そしてその農業をした経験を活かして就農に向かうことができます。
継続した実施において、高い効果を発揮する。継続してする効果、熱意を持って関わることで効果に差が出るものと感じる。
利用者が自ら育てたいと思う作物、食べたいと思うものを率先して栽培してもらうことによって、興味関心を持ってもらえるよう取り組んでいます。
農業分野の活動は当事業所で行うものではなく、すべて外部の農業者での「就労体験」との形で実施しています。

<p>元々独立して農業をやっており、行政から就労準備支援の支援対象者の受け入れの打診があればお受けしています。受け入れ人数が少ないこともあり、行政からの受け入れをしてもなくても、特に本業である自身の農業に支障はないようにやっています。</p>
<p>連携している農園での作業は就労訓練として非常に有意義であり、今後も工夫して実施していきたいと考えている。具体的に言えば農園での経験を踏まえて、次のステップとして個別に農家さんでの就業体験をさせていただける機会があれば、利用者にとっては「仕事」に近づける良い実践となるのではないかと考えている。やはり訓練よりも実際に社会に近い場所で動いて「仕事のペースを体験する」ということが必要な利用者もおり、就労へつなげるためのサポートとなりうる経験を提供できるのではないかと思います。</p>
<p>外に出て農作業に従事しハウス等で体を動かすなどの訓練を行うことで、自然と体力がついた、疲れて眠れるようになった、お腹が減り食事を摂るようになった、など様々な課題の改善が図れているのを実感している。農家さんにとっても、短時間で効率が良い働き手として感謝され、就職にもつながるなど、よい連携が図れており、今後も継続していき、必要があれば拡大していきたい。</p>
<p>就労準備支援事業としてではなく、県、市、JA、様々な機関と連携し農福連携に取り組んでいる。農業従事者に、生きづらさを抱える方達に対し、理解してもらえるような働きかけや、農業を通じての就労、居場所づくりができるよう取り組んでいる。</p>
<p>理解ある生産者に協力を得られ、スムーズに取り組んでいる。農業法人のため、規模も大きく、合宿も含め、お願いしている。同じ時期であれば、同じ作業のため、職員が要領を得ているため、対象者の把握に集中できている。</p>
<p>かわりに苦手意識があったが、この事業を経験したことで、農作業をされている他者とのコミュニケーションをとることが出来自信をつけたようで、現在は、農産物を生産出荷している親族の手伝いをしている。</p>
<p>様々な背景を抱えた方が取り組むプログラムの一つとして、農作業も準備しています。農作業は作業を切り分けしやすく、その人に応じたいろいろな作業を準備することができ、スモールステップにつながると感じています。農作業は室内の内職より自分に向いているかもしれないと話している方は多いと感じます。全く農業に興味を持たない方もいらっしゃいます。その方に応じた支援プログラムを様々準備しています。</p>
<p>当センターでも、地域の農家や農業に取り組む特例子会社で草刈りや収穫のボランティアに行かせていただきました。引きこもり状態にある利用者にも植物や動物の仕事は対応しやすいと思えました。今後、積極的に農福連携に取り組む予定です。</p>
<p>菜園で作物を育てることに携わることで、参加者に自信がつき、心身の安定にもつながっていることが確認できている。生活困窮者自立支援事業で菜園作業に取り組むことはとても有意義であると実感している。同じような規模の取り組みをしている活動事例を知りたい。このプログラムに参加している人、過去参加していた人が気軽に集える場などを実現できたらと思う。参加者同士の相乗効果が期待でき、更なる意欲喚起につながる。</p>

## 10. 参考資料

### (1) 就労準備支援事業の委託先における林業活動の事例

団体名	団体A
取組み開始時期	6年前以上
きっかけ	林業活動に生活困窮者への効果があると思った 地域林業の活性化に繋がると思った 行政から依頼された
林業活動参加者	9名 *年間を通して1度でも林内作業に参加した人数
性別	男性:7名 女性:2名
年代別	20代:2名 40代:2名 50代:4名 60代:1名
無就業の期間別	1年未満:4名 1~3年間:1名 6~10年間:2名 11年間以上:2名
林業担当の支援職員数	専任1名 兼任1名 合計2名
作業形態	プログラムのために自主運営する林地での作業
作業内容	たけのご掘り、竹の伐採、シイタケの収穫
林業請負での年間延べ面積	借地 1ha
林業活動プログラム	なし
プログラムの期間	期間が決まっている
作業時間の決め方	支援対象者によって時間は異なる
標準的な作業時間	1~2時間
受け入れ協力事業者	なし
保険の有無	加入している→人身傷害
重視していること	少人数で指導、共同生活・共同作業、 他者とのコミュニケーション、成果が見える、自己有用感 働くことの充実感や楽しみ
支援対象者の変化 (良くなったこと)	精神の状況、体の状況、生活リズム、就労リズム
今後の意向	現状維持
取り組むに当たっての課題	体制整備、取組みにかかる情報収集、 支援対象者に林業活動に関心をもってもらうこと
取組みについて(自由記述)	取組み当初は間伐の補助のプログラムを行っていたが、スタッフ体制の難しさや農作業以上に危険な作業になるため、対象者が限られてしまうことから、年2、3回程度、たけのご掘りや他の作業で使うための竹の伐採と運搬、原木栽培しているシイタケのどの簡単で楽しみながら体験できる形に変えて継続している。周辺の山主の方々にご理解いただくことや林地の境界の確認など、準備段階で取り掛からなければならないことも多く、初心者が気軽に始めることはほぼ難しい分野だと感じている。

## (2) 就労準備事業委託先における水産業活動の事例

団体名	団体B
取組み開始時期	3～5年前
きっかけ	地域水産業の活性化に繋がると思った 障害者の農福連携からヒントを得て
水産業活動参加者	3名
性別	男性:2名 女性:1名
年代別	20代:1名 50代:2名
無就業の期間別	1年未満:1名 11年間以上:2名
水産業担当の支援職員数	専任0名 兼任1名 合計1名
作業形態	水産業請負
作業内容	養殖(牡蠣殻・貝清掃)
水産業請負での年間延べ時間	約250時間
水産業活動プログラム	あり →11～20日間
プログラムの期間	通年
作業時間の決め方	支援者によって時間は異なる
標準的な作業時間	3～4時間
受け入れ協力事業者	あり
協力事業者への謝礼	支払っている 1時間当たり平均300円
保険の有無	加入している→対人、人身傷害、物損、魚・貝・藻類等物
重視していること	少人数での指導、共同生活・共同作業、外部での訓練、 他者とのコミュニケーション、自己有用感、 働くことの充実感や楽しさ
支援対象者の変化 (良くなったこと)	精神の状況、体の状況、生活リズム、就労リズム、 コミュニケーション力、繋がる人間関係者数、自己有用感
今後の意向 その理由	現状維持
取り組むに当たっての課題	予算確保、人材の育成

## IV.全国アンケート調査結果報告（就労訓練事業）

### ■調査実施概要

#### (1) 調査対象

就労訓練事業を実施する団体等

#### (2) 調査の方法

メールによる発信と返信

アンケート調査票の流れ

厚生労働省→都道府県・指定都市・中核市→就労訓練事業実施団体等→JA 共済総合研究所

#### (3) 調査期間

令和2年12月15日から令和3年1月29日

#### (4) 調査内容

	調査項目
基礎票	①事業内容と支援対象者の特性
	②農業分野等の取組み状況
農業活動票	③農業活動の取組み経緯
	④農業活動の体制と参加者数
	⑤農業活動の取組み内容
	⑥農業活動による支援対象者の変化
	⑦今後の意向と課題

農業活動票：就労訓練事業として農業活動に取り組んでいる団体について

\* 林業活動票、水産業活動票も農業活動票と同様の項目について調査したが、回答件数が少ないため、事例として巻末に掲示した。

#### (5) 用語の定義

##### ①農業分野等：

農業活動、林業活動、水産業活動（水産加工を含む）など

##### ②農福連携：

障害者・高齢者・生活困窮者等が農業活動に従事する取組み

##### ③農業活動：

収入のための農産物生産を行う農業、訓練・生きがづくり・健康づくり・社会参加等のためのゆるやか農業、自給・ケア・レクリエーション等のための農的活動

##### ④林業活動：

収入のための木材を生産する仕事（苗づくり・植栽・下草刈り・枝打ち・つる刈り・除伐・間伐・主伐・搬出・運搬・林地整備・林地残材処理・木材加工など）、訓練・生きがづくり・健康づくり・社会参加・自給・ケア・レクリエーション等のための活動

##### ⑥水産業活動：

漁業・水産物加工業、訓練・生きがづくり・健康づくり・社会参加・自給・ケア・レクリエーション等のための活動

##### ⑦生活困窮者：

自立相談支援窓口を通じて自立を目指す者

⑧団体等：

地方自治体より就労準備支援事業を受託、就労訓練事業の認定を受けている社会福祉法人・農業法人・個人事業主など

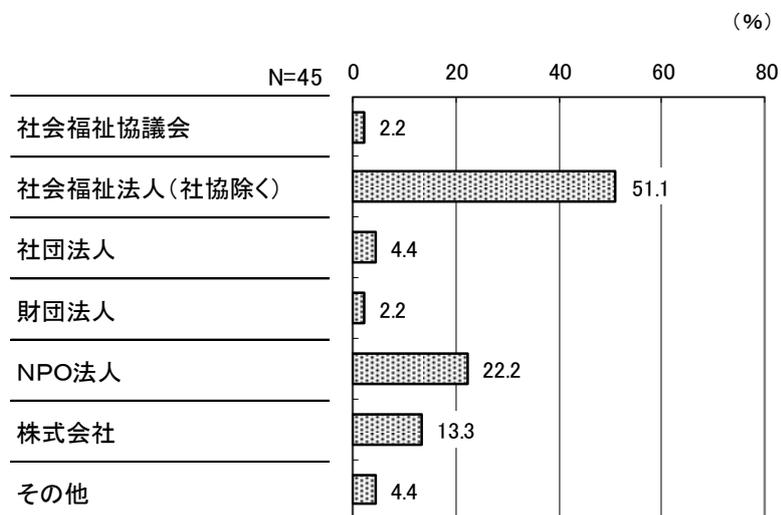
(6) 回収票の構成

回収票数は45件であった。団体等の法人格は「社会福祉法人(社協を除く)」が51.1%と半数を占め、次いで「NPO法人」(22.2%)、「株式会社」(13.3%)の順となっている。

回収票数(地方別)

地方	回収票数 (件)	構成比 (%)
北海道	0	0.0
東北	1	2.2
関東	11	24.4
北陸・甲信越	1	2.2
東海	9	20.0
近畿	5	11.1
中国	6	13.3
四国	2	4.4
九州・沖縄	10	22.2
計	45	100.0

法人格

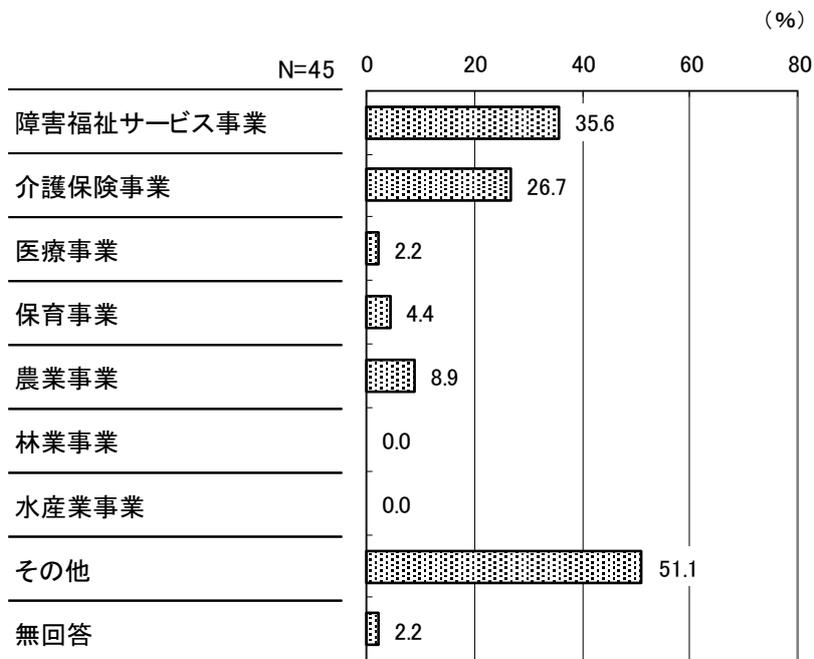


# 1. 事業内容と支援対象者の特性

## (1) 事業内容

事業内容を複数回答でみると、「障害福祉サービス事業」が35.6%、「介護保険事業」が26.7%であり、「その他」の内訳では生活困窮者や生活保護関係の事業が比較的多い。このことから、就労訓練事業の母体は福祉系の事業や生活困窮者・生活保護等の事業等が多いといえる。

事業内容（複数回答）



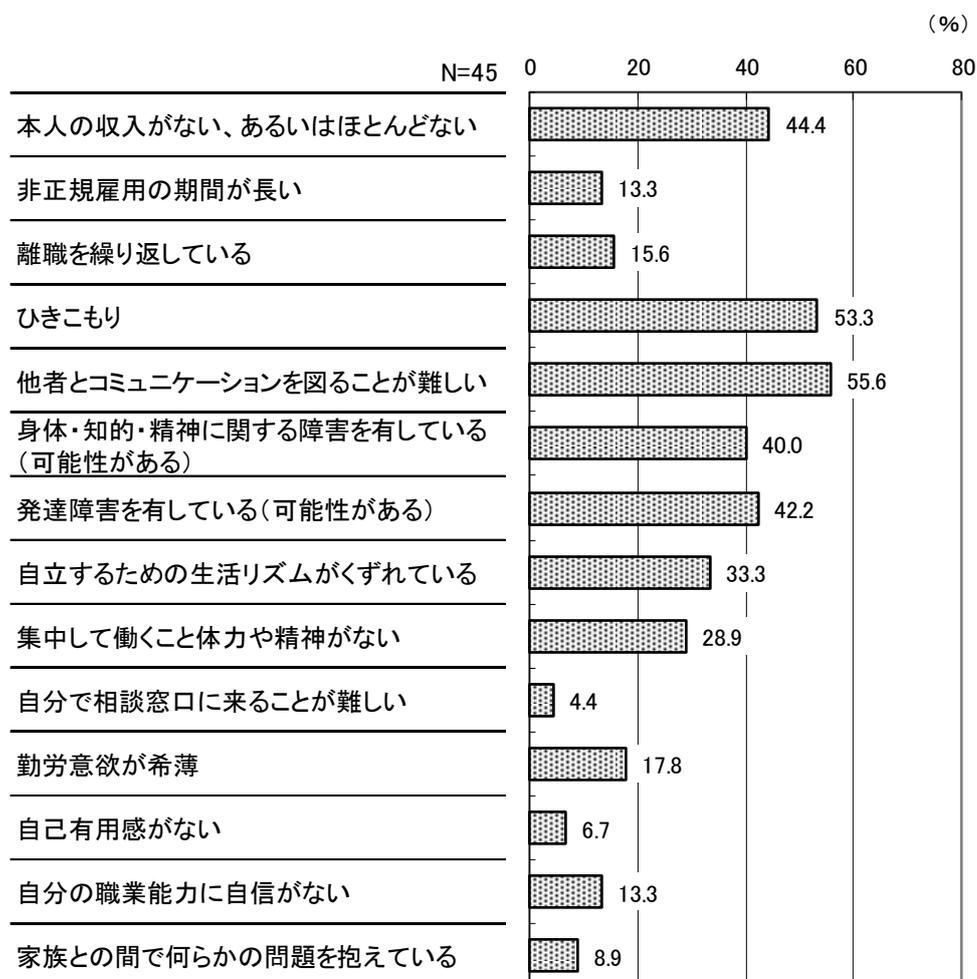
「その他」の内訳

		(件)
福祉系	児童福祉事業	1
	地域活動支援センター	1
生活困窮者・生活保護等	就労準備支援事業	1
	生活困窮者自立支援事業	3
	就労訓練事業	1
	救護施設	3
	生活保護関係事業	1
	労働者福祉	1
	生活保護者・児童養護・ニート	1
	就労支援事業	1
	保護施設	1
一般事業系	施設の清掃、警備	1
	リサイクルショップ	1
	土木・造園工事業	1
無回答		5
サンプル数		23

## (2) 支援対象者の特性

支援対象者の特性は「他者とコミュニケーションを図ることが難しい」(55.6%)が最も多く、次いで「ひきこもり(状態の方)」(53.3%)、「本人の収入がない、あるいはほとんどない」(44.4%)の順となっている。また、「発達障害を有している(可能性がある)」(42.2%)、「身体・知的・精神に関する障害を有している(可能性がある)」(40.0%)など、何らかの障害を持つケースも比較的多い。

支援対象者の特性 (複数回答)

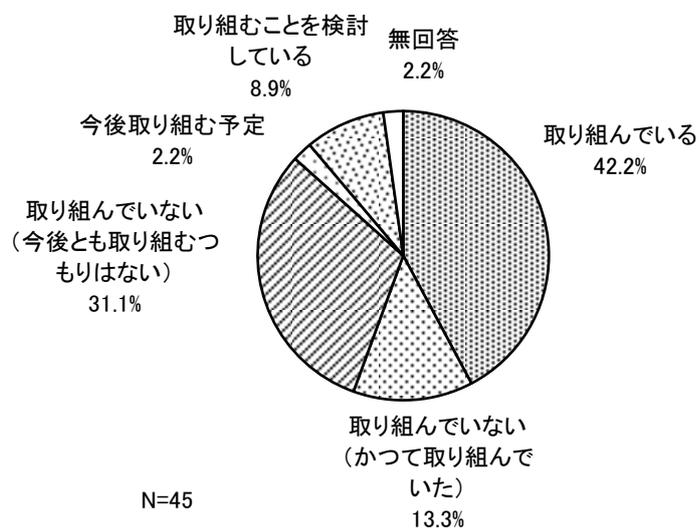


## 2. 農業分野等の取組み状況

### (1) 農業分野等の取組み状況

農業分野等の取組み状況をみると、「取り組んでいる」が42.2%であり、「今後取り組む予定」(2.2%)、「取り組むことを検討している」(8.9%)など取組みに前向きな団体も1割を上回る。

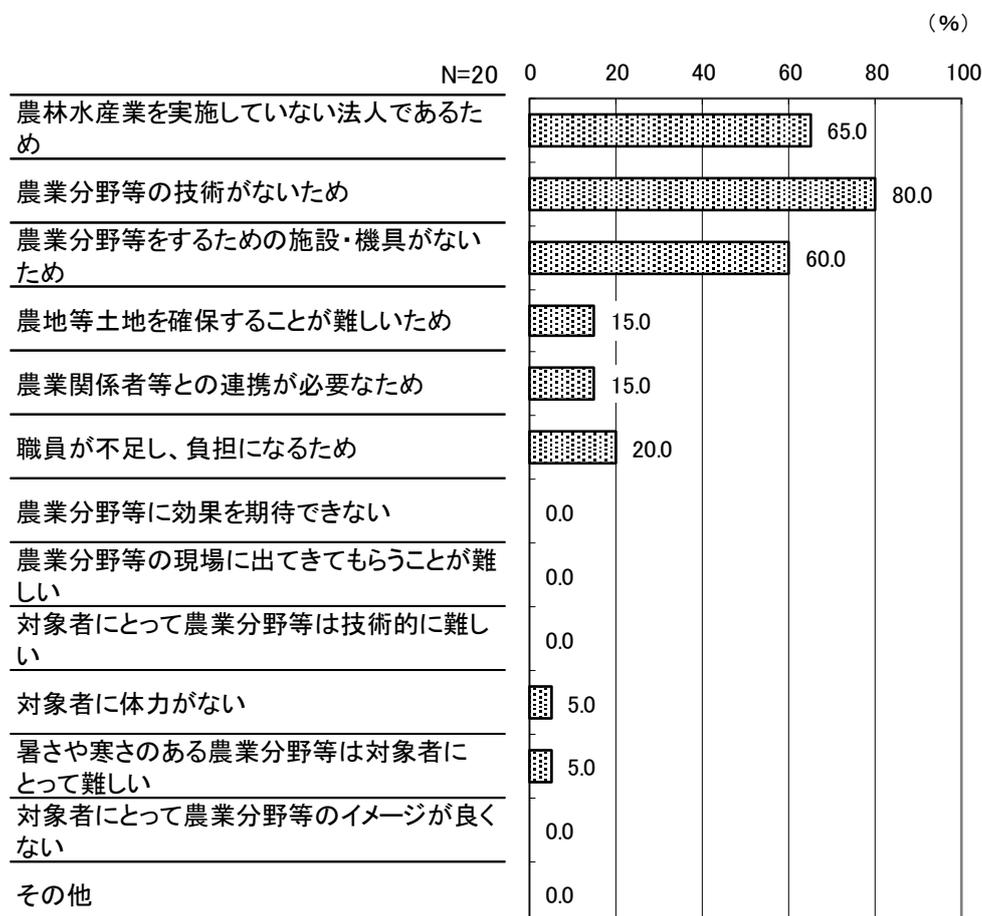
農業分野等の取組み状況



(2) 農業分野等に取り組んでいない理由・課題（農業分野等に取り組んでいない団体について）

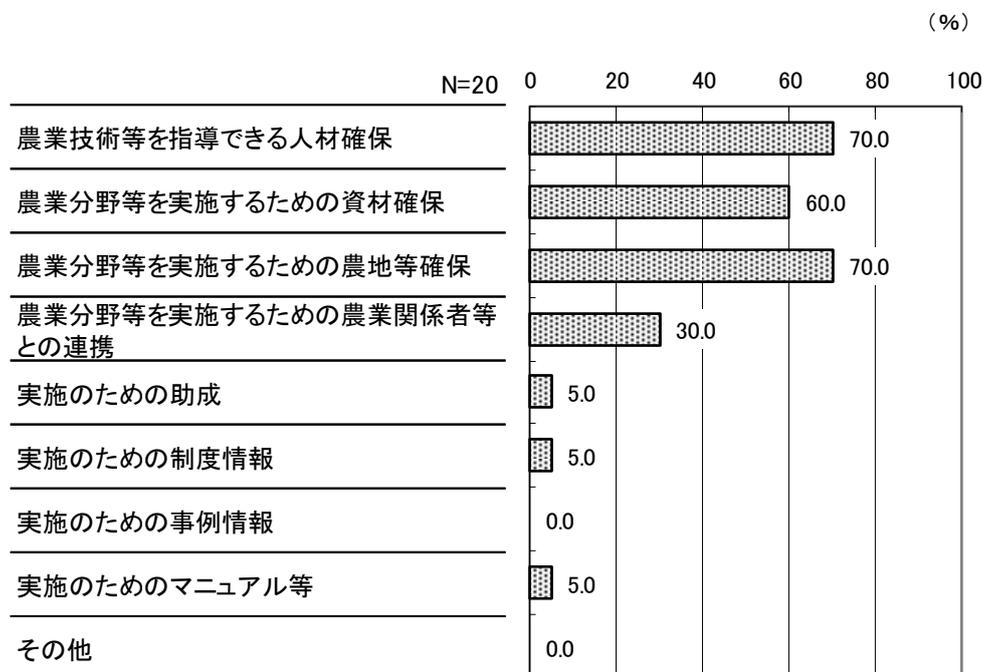
農業分野等に取り組んでいない理由をみると、「農業分野等の技術がないため」(80.0%)、「農林水産業を実施していない法人であるため」(65.0%)、「農業分野等をするための施設・器具がない」(60.0%)などが上位を占めている。

農業分野等に取り組んでいない理由（複数回答）



農業分野等に取り組むための課題をみると、「農業技術等を指導できる人材確保」(70.0%)、農業分野等を実施するための農地等確保(70.0%)、「農業分野等を実施するための資材確保」(60.0%)などが上位を占めている。

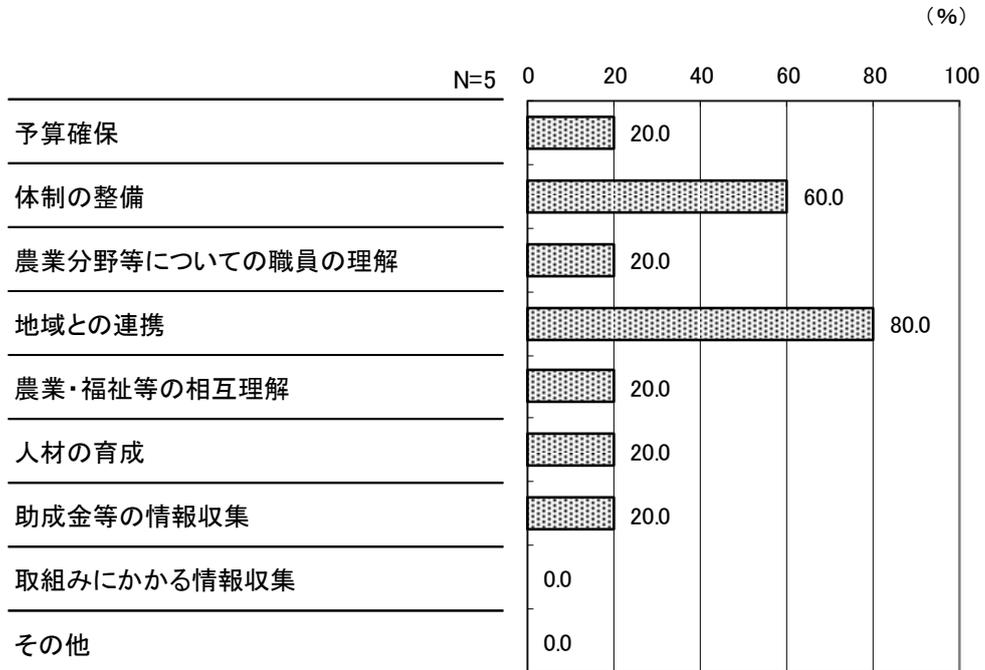
農業分野等に取り組むための課題（複数回答）



(3) 農業分野等に取り組むに当たっての課題（農業分野等に取り組もうとしている団体について）

農業分野等に取り組むための課題をみると、「地域との連携」（80.0%）、「体制の整備」（60.0%）などが上位を占めている。

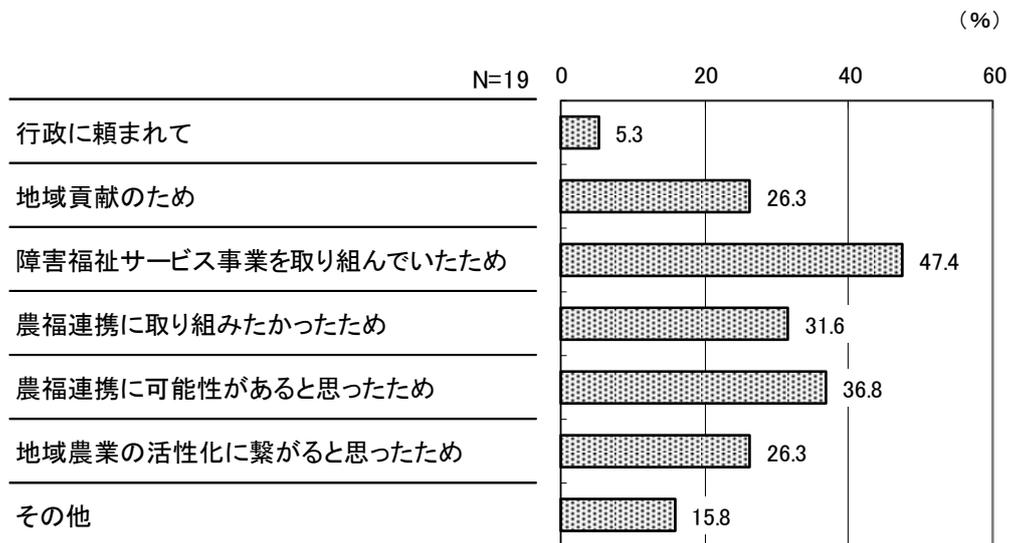
農業分野等に取り組むに当たっての課題（複数回答）



(4) 農業分野等の取組みを開始したきっかけ（農業分野等に取り組んでいる団体について）

農業分野等の取組みを開始したきっかけをみると、「障害福祉サービス事業に取り組んでいたため」(47.4%)が最も多く、次いで「農福連携に可能性があると思ったため」(36.8%)、「農福連携に取り組みたかったため」(31.6%)などの順となっている。

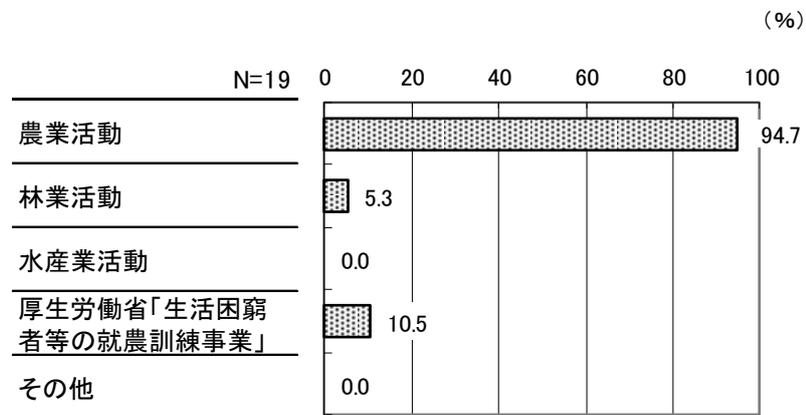
取組みを開始したきっかけ（複数回答）



(5) 農業分野等の種類（農業分野等に取り組んでいる団体について）

農業分野等の種類を具体的にみると、「農業活動」は18件（94.7%）であった。それ以外では「林業活動」は1件（5.3%）、「厚生労働省生活困窮者等の就農訓練事業」は2件（10.5%）であった。

農業分野等の種類（複数回答）



### 3. 農業活動の取組み経緯

#### (1) 回収票の構成

就労訓練事業に取り組んでいる団体のうち農業活動票に回答が得られたのは18件である。

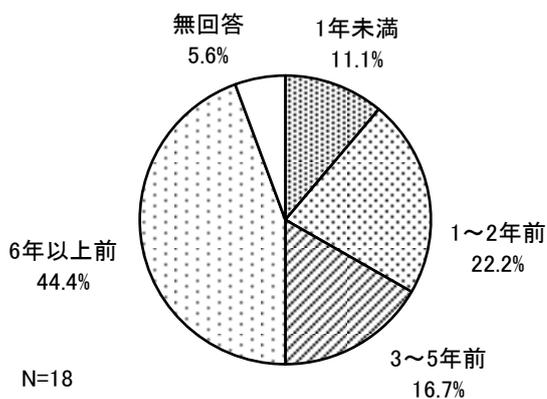
回収票数(地方別)

地方	回収票数 (件)	構成比 (%)
北海道	0	0.0
東北	0	0.0
関東	6	33.3
北陸・甲信越	1	5.6
東海	3	16.7
近畿	2	11.1
中国	3	16.7
四国	1	5.6
九州・沖縄	2	11.1
計	18	100.0

#### (2) 取組み開始時期

農業活動の取組み開始時期は、「1年未満」が11.1%、「1～2年前」が22.2%であり、最近になって取り組むようになった団体が1/3を占める。

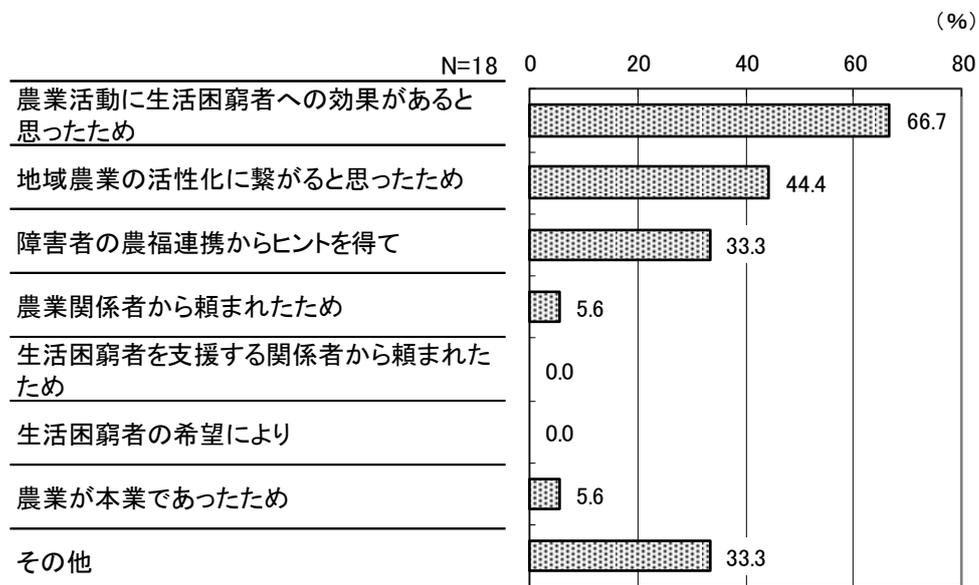
農業活動 取組み開始時期



### (3) 取組みを開始したきっかけ

取組みを開始したきっかけは、「農業活動に生活困窮者への効果があると思ったため」(66.7%)が最も多く、次いで「地域農業の活性化に繋がると思ったため」(44.4%)、「障害者の農福連携からヒントを得て」(33.3%)の順となっている。

農業活動 取組みを開始したきっかけ (複数回答)



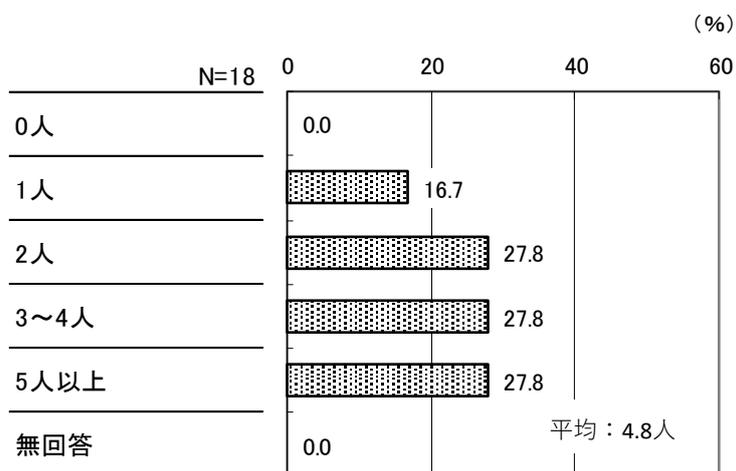
#### 4. 農業活動の体制と参加者数

##### (1) 農業活動の支援職員数

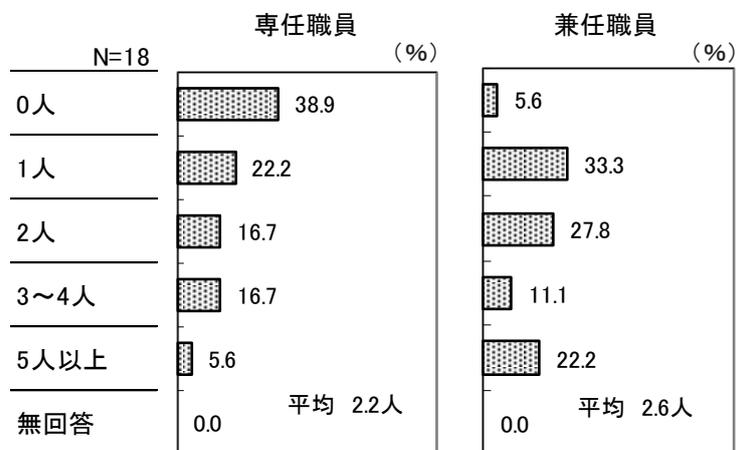
農業活動の支援職員数（専任＋兼任）は「1人」が16.7%、「2人」が27.8%、「3～4人」が27.8%で合計4人以下が約7割超を占める。平均は4.8人である。

専任、兼任の別でみると、専任職員が「0人」すなわち専任職員を置いていない団体が38.9%を占めている。

農業活動の支援職員数（専任＋兼任）



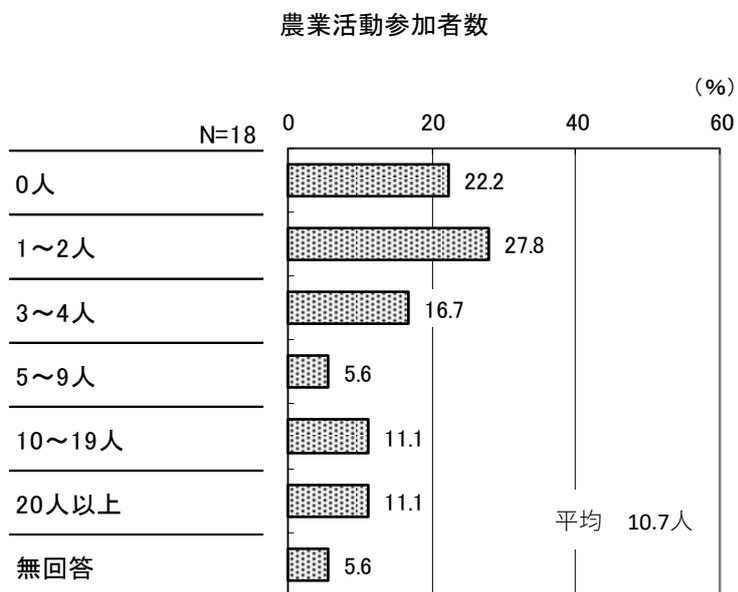
農業活動の支援職員数 専任・兼任の別



## (2) 農業活動の参加者数

支援対象者のうち農業活動の参加者数は「1～2人」が27.8%、「3～4人」が16.7%であり、合わせて4人以下が44.5%を占めている。平均は10.7人である。

注) 令和元年度の実績で回答を求めたため、「実績なし」の場合は「0人」とした。



### (3) 農業活動参加者の属性別構成

農業活動参加者数の属性別構成をみると、性別では男性が73.4%、女性が26.6%、年代別では主として20代から50代までの幅広い構成となっている。無就業の期間別では「1年未満」から「6～10年間」まで分散している。

農業活動参加者数（性別）

N=13	一団体当たり 参加者数	構成比
	(人)	(%)
男性	7.8	73.4
女性	2.8	26.6
計	10.7	100.0

農業活動参加者数（年代別）

N=13	一団体当たり 参加者数	構成比
	(人)	(%)
10代	0.5	4.3
20代	1.8	16.5
30代	1.8	16.5
40代	2.9	27.3
50代	2.1	19.4
60代	0.8	7.2
70代以上	0.9	8.6
計	10.7	100.0

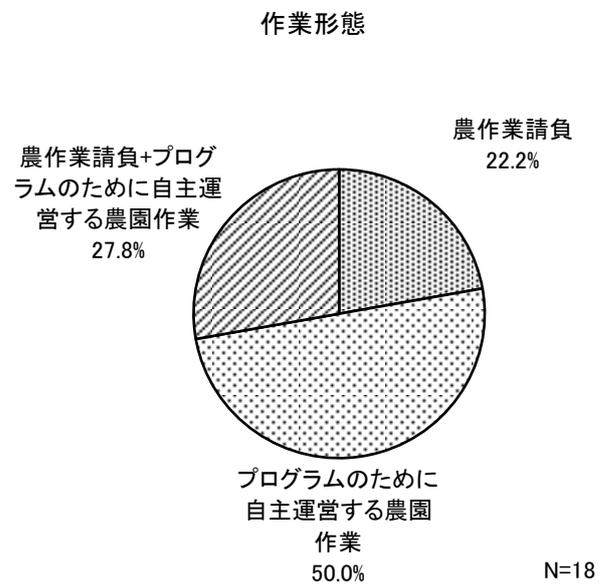
農業活動参加者数（無就業の期間別）

N=12	一団体当たり 参加者数	構成比
	(人)	(%)
1年未満	2.7	23.5
1～3年間	2.1	18.4
4～5年間	2.3	20.6
6～10年間	1.8	16.2
11年間以上	0.7	5.9
不明	1.8	15.4
計	11.3	100.0

## 5. 農業活動の取組み内容

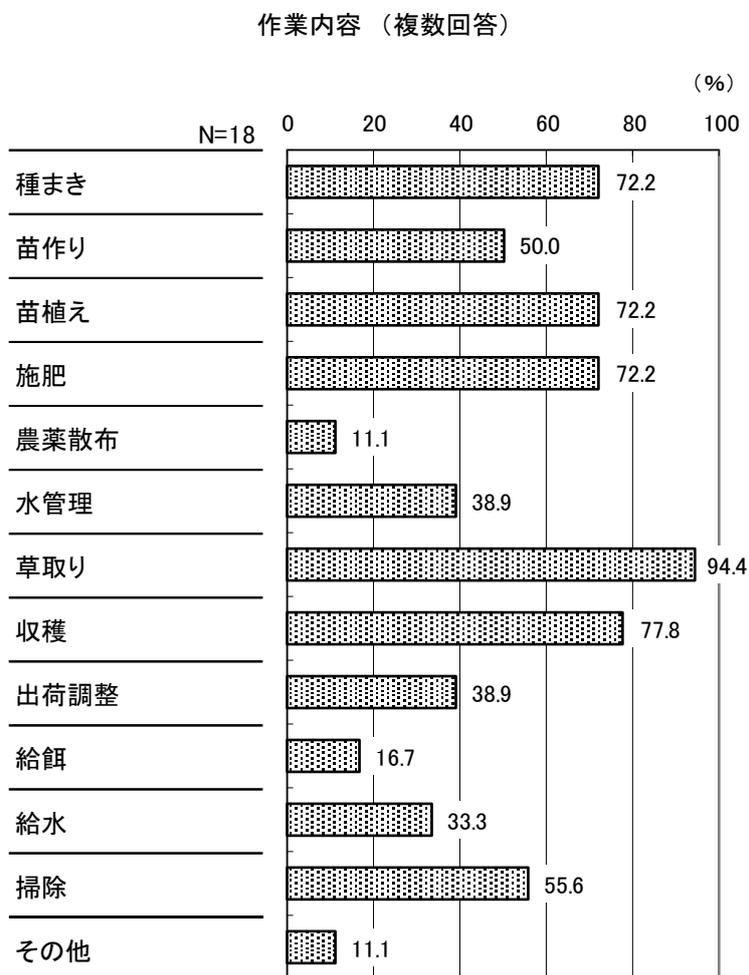
### (1) 作業形態

農業活動の作業形態は、「農作業請負」が22.2%、「プログラムのために自主運営する農園作業」が50.0%、「農作業請負+プログラムのために自主運営する農園作業」が27.8%である。



## (2) 作業内容

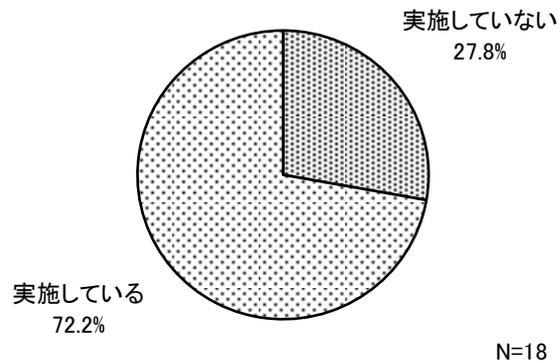
作業内容は「種まき」や「苗植え」から「施肥」、「草取り」、「収穫」など生産プロセスにおける一連の取組みがみられるが、なかでも「草取り」は94.4%に達する。逆に取組みの少ない作業は「農薬散布」、「給餌」などである。畜産の取組みが少ないため「給餌」は少なくなっている。



### (3) 加工・販売等の実施状況

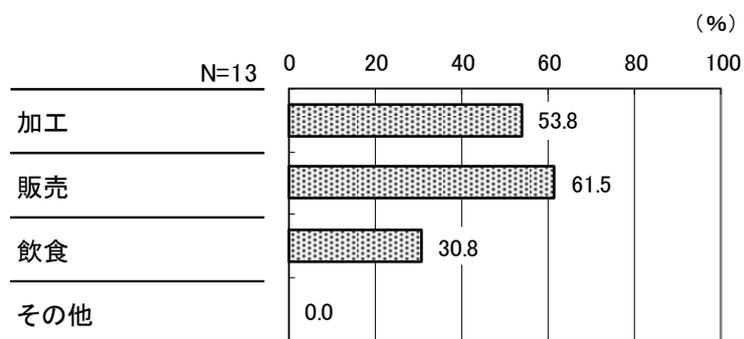
加工・販売等の実施の有無については「実施している」が72.2%、「実施していない」が27.8%であり、農業活動だけでなく6次産業化に取り組む団体が7割を上回る。

加工・販売等 実施の有無



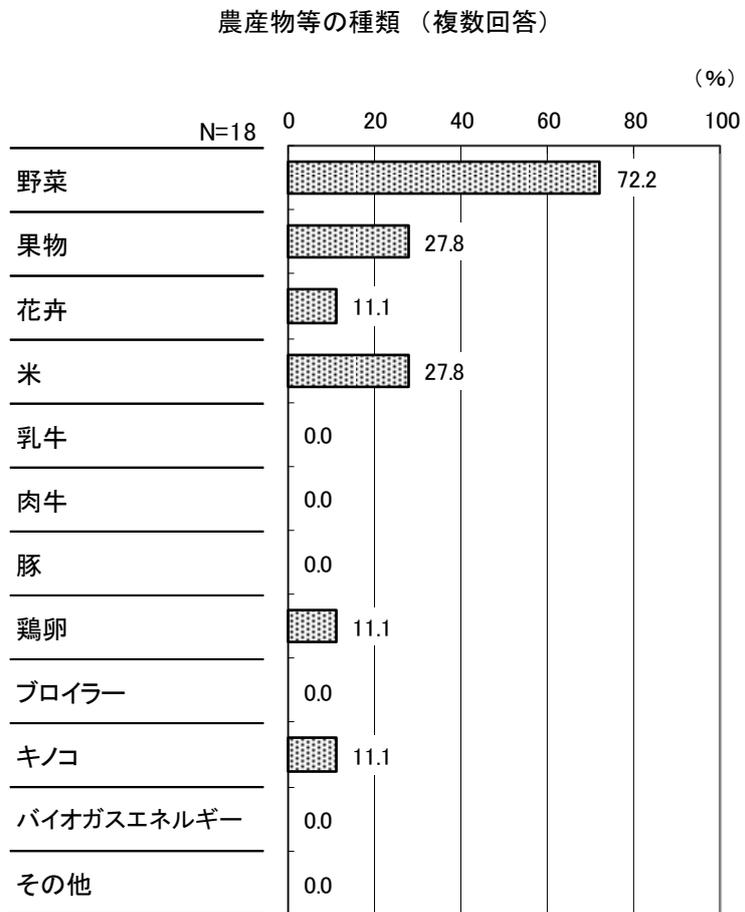
加工・販売等の実施内容は「販売」(61.5%)と「加工」(53.8%)が多く、「飲食」は30.8%である。

加工・販売等 実施内容 (複数回答)



#### (4) 農産物等の種類

農産物等の種類は「野菜」が72.2%と圧倒的に多い。そのほか「果物」、「米」、「花卉」などへの取組みもある。

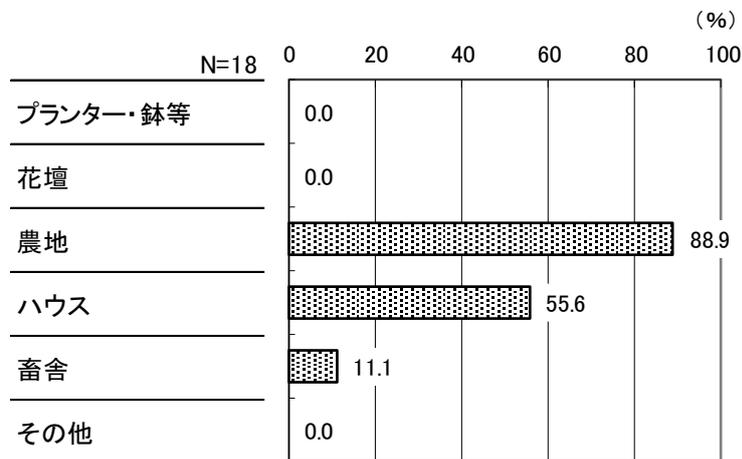


### (5) 農業活動の実施場所

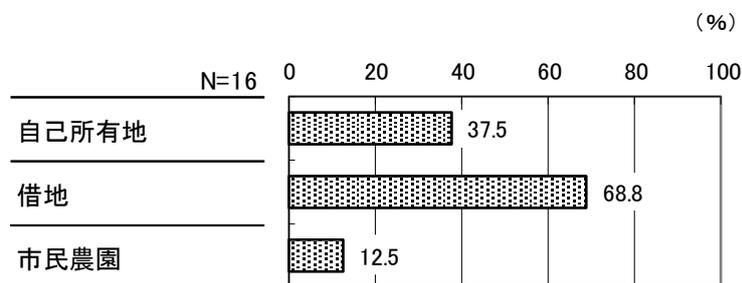
農業活動の実施場所は「農地」が88.9%と圧倒的に多く、「ハウス」も55.6%に達する。

農地の種別は「借地」が68.8%、「自己所有地」が37.5%である。ハウスの種別は「借地」が70.0%、「自己所有地」が20.0%である。農地やハウスのいずれも借地の利用が多数を占める。

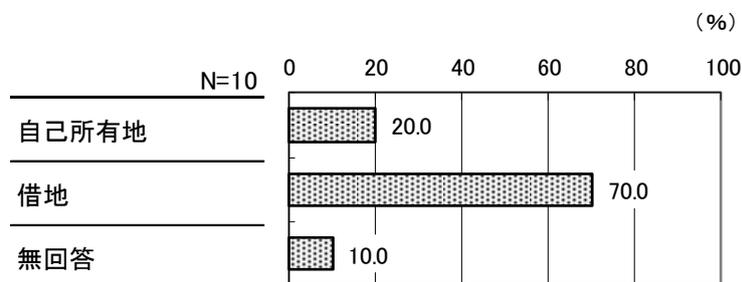
実施場所（複数回答）



農地の種別（複数回答）



ハウスの種別（複数回答）



(6) 農地面積等

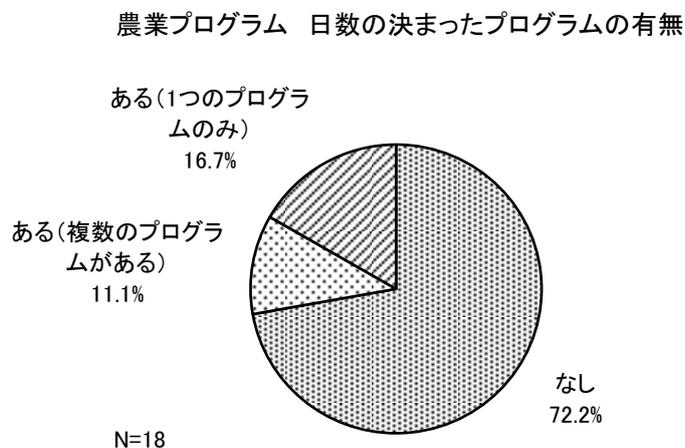
プログラム自主運営の農業活動について農地面積等の回答例をみると、農地の場合1aに満たないものから400aまでさまざまであり、その多くは借地で実施されている。ハウスの場合も1棟から2棟までで面積は概ね10aに満たない規模であるが、中には26棟60aのものもある。

農地			ハウス		
NO	農地面積	うち借地	NO	棟	面積
1	0.4a	0.4a	1	1棟	4.5a
2	0.4a	0.4a	2	1棟	1.5a
3	2a	2a	3	2棟	4.2a
4	10a	10a	4	2棟	9a
5	10a	10a	5	26棟	60a
6	20a	0			
7	30a	0			
8	34a	34a			
9	250a	220a			
10	300a	300a			
11	400a	400a			
12	400a	350a			

## 6. 農業プログラムの実施状況

### (1) 日数の決まったプログラムの有無

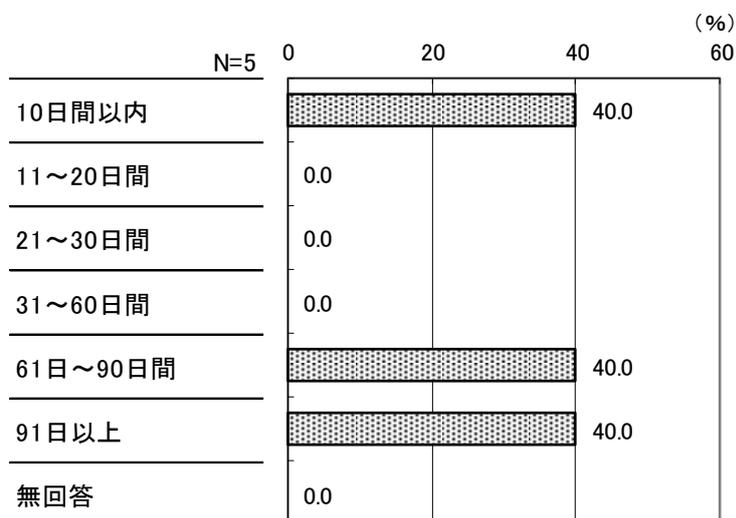
日数の決まったプログラムの有無をみると、「ある（複数のプログラムがある）」が11.1%、「ある（1つのプログラムのみ）」が16.7%である。



### (2) 日数の決まったプログラムの日数

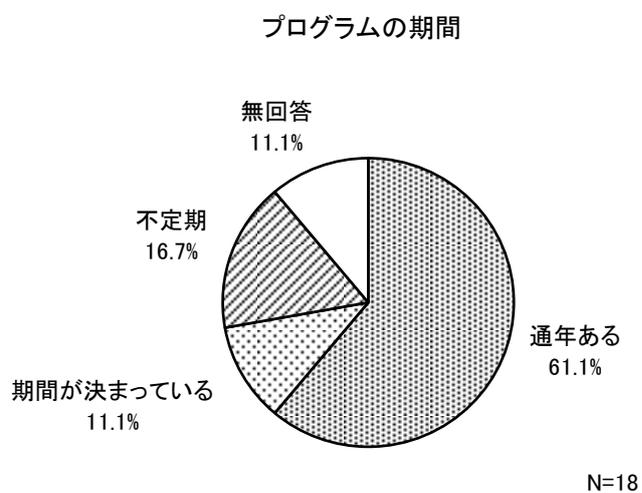
日数の決まったプログラムがある場合、その日数は「10日間以内」、「61日～90日間」「91日以上」などが挙げられている。

プログラムの日数（複数回答）



### (3) プログラムの期間

プログラムの期間は「通年ある」が61.1%、「期間が決まっている」が11.1%、「不定期」が16.7%である。

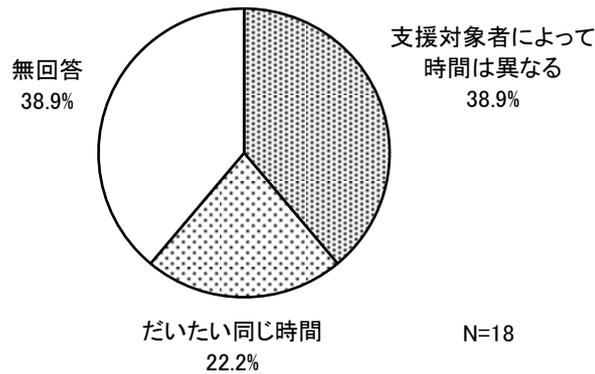


#### (4) 作業時間の決め方と標準的な作業時間

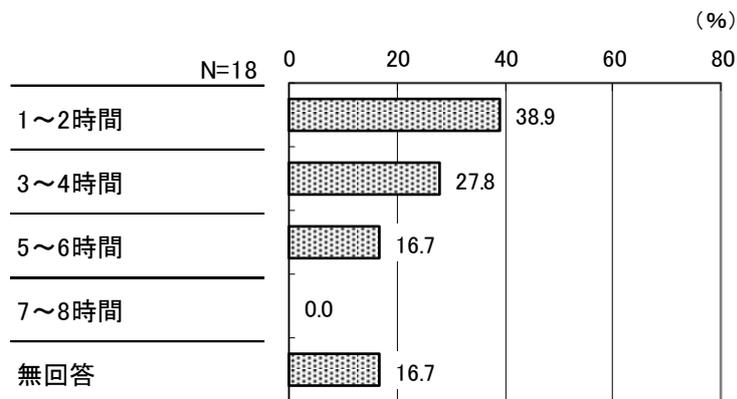
作業時間の決め方は、「支援対象者によって時間は異なる」が38.9%であり、支援対象者の状態によって作業時間を決めるケースが多い。

標準的な作業時間は「1～2時間」が38.9%、「3～4時間」が27.8%であり、長くても4時間以内とする団体が多数を占める。

作業時間の決め方



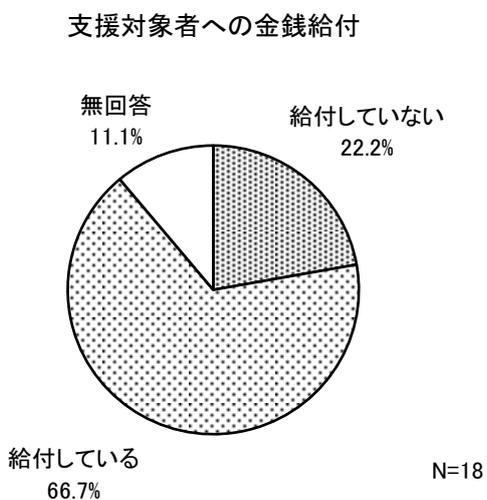
標準的な作業時間



## 7. 支援対象者への金銭給付状況

### (1) 支援対象者への金銭給付

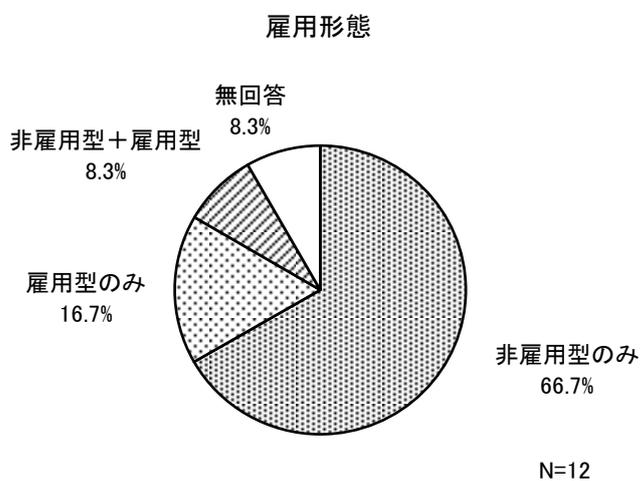
支援対象者への給付金は「給付している」が66.7%、「給付していない」が22.2%である。



### (2) 雇用形態（金銭給付している団体について）

雇用形態は「非雇用型のみ」が最も多く66.7%、「雇用型のみ」が16.7%、「非雇用型+雇用型」が8.3%である。

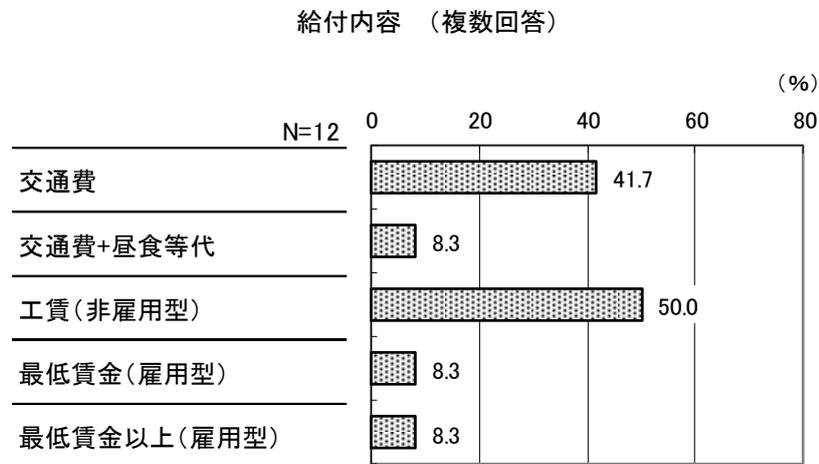
注)「雇用型」:最低賃金以上、「非雇用型」:最低賃金未満



### (3) 給付内容

給付内容は「交通費」41.7%、「工賃（非雇用型）」が50.0%である。

注) 工賃：最低賃金未満の賃金



### (4) 給付金額

給付している工賃・賃金の回答例をみると、1時間当たりの平均工賃は200円から500円の範囲であり、1か月当たりの平均工賃は概ね10,000円から30,000円と幅があるが、最高40,000を超える例もみられる。最低賃金以上の賃金を支払っているところが27.3%（3か所）ある。

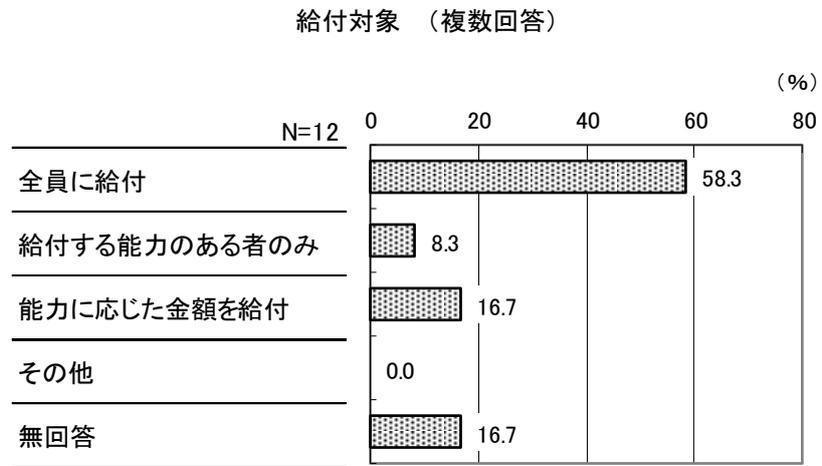
工賃・賃金の回答例

\*工賃：最低賃金未満の賃金

NO	1日当たり 平均工賃 (円/人)	1時間当たり 平均工賃 (円/人)	1か月当たり 平均工賃 (円/人)	最低賃金 1時間当たり 平均 (円/人)	最も高い賃金 1時間当たり 平均 (円/人)
1	400	200	4,800	-	-
2	1,000	500	20,000	868	870
3	1,400	450	20,600	-	-
4	300	-	-	-	-
5	800	-	-	-	-
6	2,100	1,050	25,200	1,050	1,050
7	-	-	-	852	-
8	500	-	-	-	-
9	500	-	10,000~12,000	-	-
10	1,400	350	32,000	-	-
11	2,000	500	42,000	-	-

(5) 給付対象

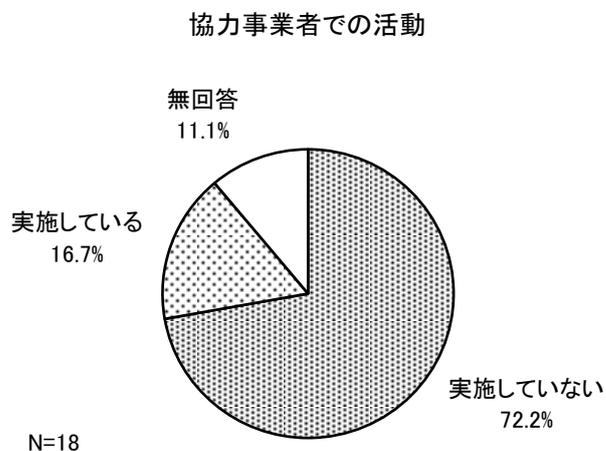
給付対象は「全員に給付」が58.3%と最も多い。



## 8. 協力事業者での活動と保険への加入等

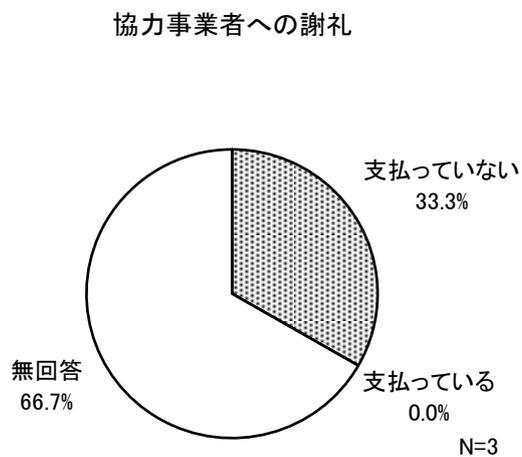
### (1) 協力事業者での活動

支援対象者を受け入れてくれる外部の協力事業者において農業活動を実施しているか否かについては、「実施している」が16.7%、「実施していない」が72.2%である。



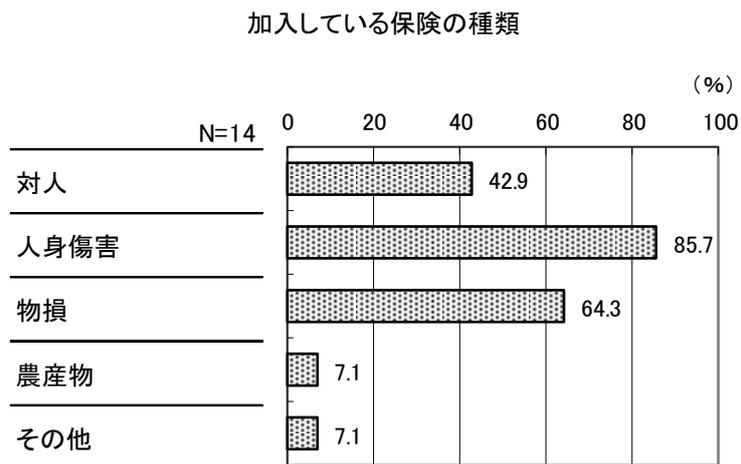
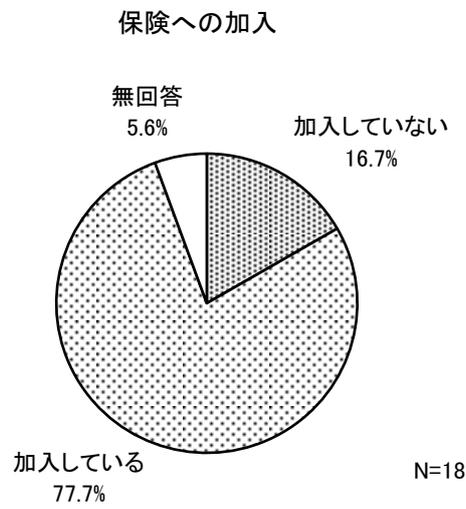
### (2) 協力事業者への謝礼

協力事業者での活動を実施している団体は3件であるが、協力事業者への謝礼は「支払っている」とする団体はなかった。



### (3) 保険への加入

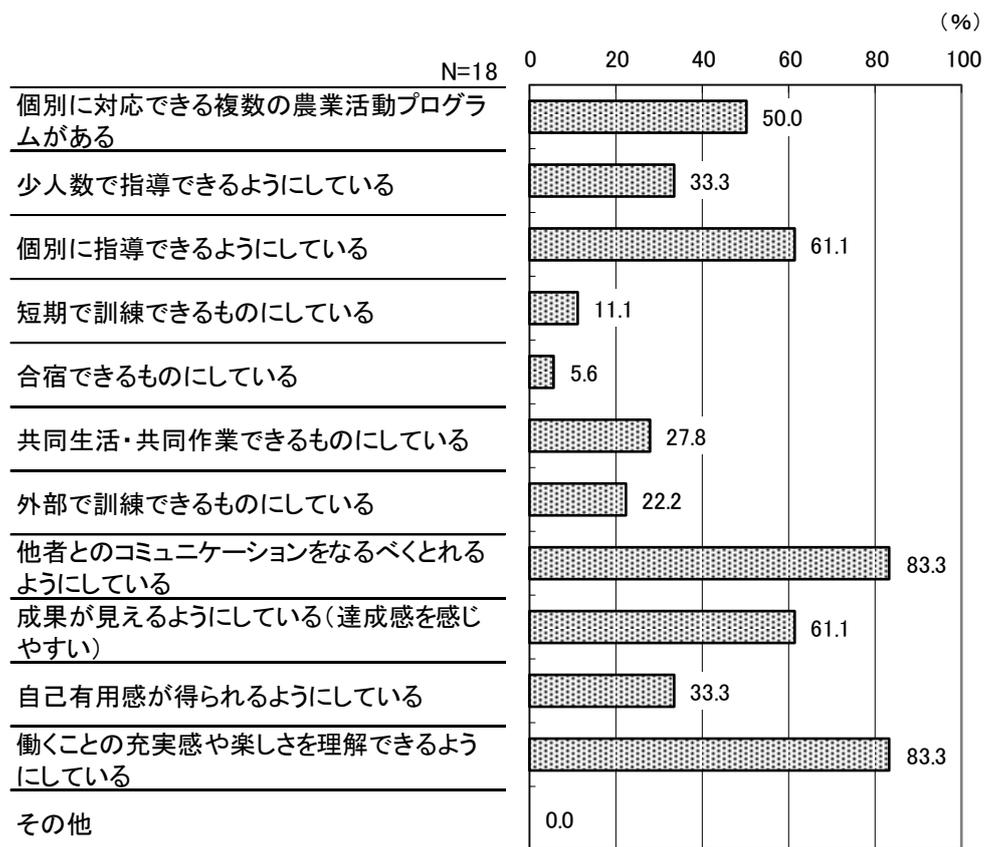
農業活動に当たって保険に加入しているか否かをみると、「加入している」が77.7%に達する。加入している保険の種類は「人身傷害」、「物損」、「対人」、「物損」が多い。



#### (4) 支援対象者の農業活動で重視していること

支援対象者の農業活動で重視していることをみると、「他者とのコミュニケーションをなるべくとれるようにしている」(83.3%)と「働くことの充実感や楽しさを理解できるようにしている」(83.3%)への回答が飛びぬけて多い。次いで「個別に指導できるようにしている」(61.1%)、「成果が見えるようにしている(達成感を感じやすい)」(61.1%)、「個別に対応できる複数の農業活動プログラムがある」(50.0%)などが上位を占めている。

支援対象者の農業活動 重視していること (複数回答)



## 9. 農業活動の実施による支援対象者の変化

農業活動の実施による支援対象者の変化についてみると、「良くなった」の割合は<生活のリズム>と<コミュニケーション力>でそれぞれ66.7%に達している。そのほか<精神の状況>や<就労リズム>でも61.1%、<体の状況>や<繋がる人間関係者数(知人・友人等の付き合い人間関係の数)>でも55.6%となっており、農業活動の効果を認める団体等が多数を占める。

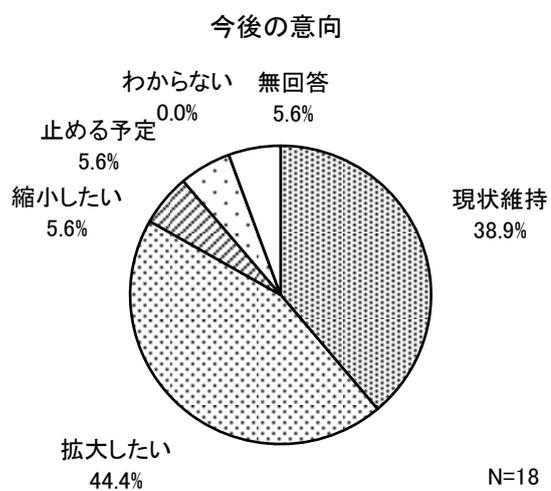
農業活動の実施による支援対象者の変化

	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答
N=18				
精神の状況	61.1	11.1	27.8	0.0
体の状況	55.6	16.7	27.8	0.0
生活リズム	66.7	5.6	27.8	0.0
就労リズム	61.1	11.1	27.8	0.0
コミュニケーション力	66.7	5.6	27.8	0.0
繋がる人間関係者数	55.6	16.7	27.8	0.0
自己有用感	50.0	22.2	27.8	0.0

## 10. 今後の意向と課題

### (1) 今後の意向

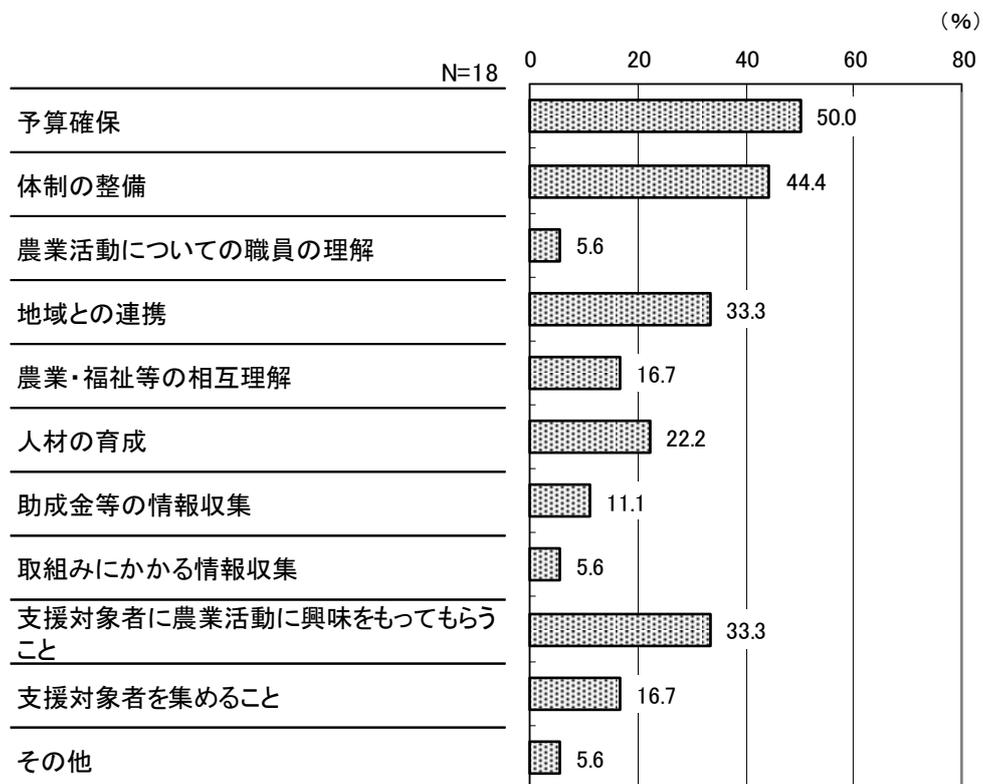
農業活動についての今後の意向をみると、「現状維持」が38.9%、「拡大したい」が44.4%である。



## (2) 農業活動に取り組むに当たっての課題

農業活動に取り組むに当たっての課題をみると、「予算確保」(50.0%)、「体制の整備」(44.4%)、「地域との連携」(33.3%)、「支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと」(33.3%)などが上位を占めている。

農業活動に取り組むに当たっての課題（複数回答）



### (3) 今後の意向についての自由記述

今後の意向について理由等の自由記述をみると、＜拡大したい＞の場合、支援対象者への効果、需要面からの必要性、既存事業との連携などに関する記述がある。

#### 今後の意向についての自由記述

##### 【現状維持】

施設利用者の生きがい・健康づくりと自立に向けた事業の一環でもあるため。
自分のペースで仕事ができ競争心がなくゆったりとした気持ちで仕事をして欲しいため。
労働力の確保という面では助かっている部分はあるが、それ以外は正直、訓練プログラムをご本人に合わせて作っていくことがかなりの重荷です。

##### 【拡大したい】

体力向上、精神の安定が図れるだけでなく、農業への関心を引き出し、農業分野への就労へ繋がったケースも複数あった。農業を通じた支援には非常に可能性を感じる。
支援対象者の30～40%は、何らかの障害の可能性があり、土に触れること自体に効果があると思います。また、面談室を離れて畑で話すことは解放感もあって、通常の面談では得られない効果も期待できます。
まだこの事業の必要性のある人が多くいると思うから。
利用者の人数が増加傾向にあるため。
収穫目標の設定に追いついていないため、収量増加を目指した取り組みを継続していきたい。
生活困窮者（就労訓練）の支援対象者としては今のところ見学者のみで実際の対象者がいないため、障害福祉サービスとして約30年間培った農作業の取り組みをPRして行きたい。
今以上にシェアホームを活用した作業・支援を検討したいと思っています。

##### 【縮小したい】

支援活動はしたいと思いますが、損益を考えると予算の確保が難しい。どうしても農作業は赤字になります。
---

##### 【止める予定】

一般就労が決まったから。
--------------

#### (4) 農業活動の取組みについての自由記述

農業活動の取組みについての自由記述をみると、事業を継続する上での厳しい収益性、人員やプログラム充実に向けての資金援助への言及がみられる。

##### 農業活動の取組みについての自由記述

弱小な法人ゆえに受け入れに限界を感じています。支援員に対する補助金があればもう少し丁寧な支援ができると思います。
弊団体では他の支援活動を行っている職員が全て兼任で農業を通じた支援も担当しています。農業、それに関わる活動を専任で行う職員の確保が必要であると感じているが、人員の問題もあり難しいのが現状です。
現行の制度では、本人ごとに訓練プログラムと評価の仕組みを作る負担が大きく、きめ細かいサポートができ難い状況です。しっかりと時間をとってプログラムや評価の仕方などに取り組める資金的な環境整備が求められます。
支援対象者が農業を望んでいるか、農業に可能性があるかというアセスメントを相談員がしっかりとっていただきたい。障がいボーダーだから土いじりと決めつけてしまわないで欲しい。また対象者には「お金」というモチベーション維持のアイテムが必要なので、事業者がもちだしている今のシステムでは、継続して対象者を引き受けるかどうかの選択に慎重になってしまいます。
がっちり収入が欲しい訳でなく仕事が常にあり赤字にならない程度の収入で利用者が満足いく工賃を稼ぐため、農業に携わる人材確保と専門的な知識を持った指導者がいると活性化されると思う。現状は工賃を支払うだけの収入はなく、他の事業から繰り入れしている状況です。
農作業は天候に左右されることが多く、成果が出にくい作業なので、利益を考えると、精神的には良くても生活するだけの収入を得ることが難しい。もう少し農作業で収入をアップできることを考えたい。

## 11. 参考資料

### 就労訓練事業における林業活動の事例

団体名	団体A
取組み開始時期	1年未満
きっかけ	林業活動に生活困窮者への効果があると思った 地域農業の活性化に繋がると思った 林業関係者から頼まれた
林業活動参加者	12名
性別	男性:10名 女性:2名
年代別	10代:2名 20代:4名 30代:2名 40代:2名 50代:2名
無就業の期間別	1年未満:11名 6~10年間:1名
林業担当の支援職員数	専任0名 兼任4名 合計4名
作業形態	林業請負
作業内容	薪づくり
林業請負での年間延べ面積	請負のため不明
林業活動プログラム	複数のプログラムあり→11~20日間
プログラムの期間	期間が決まっている
作業時間の決め方	大体同じ時間
標準的な作業時間	1~2時間
支援対象者への金銭給付	あり→非雇用型のみ
給付内容	工賃(非雇用型)→1日当たり1000円/人
給付対象者	全員に給付
受け入れ協力事業者	なし
保険の有無	加入している→対人、人身傷害
重視していること	個別対応の複数プログラム、少人数での指導、合宿、 共同生活・共同作業、他者とのコミュニケーション、 成果が見える、自己有用感、働くことの充実感や楽しさ
支援対象者の変化 (良くなったこと)	精神の状況、体の状況、コミュニケーション力、繋がる人間関係者数、自己有用感
今後の意向 その理由	拡大したい
取り組むに当たった課題	予算確保、体制整備、地域との連携
取組みについて (自由記述)	現在富山県立大学の研究チームの協力のもと林業と自立支援活動、地域との連携体制作りを行っている。支援対象者への工賃も大学の研究費用から充てる形で支払っている状態である。いずれは研究費用ではなく林業活動を行った正当な対価として工賃を稼ぎ、支援対象者へ支給できる体制を確立していくことが課題である。

## V.明らかになった主な状況と課題

### 【就労準備支援事業】

#### ～自治体・委託先の全体状況～

◎支援対象者の特性は、コミュニケーション力が低い、ひきこもり状態の方、収入がない者が多い。または3～4割台ほどが発達障害あるいは身体・知的・精神障害の可能性のある方という。

◎自治体が農業分野等に取り組んでいるのは16.7%で、今後取り組む予定や検討しているのは4割近くであるのに対して、委託先では4割が取り組んでおり、今後予定や検討しているのは2割であることから、委託先は既に農福連携に取り組んでいるところも多いと考えられる。自治体は、前向きに考えているところが多いといえる。

取り組んでいないという理由をみていくと、自治体・委託先ともに農業のための施設・機具、技術、農地がないことを主な理由としている。さらには支援対象者を集めることが難しい、対象者にはそもそも体力がないのではないかな等の不安を持っている。したがって、取り組むための課題でも、自治体・委託先ともに指導できる人材・農地・資材等の確保を上げている。特に委託先では実施のための助成金を期待している。

これから取り組もうとしている課題としては、体制整備、関係部署との連携、農業・福祉等の相互理解が挙げられている。特に委託先では体制整備と予算確保が自治体に比べ多い。

◎取組みを開始したきっかけについては、委託先では農福連携に可能性や希望を抱き、また地域農業のため、行政に依頼されて開始している。農福連携に期待を寄せていることが窺える。

◎農業分野等の取組みを実施しているのは、自治体では「農業活動」は5件(100%)、委託先では「農業活動」は79件(96.3%)とほとんどが農業活動である。

#### ～実際に農業活動に取り組んでいる委託先状況～

◎開始した時期は、この2年以内が4割近くを占め、きっかけは主として農業活動に生活困窮者への効果を期待して始めている(56.8%)。

◎実施体制は1.9人(兼務が半数)で、支援対象者の中の農業活動参加者数は平均5.8人であるが、5人未満が半数以上を占め、10人以上でも16.0%と、少人数と多いところに分かれる。

参加者は男性：女性＝3：1、年代は20代～60代と幅広い層が参加し、無就業であった期間も「1年未満」から「11年間以上」といろいろな人々が参加している。

◎農業活動の作業形態は、「農作業請負」と「プログラムのために自主運営する農園作業」がそれぞれ4割を占め、参加者が少ないと前者、参加者が多いと後者を実施する傾向にある。

「種まき」から「出荷調整」まで作業内容は多岐にわたるが、比較的作業しやすい「収穫」が特に多い。反対にノウハウを必要とする「農薬散布」は少なくなっている。「プログラムのために自主運営する農園作業」ではさまざまな作業を行っているが、「農作業請負」では請負のため作業が限定されている傾向がある。なお、加工・販売等を「実施している」ところは3割弱ある。

栽培している農作物等は「野菜」が80.2%、そのほか「果物」、「米」、「花卉」などがある。

◎プログラム自主運営の農業活動についての実施場所は、「農地」が81.4%と圧倒的に多く、農地の種別は「借地」が65.7%、そして「市民農園」が31.4%を占めている。農地面積は1a～250aとさまざまで、市民農園の小規模な場も一定数ある。

日数の決まったプログラムが「ある(複数のプログラムがある)」のは17.3%、「ある(1つのプログラムのみ)」が16.0%と1/3がプログラムを有しており、また参加者数が多くなるほど「ある」とする割合が高い。プログラムの日数は20日間以内が2/3を占め、通年プログラムがあるのは44.4%であるが、参加者が多いほどその割合も高い。

1日当たりの作業時間は、「支援対象者によって時間は異なる」が34.6%、「だいたい同じ時間」が25.9%であり、標準的な作業時間は「1～2時間」が44.4%、「3～4時間」が32.1%であり、長くて4時間以内が多い。

◎支援対象者を受け入れてくれる外部の協力事業者において農業活動を「実施している」が4割で、「農作

業請負」をしているところが多い。そのうち約1/3が事業者へ謝礼を支払っている。

◎農業活動に当たって保険に「加入している」が8割ほどに達する。加入している保険の種類は「人身傷害」、「対人」、「物損」などが多い。

◎支援対象者の農業活動で重視していることは、働くことの意欲を高めることやコミュニケーション力・自己有用感の向上を重視しており、そのために少人数・個別指導ができるようにしたり、成果を見えやすくしているなどの工夫をしていると考えられる。

◎農業活動の実施による支援対象者の変化についてみると、6～7割の団体が農業活動の効果を認めている。生活リズムが整い、精神や体の状況が改善し、繋がる人間関係者数や自己有用感やコミュニケーション力が増えている。「良くなった」の割合を参加者数別にみると、どの項目においても参加者数が多くなるにつれ高くなっている。作業形態別にみると、多くの項目でプログラム自主運営の方が農作業請負に比べ高い。

◎農業活動についての今後の意向をみると、「現状維持」が48.1%、「拡大したい」が34.6%である。農業活動参加者数別にみると、「拡大したい」の割合は参加者数規模の大きいところでの拡大意向が強い。

◎農業活動に取り組むに当たっての課題については、体制整備と予算確保が必要であり、支援対象者に興味を持ってもらい、地域と連携して行うことを主な課題としてあげている。農業活動に取り組むに当たっての課題を今後の意向別にみると、＜現状維持＞の上位3位は「予算確保」、「支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと」、「体制の整備」であり、＜拡大したい＞の上位3位は「体制の整備」、「農業・福祉等の相互連携」、「地域との連携」である。特に体制を整備することが大きな課題となっており、そのための予算の確保などが期待されていることが推察される。そして拡大するためには連携体制の構築が求められている。

## 【就労訓練事業】

### ～団体等の全体状況～

◎障害福祉・介護保険サービス事業を実施しているところが6割以上で福祉関係団体等が多い。

◎支援対象者の特性は、コミュニケーション力が低い、ひきこもり状態の方、収入がない者が多い。または4割ほどが発達障害あるいは身体・知的・精神障害のある方という。

◎農業分野等の取組み状況では、「取り組んでいる」のが約4割で、今後取り組む予定や検討しているところは1割以上ある。

農業分野等に取り組んでいない理由は、そもそも農林水産業を実施していないところが6.5割を占め、そのほか農業の技術がないが8割、施設・器具がないが6割以上を占めている。そして取り組むための課題としては、指導できる人材確保、農地・資材等の確保が必要としている。

これから取り組もうとしている団体等における農業分野等に取り組むための課題をみると、地域との連携、実施するための体制整備があげられている。

◎取組みを開始したきっかけについてみると、既に障害者等の農福連携に取り組んでいたり、新たな農福連携の可能性などを抱き始めたところが多い。また1/4ほどが地域貢献や地域農業の活性化にも繋がることをイメージしている。

◎取り組んでいる農業分野等の種類は、「農業活動」は18件（94.7%）であった。それ以外では「林業活動」は1件（5.3%）、「厚生労働省生活困窮者等の就農訓練事業」は2件（10.5%）で、農業活動がほとんどであった。

### ～実際に農業活動に取り組んでいる団体等～

◎開始時期は、この2年以内が1/3を占める。

◎取組みを開始したきっかけは、農福連携にヒントを得て、農業活動による生活困窮者への効果を期待している。

◎実施体制は4.8人で、専任職員を置いていない団体が約4割となっている。支援対象者のうち農業活動の参加者数は4人以下が44.5%を占め、平均参加者数は10.7人である。

参加者の性別は男性：女性＝3：1で、年代としては20代～50代まで、無就業の期間別では「1年未満」

から「6～10年間」までと幅広い。

◎農業活動の作業形態は、「農作業請負」が約2割、「プログラムのために自主運営する農園作業」が5割、「農作業請負+プログラムのために自主運営する農園作業」が3割弱である。

作業内容は「種まき」から「出荷調整」まで多岐にわたるが、なかでも「草取り」が多い一方（就労準備支援事業では「収穫」が多かった）、ノウハウを必要とする「農薬散布」「給水」は少ない。加工・販売等の実施については「実施している」ところが就労準備支援事業より多く、7割を超えている。

栽培している農産物等は「野菜」が72.2%と圧倒的に多いが、そのほか「果物」や「米」が27.8%と、就労準備支援事業に比べいろいろな種類を栽培している。

◎農業活動の実施場所は「農地」が88.9%と圧倒的に多く、「借地」が68.8%、「自己所有地」が37.5%と就労準備支援事業に比べると「市民農園」が少なく所有地が多い。

◎プログラム自主運営の農業活動についての農地面積は1a～400aまでさまざまである。

日数の決まったプログラムが「ある（複数のプログラムがある）」が11.1%、「ある（1つのプログラムのみ）」が16.7%と就労準備支援事業よりやや少ない3割弱である。またプログラムがある場合、その日数は「10日間以内」「61日～90日間」「91日以上」に分かれており、就労準備支援事業より長期間のものが取り組まれている。また通年プログラムがあるのは6割を超えており、就労準備支援事業よりも多い。

1日の作業時間は「支援対象者によって時間は異なる」が約4割で、支援対象者の状態によって作業時間を決めるケースが多い。また標準的な作業時間は「1～2時間」が38.9%、「3～4時間」が27.8%で、就労準備支援事業とはほぼ同じで、長くても4時間以内が多い。

◎支援対象者への給付金は「給付している」ところが2/3で、その場合の雇用形態は「非雇用型のみ」が最も多く66.7%、「雇用型のみ」が16.7%、「非雇用型+雇用型」が8.3%である。給付内容は「交通費」41.7%、「工賃（非雇用型）」が50.0%で、給付している工賃・賃金をみると、1時間当たりの平均工賃は主として200円～500円であるが、最低賃金以上の賃金を支払っているところもある。「全員に給付」しているところが58.3%あるが、そのほかは能力に応じて支払っている。

◎支援対象者を受け入れてくれる外部の協力事業者において農業活動を「実施している」のは16.7%と多くない。これは自主運営する農園でのプログラムが多いことによると推察される。

◎農業活動に当たって保険に「加入している」が8割弱で、その種類は「人身傷害」「物損」「対人」などが多い。

◎支援対象者の農業活動で重視しているのは、コミュニケーション力や働くことの意欲を高めることを重視しており、そのために個別指導ができるようにしたり、プログラムを複数用意し、成果を見えやすくしているなどの工夫をしている。

◎農業活動の実施による支援対象者の変化についてみると、5～6.5割ほどの団体が農業活動の効果を認めている。生活・就労リズムが整い、精神や体の状況が改善し、繋がる人間関係者数やコミュニケーション力が増えている。

◎農業活動についての今後の意向をみると、「現状維持」が38.9%、「拡大したい」が44.4%で、多くが取組みを拡大していきたいとし、就労準備支援事業と比べても多い。

◎農業活動に取り組むに当たっての課題をみると、予算確保と体制整備が必要であり、地域と連携し、支援対象者に興味を持ってもらうことが主な課題となっている。

## 【効果とニーズ】

就労準備支援事業・就労訓練事業双方で農業活動の取組みによる効果を期待して取り組み始め、取り組んだことによって生活・就労のリズムが整い、精神や体の状況が改善し、繋がる人間関係者数の増加、コミュニケーション力の向上が認められている。また就労準備支援事業においては農業活動の取組みに前向きな自治体や委託先が多く、今後のさらなる取組みが期待される。また林業活動や水産業活動もまだまだ少ないことから今後の取組みが望まれよう。

そして取り組んでいるところの今後の意向をみると、就労準備支援事業と就労訓練事業の双方で「現状維持」が5割弱・4割弱、「拡大したい」が3.5割・4.5割で、取組み拡大に強い意欲を持っている。

## 【今後へ向けて】

### (1) 就労準備支援事業

#### 1) 既に取り組んでいるところ

農業活動に取り組む期待通りの効果を認めており、活動の継続と拡大を望んでいる。だがそのためには、以下の4つが求められている。

- ① 体制整備
- ② 予算確保
- ③ 支援対象者に興味を持ってもらうこと
- ④ 地域との連携

#### 2) 取り組んでいないところ

今後取り組みを開始していくためには、以下の4つが必要としている。

- ① 人材確保
- ② 農地確保
- ③ 資材確保
- ④ 委託先では助成金

#### 3) これから取り組みを予定・検討しているところ

今後取り組みを開始していくためには、以下の3つが必要としている。

- ① 体制整備
- ② 関係部署との連携
- ③ 農業・福祉等の相互理解

### (2) 就労訓練事業

#### 1) 既に取り組んでいるところ

農業活動に取り組む期待通りの効果を認めているといえ、活動の継続と拡大を望んでいる。だがそのためには、以下の4つが求められている。

- ① 予算確保
- ② 体制整備
- ③ 地域との連携
- ④ 支援対象者に興味を持ってもらうこと

#### 2) 取り組んでいないところ

今後取り組みを開始していくためには、以下の3つが必要としている。

- ① 人材確保
- ② 農地確保
- ③ 資材確保

#### 3) これから取り組みを予定・検討しているところ

今後取り組みを開始していくためには、以下の2つが必要としている。

- ① 地域との連携
- ② 体制整備

## 【まとめ】

農業活動に取り組んでいくためには、地域や関係部署・団体との連携体制を構築し、予算（助成金を含む）を確保し、実施のための必要な人材・農地・資材を確保することが求められ、体制を整備することが必要となる。さらには農業活動に対して支援対象者に興味を持ってもらえるようにすることが求められる。また林業活動・水産業活動については、まずは取り組みを増やすことが必要である。





# 地方自治体（農業活動）

## ◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取り組み状況アンケート調査 ～主管部局版(記入シート)・就労準備支援事業における自治体直営の農業活動～

用語の定義

- ①農業活動：収入のための農産物生産を行う農業、訓練・生きがいづくり・健康づくり・社会参加等のためのゆるやか農業、自給・ケア・レクリエーション等のための農的活動
- ◎協力事業者等：自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者

回答の例

8) 鶏卵	8) 鶏卵
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
鶏んだんエッグ	鶏んだんエッグ
をマウスで	をマウスで
リックする	リックする

回答の送り先/問合せ先	回答送り先メールアドレス:selkon-agri@kri.or.jp(またはke-hamada@kri.or.jp)
	一般社団法人JA共済総合研究所 調査研究部 濱田(茂木) 滝木
	〒102-0093東京都千代田区平明町2-7-9JA共済ビル5階 電話:03-3262-9659

※もし資料があれば、メールと一緒に送っていただければと幸いです。

農業活動の経緯や体制等	<p>問13) 農業活動にはいつから取り組んでいますか</p> <p>1) 1年未満 <input type="checkbox"/> 2) 1～2年前 <input type="checkbox"/> 3) 3～5年前 <input type="checkbox"/> 4) 6年前以上 <input type="checkbox"/></p> <p>1) 農業活動に生活困難への効果があると思われるため <input type="checkbox"/> 5) 生活困難者を支援する関係者が頼まれたため <input type="checkbox"/></p> <p>2) 地域農業の活性化に繋がらな思ったため <input type="checkbox"/> 6) 生活困難者の要望により <input type="checkbox"/></p> <p>3) 障害者の雇用増加がポイントを得 <input type="checkbox"/> 7) その他 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 農業関係者が頼まれたため <input type="checkbox"/></p> <p>事業名・プロジェクト名 ( )</p> <p>問14) 取組みを開始したきっかけは何ですか</p> <p>(1) どのように実施していますか</p> <p>1) 直営している <input type="checkbox"/> 以下、(2)ハをおすみください</p> <p>2) 委託している <input type="checkbox"/> ここで回答終了となりますが、(就労準備支援事業・委託先街(記入シート)および(就労訓練事業・委託先街(記入シート)に関する対応(配布表)をお願ひ致します</p> <p>1) いる <input type="checkbox"/> 2) いない <input type="checkbox"/></p> <p>1) ( )人 <input type="checkbox"/> 2) ( )人 <input type="checkbox"/></p> <p>(3) 専業主婦 <input type="checkbox"/> (4) 生活困難者(障害者)以外の障害者を含む職員等の有無 <input type="checkbox"/></p> <p>(5) 生活困難者自立支援制度以外の有無 <input type="checkbox"/></p> <p>(6) 生活困難者自立支援制度以外の有無 <input type="checkbox"/></p> <p>1) あり <input type="checkbox"/> 2) ない <input type="checkbox"/></p> <p>( )円</p> <p>参加者数 ( )名</p> <p>1) 男性 ( )人</p> <p>2) 女性 ( )人</p> <p>2) 年代 ( )10代 ( )20代 ( )30代 ( )40代 ( )50代 ( )60代 ( )70代以上</p> <p>3) 無就業の期間 ( )1～3年間 ( )4～5年間 ( )6～10年間 ( )11年以上 ( )不明</p> <p>1) 専任職員 ( )名</p> <p>2) 兼任職員 ( )名</p> <p>合計 ( )名</p> <p>1) 農業作業員 ( )名</p> <p>2) プログラムのために自主運営する農園作業員 ( )名</p> <p>3) 農業作業員+プログラムのために自主運営する農園作業員 ( )名</p> <p>問19) どのような形態の中で作業ですか</p> <p>1) 畑まき <input type="checkbox"/> 2) 苗植え <input type="checkbox"/> 3) 苗植え <input type="checkbox"/> 4) 施肥 <input type="checkbox"/> 5) 農薬散布 <input type="checkbox"/> 6) 水管理 <input type="checkbox"/> 7) 収穫 <input type="checkbox"/> 8) 収穫 <input type="checkbox"/> 9) 出荷調整 <input type="checkbox"/> 10) 給水 <input type="checkbox"/> 11) 給水 <input type="checkbox"/> 12) 掃除 <input type="checkbox"/> 13) その他 ( )</p> <p>1) 実施していない <input type="checkbox"/> 2) 実施している <input type="checkbox"/></p> <p>1) 加工 <input type="checkbox"/> 2) 販売 <input type="checkbox"/> 3) 飲食店 <input type="checkbox"/> 4) その他 ( )</p> <p>1) 野菜 <input type="checkbox"/> 2) 果物 <input type="checkbox"/> 3) 花卉 <input type="checkbox"/> 4) 米 <input type="checkbox"/> 5) 乳牛 <input type="checkbox"/> 6) 肉牛 <input type="checkbox"/> 7) 豚 <input type="checkbox"/> 8) 鶏卵 <input type="checkbox"/> 9) プロイター <input type="checkbox"/> 10) キノコ <input type="checkbox"/> 11) バイオガスエネルギー <input type="checkbox"/> 12) その他 ( )</p> <p>問20) どのような農産物等を生産していますか(複数回答可)</p> <p>1) 加工 <input type="checkbox"/> 2) 販売 <input type="checkbox"/> 3) 飲食店 <input type="checkbox"/> 4) その他 ( )</p> <p>問21) どのような農産物等を生産していますか(複数回答可)</p> <p>1) 野菜 <input type="checkbox"/> 2) 果物 <input type="checkbox"/> 3) 花卉 <input type="checkbox"/> 4) 米 <input type="checkbox"/> 5) 乳牛 <input type="checkbox"/> 6) 肉牛 <input type="checkbox"/> 7) 豚 <input type="checkbox"/> 8) 鶏卵 <input type="checkbox"/> 9) プロイター <input type="checkbox"/> 10) キノコ <input type="checkbox"/> 11) バイオガスエネルギー <input type="checkbox"/> 12) その他 ( )</p> <p>問22) 経営規模(農地面積、頭数)などを回答ください</p> <p>以下、問22、問23については、問19で(2)プログラムのために自主運営する農園作業員または(3)農業作業員+プログラムのために自主運営する農園作業員と回答された方は以下の問24へお答えください</p> <p>また(1)農業作業員と回答された方は以下の問24へお答えください</p> <p>1) 農地 → ①面積単位を選んで下さい <input type="checkbox"/> m<sup>2</sup> <input type="checkbox"/> ha (町)</p> <p>2) 採卵鳥 ( )羽、プロイター ( )羽</p> <p>3) 肉用牛 ( )頭、肉用牛 ( )頭、交雑牛 ( )頭</p> <p>4) 肉用豚 ( )頭、繁殖母豚 ( )頭</p> <p>5) 繁殖・西洋 ( )箱、繁殖・日本 ( )箱</p> <p>②農地面積 ( )、ハウス面積 ( )、ハウス ( )棟</p>									
-------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問23) 支援場所 (複数回答可)	1) プランナー 1 体系等 <input type="checkbox"/> 2) 花壇 <input type="checkbox"/> 3) 農地 <input type="checkbox"/> 4) ハウス <input type="checkbox"/> 5) 畜舎 <input type="checkbox"/> 6) その他 ( )
問24) 農業プログラム日数等についてご回答ください。(複数回答可)	<input type="checkbox"/> なし → 以下(3)へおすすみください <input type="checkbox"/> ある (複数回答可) <input type="checkbox"/> ある (1つのプログラムのみ) <input type="checkbox"/> ある (複数のプログラムがある) 1) 10日以内 <input type="checkbox"/> 2) 11~20日間 <input type="checkbox"/> 3) 21~30日間 <input type="checkbox"/> 4) 31~60日間 <input type="checkbox"/> 5) 61日~90日間 <input type="checkbox"/> 6) 91日以上 <input type="checkbox"/> 1) 通年ある <input type="checkbox"/> 2) 期間が決まっている <input type="checkbox"/> 3) 不定期 <input type="checkbox"/> 1) 1~2時間 <input type="checkbox"/> 2) 3~4時間 <input type="checkbox"/> 3) 5~6時間 <input type="checkbox"/> 4) 7~8時間 <input type="checkbox"/> 1) 変換してない <input type="checkbox"/> 2) ただただけの両用機 <input type="checkbox"/> 1) 変換してない <input type="checkbox"/> 2) 変換している <input type="checkbox"/> 1) 支払っていない <input type="checkbox"/> 2) 支払っている <input type="checkbox"/> 1) 1日当たり〇円 <input type="checkbox"/> 2) 1時間当たり〇円 <input type="checkbox"/> 3) 1人当たり〇円 <input type="checkbox"/> 4) その他 ( ) 1日当たり平均( )円 1時間当たり平均( )円 1人当たり平均( )円 1) 加入してない <input type="checkbox"/> 2) 加入している <input type="checkbox"/> 3) 〇人 <input type="checkbox"/> 4) 〇人 <input type="checkbox"/> 1) 〇人 <input type="checkbox"/> 2) 〇人 <input type="checkbox"/> 3) 〇人 <input type="checkbox"/> 4) 〇人 <input type="checkbox"/> 1) 〇人 <input type="checkbox"/> 2) 〇人 <input type="checkbox"/> 3) 〇人 <input type="checkbox"/> 4) 〇人 <input type="checkbox"/>
問25) 今後の継続的な作業時期は何時頃くらいですか	<input type="checkbox"/> 1) 個別にお知らせできる複数の農業活動プログラムがある <input type="checkbox"/> 2) 少数で指導できるようにしている <input type="checkbox"/> 3) 個別に指導できるようにしている <input type="checkbox"/> 4) 短期で継続できるようにしている <input type="checkbox"/> 5) 合宿できるようにしている <input type="checkbox"/> 6) 共同生活・共同作業できるようにしている <input type="checkbox"/> 7) 事前に訓練できるようにしている <input type="checkbox"/> 8) 他種とのコミュニケーションをなるべく取るようにしている <input type="checkbox"/> 9) 成果が見えるようにしている (達成感を促すや褒め) <input type="checkbox"/> 10) 自己有用感が得られるようにしている <input type="checkbox"/> 11) 働くことの充実感や楽しさを理解できるようにしている <input type="checkbox"/> 12) その他 ( )
問26) 今後の意向について、当てはまるものを選んでください	1) 現状維持 <input type="checkbox"/> 2) 拡大したい <input type="checkbox"/> 3) 縮小したい <input type="checkbox"/> 4) 止める予定 <input type="checkbox"/> 5) わからない <input type="checkbox"/> 1) 精神的状況 <input type="checkbox"/> 2) 変わらない <input type="checkbox"/> 3) 悪くなった <input type="checkbox"/> 4) 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 体の状況 <input type="checkbox"/> 1) 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 変わらない <input type="checkbox"/> 3) 悪くなった <input type="checkbox"/> 3) 生活リズム <input type="checkbox"/> 1) 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 変わらない <input type="checkbox"/> 3) 悪くなった <input type="checkbox"/> 4) 別居リズム <input type="checkbox"/> 1) 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 変わらない <input type="checkbox"/> 3) 悪くなった <input type="checkbox"/> 5) コミュニケーション <input type="checkbox"/> 1) 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 変わらない <input type="checkbox"/> 3) 悪くなった <input type="checkbox"/> 6) 繋がる人間関係者数 <input type="checkbox"/> 1) 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 変わらない <input type="checkbox"/> 3) 悪くなった <input type="checkbox"/> 7) 自己有用感 <input type="checkbox"/> 1) 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 変わらない <input type="checkbox"/> 3) 悪くなった <input type="checkbox"/>
問27) 今後の意向について、当てはまるものを選んでください	<input type="checkbox"/> 1) 予算確保 <input type="checkbox"/> 4) 地域との連携 <input type="checkbox"/> 7) 助成金等の情報収集 <input type="checkbox"/> 10) 支援対象者を集めること <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 2) 体制の整備 <input type="checkbox"/> 5) 農業・畜産の相互理解 <input type="checkbox"/> 8) 取組みにかかる情報収集 <input type="checkbox"/> 11) その他 ( ) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 3) 農業活動についての職員の理解 <input type="checkbox"/> 6) 人材の育成 <input type="checkbox"/> 9) 支援対象者に農業活動に興味を持ってもらうこと <input type="checkbox"/>
問28) 取組みについて何か感想がありましたらご回答ください	

農業活動前の支援対象者や取組み内容等



<p>(4) 回の標準的な作業時間は印時間くらいですか</p> <p>(5) 自治体以外で協力し支援対象者を受け入れてくれる協力事業者等でも活動を実施していますか →協力事業者等へ謝礼を支払っていますか、 →換算方法</p> <p>(6) 林業活動に当たって保険には加入していますか →加入している場合、金額はいくらですか</p> <p>(7) 支援対象者が林業活動を行うにあたって重視していることは何ですか(複数回答可)</p> <p>(8) 林業活動を奨励して支援対象者に変化はありましたか →ある場合、どのような変化ですか</p>	<p>1) 支援対象者による林業活動の期間は、</p> <p>① 1～2時間 <input type="checkbox"/> ② 3～4時間 <input type="checkbox"/> ③ 5～6時間 <input type="checkbox"/> ④ 7～8時間 <input type="checkbox"/></p> <p>1) 実施していない <input type="checkbox"/> → (6)へおすすみください</p> <p>2) 実施している <input type="checkbox"/></p> <p>1) 支払っていない <input type="checkbox"/> 2) 支払っている <input type="checkbox"/></p> <p>1) 1日当たり円 <input type="checkbox"/> 2) 1週間当たり円 <input type="checkbox"/> 3) 1人当たり円 <input type="checkbox"/> 4) その他 ( )</p> <p>1) 1日当たり円 ( ) 円 1人当たり円 ( ) 円 1) 加入していない <input type="checkbox"/> → (7)へおすすみください</p> <p>2) 加入している <input type="checkbox"/></p> <p>2) ① 対人 ② ② 人身傷害 ③ ③ 物損 ④ ④ 木材・立木等 ⑤ ⑤ その他 ( )</p> <p>1) 短期に当たって林業活動の経験が深まっている <input type="checkbox"/> 7) 外部に相談できている <input type="checkbox"/></p> <p>2) 少しずつ経験を積んでいる <input type="checkbox"/> 8) 他者のコミュニケーションを学ぶことができるようになっている <input type="checkbox"/></p> <p>3) 短期に経験を積んでいる <input type="checkbox"/> 9) 成果が見えるようになっている (達成感を認めています) <input type="checkbox"/></p> <p>4) 短期で訓練できるものになっている <input type="checkbox"/> 10) 自己有用感が得られるようになっている <input type="checkbox"/></p> <p>5) 合宿できるものになっている <input type="checkbox"/> 11) 働くことの意義や楽しさを理解できるようになっている <input type="checkbox"/></p> <p>6) 共同生活・共同作業できるものになっている <input type="checkbox"/> 12) その他 ( )</p>	<p>1) 精神の状況 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>2) 体の状況 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>3) 生活リズム ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>4) 就労リズム ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>5) コミュニケーション力 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>6) 繋がる人間関係者数 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>7) 自己有用感 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p>	<p>1) 現状維持 <input type="checkbox"/> 2) 拡大したい <input type="checkbox"/> 3) 縮がりたい <input type="checkbox"/> 4) 止める予定 <input type="checkbox"/> 5) わからない <input type="checkbox"/></p> <p>1) 希望確保 <input type="checkbox"/> ④ 地域との連携 <input type="checkbox"/> ⑦ 助成金等の情報収集 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 体制の整備 <input type="checkbox"/> ⑤ 原簿・備忘の相互理解 <input type="checkbox"/> ⑧ 取組にかかわる情報収集 <input type="checkbox"/></p> <p>3) 林業活動についての職員の理解 <input type="checkbox"/> ⑥ 人材の育成 <input type="checkbox"/> ⑨ 支援対象者に林業活動に興味を持ってもらうこと <input type="checkbox"/></p> <p>⑩ 支援対象者を集めること <input type="checkbox"/></p> <p>⑪ その他 ( ) <input type="checkbox"/></p>
	<p>問38) 今後の意向について、当てはまるものを選んでください</p> <p>問39) 林業活動に取り組むに当たっての課題について、ご回答ください(主なもの3つまで)</p> <p>問40) 取組みについて何か意見がありましたらご回答ください</p>		

林業活動の支援対象者や取組み内容等

地方自治体（水産業活動）

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～主管部局版(記入シート)・就労準備支援事業における自治体直営の水産業活動～

用語の定義 ①水産業活動:漁業・水産物加工業、訓練、生きがいづくり・健康づくり・社会参加・自給・ケア・レクリエーション等のための活動  
②協力事業者等:自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者

回答の送り先/問合せ先	回答送り先メールアドレス:selkon-agri@kri.or.jp(またはke-hamada@kri.or.jp) 一般社団法人JA経済総合研究所 調査研究部 濱田(茂木)・高木 〒102-0093東京都千代田区平河町2-7-9,JA経済ビル5階 電話:03-3262-9659
-------------	--

回答の別

8) 養卵	<input type="checkbox"/>
8) 養卵	<input type="checkbox"/>

選んだエッセイ  
のバックス内  
をマウスでク  
リックする

※もし資料があれば、メールと一緒に送りたいだけければと存じます。

水産業活動の 経緯や体 制等	問41)水産業活動にはいつから取り組んでいますか。 1) 1年未満 <input type="checkbox"/> 2) 1～2年前 <input type="checkbox"/> 3) 3～5年前 <input type="checkbox"/> 4) 6年前以上 <input type="checkbox"/> 問42)取組みを開始したきっかけは何ですか (主なもの3つまで) <input type="checkbox"/> 1) 水産業活動に生活困窮者への効果が期待できると感じたため <input type="checkbox"/> 5) 生活困窮者支援する関係者から頼られたため <input type="checkbox"/> 2) 地域水産業の活性化に繋がると感じたため <input type="checkbox"/> 6) 生活困窮者の希望により <input type="checkbox"/> 3) 関係者の関係構築からヒントを得て <input type="checkbox"/> 7) その他( ) <input type="checkbox"/> 4) 水産業界関係者から頼られたため 事業名・プロジェクト名 ( ) 問43)水産業活動の事業・プロジェクトに取り 組む役割はどのようなものになっていますか (1)どのように実施していますか <input type="checkbox"/> 1) 運営している → 以下、(2)へお答えください <input type="checkbox"/> 2) 委託している → ここで回答終了となりますが、(就労準備支援事業・委託先版(記入シート))および「就労訓練事業・実施者版(記入シート)」に関する対応(配布等)をお願いします。 <input type="checkbox"/> 1) いる <input type="checkbox"/> 2) いない <input type="checkbox"/> → ( ) 人 <input type="checkbox"/> 人 <input type="checkbox"/> ( ) 人 <input type="checkbox"/> ( ) 人 (3)事業・プロジェクトの専任・兼任等の自任担当者数 (4)生活困窮者担当要員以外の部署を 含む構造的な会議等の有無 (5)構成メンバー (複数回答可) (複数回答可) (6)生活困窮者自立支援制度以外の 予算の有無 1) 有 ( )円 2) ない 参加者数 1) 男性 ( )人 2) 女性 ( )人 3) 年代 ①10代 ( )名 ②20代 ( )名 ③30代 ( )名 ④40代 ( )名 ⑤50代 ( )名 ⑥60代 ( )名 ⑦70代以上 ( )名 ⑧)年未満 ( )名 ⑨)1～3年未満 ( )名 ⑩)3～5年未満 ( )名 ⑪)5～10年未満 ( )名 ⑫)11年以上 ( )名 ⑬)不明 ( )名 3)無就業 ( )名 ⑭)専任職員 ( )名 ⑮)兼任職員 ( )名 ⑯)合計 ( )名 問44)登録支援対象者のうち林業活動への参 加者数何名ですか 1)男性 ( )人 2)女性 ( )人 3)年代 ①10代 ( )名 ②20代 ( )名 ③30代 ( )名 ④40代 ( )名 ⑤50代 ( )名 ⑥60代 ( )名 ⑦70代以上 ( )名 ⑧)年未満 ( )名 ⑨)1～3年未満 ( )名 ⑩)3～5年未満 ( )名 ⑪)5～10年未満 ( )名 ⑫)11年以上 ( )名 ⑬)不明 ( )名 3)無就業 ( )名 ⑭)専任職員 ( )名 ⑮)兼任職員 ( )名 ⑯)合計 ( )名 問45)水産業活動する参加者の属性、1)性 別、2)年代、3)無就業の期間についてお答えく ださい。 1)漁獲 ( )名 2)繁殖 ( )名 3)水産加工 ( )名 4)その他 ( )名 問46)水産業作業担当の支援職員数は何名で すか 1)専任職員 ( )名 2)兼任職員 ( )名 3)水産業請負 2)プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 ( )名 3)水産業請負+プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 ( )名 問47)どのような形態の中での作業ですか 問48)どのような作業内容ですか(複数回答 可) → 魚種等の具体的な内容をお答えください 1)漁獲 ( )名 2)繁殖 ( )名 3)水産加工 ( )名 4)その他 ( )名 問49)年間の延べ活動作業時間について回答 してください 1)水産業作業請負 ( )時間 2)プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 ( )時間 3)水産業請負+プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 ( )時間 問50)水産業活動プログラム日数等について ご回答ください。(複数回答可) 1)日数の決まったプログラムの有無 (2)日数の決まったプログラムがある場合 1)10日間以内 ( )名 2)11～20日間 ( )名 3)21～30日間 ( )名 4)31～60日間 ( )名 5)61日～90日間 ( )名 6)91日以上 ( )名 (3)プログラムは連年ですか 1)連年ある ( )名 2)期間が決まっている ( )名 3)不定期 ( )名 (4)1回の構造的な作業時間は何時間くらい ですか ① 1～2時間 ( )名 ② 3～4時間 ( )名 ③ 5～6時間 ( )名 ④ 7～8時間 ( )名 ⑤ 9時間以上 ( )名
----------------------	---

<p>(5) 貴団が委託先で協力し支援対象者を支援し 入れてくれる協力事業者等でも活動を支援して いますか → 協力事業者等へ謝礼を支払っていますか → 換算方法</p>	<p>→ (6) 入おすみください  <input type="checkbox"/> 1) 実施していない  <input type="checkbox"/> 2) 実施している  <input type="checkbox"/> 1) 支払っていない  <input type="checkbox"/> 2) 支払っている  1) 1日当たり〇円    2) 1時間当たり〇円    3) 1人当たり〇円    4) その他 (    )  日当たり平均(    )円  1時間当たり平均(    )円  1人当たり平均(    )円</p>	<p>→ (7) 入おすみください  2) ① 加入している  2) ① 対人    2) ② 人身被害    2) ③ 物損    2) ④ 魚貝・藻類等物    2) ⑤ その他 (    )  <input type="checkbox"/> 1) 個別に対応できる程度の水産業活動(元気がある)  <input type="checkbox"/> 2) 少数で指導できるようにしている  <input type="checkbox"/> 3) 個別に指導できるようにしている  <input type="checkbox"/> 4) 短期で訓練できるものになっている  <input type="checkbox"/> 5) 余裕できるものになっている  <input type="checkbox"/> 6) 共同生活・共同作業できるものになっている</p>	<p>(7) 支援対象者が水産業活動を行うにあたって 重視していることは何ですか(複数回答可)  <input type="checkbox"/> 7) 外部で訓練できるものになっている  <input type="checkbox"/> 8) 他者のコミュニケーションを多くとっている  <input type="checkbox"/> 9) 成果が見えるようにしている (達成感を感じやすい)  <input type="checkbox"/> 10) 自己有用感が得られるようにしている  <input type="checkbox"/> 11) 働くのが楽や楽しいと理解できるようにしている  <input type="checkbox"/> 12) その他 (    )</p>
<p>(8) 水産業活動を支援して支援対象者に変 化はありましたか → ある場合 どのような変化ですか</p>	<p>1) 精神の状況  <input type="checkbox"/> ① 良くなった    <input type="checkbox"/> ② 変わらない    <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった  2) 体の状況  <input type="checkbox"/> ① 良くなった    <input type="checkbox"/> ② 変わらない    <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった  3) 生活リズム  <input type="checkbox"/> ① 良くなった    <input type="checkbox"/> ② 変わらない    <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった  4) 認知リズム  <input type="checkbox"/> ① 良くなった    <input type="checkbox"/> ② 変わらない    <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった  5) コミュニケーション力  <input type="checkbox"/> ① 良くなった    <input type="checkbox"/> ② 変わらない    <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった  6) 繋がる人間関係者数  <input type="checkbox"/> ① 良くなった    <input type="checkbox"/> ② 変わらない    <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった  7) 自己有用感  <input type="checkbox"/> ① 良くなった    <input type="checkbox"/> ② 変わらない    <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった</p>	<p>1) 現状維持    2) 拡大したい    3) 縮小したい    4) 止める予定    5) わからない</p>	<p>10) 支援対象者を集めること  <input type="checkbox"/> 11) その他 (    )</p>
<p>問15-1) 今後の意向について、当てはまるもの を選んでください</p>	<p>1) 予算確保  <input type="checkbox"/> 4) 地域との連携  <input type="checkbox"/> 5) 農業・福祉の相互理解  <input type="checkbox"/> 6) 人材の育成</p>	<p>7) 助成金等の情報収集  <input type="checkbox"/> 8) 取組みにかかる情報収集  <input type="checkbox"/> 9) 支援対象者に水産業活動に興味を持ってもらうこと</p>	<p>問15-2) 水産業活動に取り組みに当たったこの課  題についてご回答ください(主なものを3つまで)  問15-3) 取組みについて何か意見がありましたら  ご回答ください</p>

就労準備支援事業・委託先用(基礎)

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～就労準備支援事業・委託先用(記入シート)基礎～

就労準備支援事業を実施する団体等の担当者(令和元年度に事業を実施した団体等が対象)

令和元年度実績

【対象】  
【回答】  
【用語】

- ①農業分野等：農業活動、林業活動、水産業活動(水産加工を含む)など
- ②農産物産出：農産者、高齢者、生活困難者等が農業活動に従事する取組み
- ③農業活動：収入のための農産物生産を行う事業、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加等のための農業活動
- ④林業活動：収入のための木材を生産する仕事(苗づくり・植栽・下草刈り・伐打ち・つる刈り・除草・運搬・林道整備・林地残材処理・木材加工など)、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加、自給・ケア・レクリエーション等のための活動
- ⑤水産業活動：漁業・水産加工業、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加、自給・ケア・レクリエーション等のための活動
- ⑥生活困難者：自立相談支援窓口を通じて自立を目指す者
- ⑦団体等：地方自治体より就労準備支援事業を受託、就労訓練事業の認定を受けている社会福祉法人、農業法人、個人事業主など

団体名 \_\_\_\_\_

担当者名 \_\_\_\_\_

担当者名 \_\_\_\_\_

連絡先

メール \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

回答の送り先/問合せ先

回答送り先メールアドレス: seikon-agri@kri.or.jp(またはke-hamada@kri.or.jp)

一般社団法人共済総合研究所 調査研究所 濱田(茂木)、高木

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル5階

電話: 03-3262-9659

回答の例

8) 講師  8) 講師

講義内容: マウスでクリップする

※もし資料があれば、メールと一緒に送っていただけると幸いです。

就労準備支援事業の体制

問1) 貴団体等について

問2) 貴団体等の法人格は、以下のどれですか

問3) 受託および実施している生活困難者自立支援制度に関する事業を選んでください(1つ回答)

問4) 貴団体での就労準備支援事業実施体制

問5) 令和元年度就労準備支援事業の登録制(人数)をお答えください

問6) 令和元年度支援した対象者の1)性別、2)年代別の割合、3)無就業の期間についてお答えください

問7) 支援した対象者の特性を選んでください(5なものから5まで)

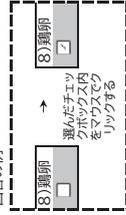
1) 貴団体の名称	2) 貴団体の住所	3) 設立年	4) 法人種別	5) NPO法人	6) 株式会社	7) その他
1) 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/>	1) 市区町村名 ( ) 都道府県名 ( )	( ) 西暦 ( ) 年	2) 社会福祉法人(社協除く) <input type="checkbox"/>	3) 社団法人 <input type="checkbox"/>	4) 財団法人 <input type="checkbox"/>	5) 就労訓練事業+自立相談支援事業 <input type="checkbox"/>
2) 就労準備支援事業 <input type="checkbox"/>	3) 自立相談支援事業 <input type="checkbox"/>	4) 就労準備支援事業+就労訓練事業 <input type="checkbox"/>	5) 自立相談支援事業 <input type="checkbox"/>	6) 就労準備支援事業+自立相談支援事業 <input type="checkbox"/>	7) 就労準備支援事業+自立相談支援事業 <input type="checkbox"/>	8) その他 ( )
1) 専任職員 ( ) 人	2) 兼任職員 ( ) 人	3) 生活保護係職員 <input type="checkbox"/>	4) 自立相談支援 <input type="checkbox"/>	5) 就労準備サポーター <input type="checkbox"/>	6) 介護サポーター <input type="checkbox"/>	7) その他事業 <input type="checkbox"/>
1) 男性 ( ) 人	2) 女性 ( ) 人	3) 無就業	4) 1年未満	5) 1~3年間	6) 3~5年間	7) 6~10年間
1) 10代 ( ) 名	2) 20代 ( ) 名	3) 30代 ( ) 名	4) 40代 ( ) 名	5) 50代 ( ) 名	6) 60代 ( ) 名	7) 70代以上 ( ) 名
1) 本人の収入がない、あるいはほとんどない <input type="checkbox"/>	2) 非正規雇用期間が長い <input type="checkbox"/>	3) 職歴を伸ばしている <input type="checkbox"/>	4) 子育て <input type="checkbox"/>	5) 他者によるケア・コンシェルジュを回ることが難しい <input type="checkbox"/>	6) 身体・心的・精神的に関する障害を有している (可能性がある) <input type="checkbox"/>	7) 発達障害を有している (可能性がある) <input type="checkbox"/>
8) 自立するための生活リズムができていない <input type="checkbox"/>	9) 集中して働くこと体力や精神がない <input type="checkbox"/>	10) 自分で相談窓口に来ることが難しい <input type="checkbox"/>	11) 動労意欲が希薄 <input type="checkbox"/>	12) 自己有用感がない <input type="checkbox"/>	13) 自分の職業能力に自信がない <input type="checkbox"/>	14) 家族との間で何かの問題を抱えている <input type="checkbox"/>

<p>就労準備支援事業の支援対象者・取組み状況等</p>	
<p>問8)事業における就労準備支援プログラムとして「農業分野等(農業・林業・水産業など)」に取り組みられていますか</p> <p>問9) 事業における就労準備支援プログラムとして「農業分野等(農業・林業・水産業など)」に取り組み、かつ、取組んでいる(かつ取組んでいた) → 問9へおすすすみください          取組んでいない(今後とも取組むつもりはない) → 問9へおすすすみください          今後取組む予定 → 問11へおすすすみください          取組む予定がない → 問11へおすすすみください</p>	<p>問12へおすすすみください</p>
<p>問9) 問8で「2」取り組んでいない(かつ取組んでいない)、「3」取り組んでいない(今後とも取組むつもりはない)と回答された方にお聞きします。その理由を教えてください(主なもの3つまで)</p> <p>問10) 問8で「2」取り組んでいない(かつ取組んでいない)、「3」取り組んでいない(今後とも取組むつもりはない)と回答された方にお聞きします。取組みたい(かつ取組むつもりはない)理由を教えてください(主なもの3つまで)</p>	<p>1) 取組んでいる → 問9へおすすすみください          2) 取組んでいない(かつ取組んでいた) → 問9へおすすすみください          3) 取組んでいない(今後とも取組むつもりはない) → 問9へおすすすみください          4) 今後取組む予定 → 問11へおすすすみください          5) 取組む予定がない → 問11へおすすすみください</p> <p>1) 農業分野等の取組がないため          2) 農業分野等を支援するための施設・機材がない          3) 農地等を確保することが難しいため          4) 農業関係者等の理解が乏しいため          5) 職員が不足し、負担が大きいため          6) 農業分野等に効果を得ていない</p> <p>1) 農業技術等を指導できる人材確保          2) 農業分野等を実施するための資材確保          3) 農業分野等を実施するための農地等確保          4) 農業分野等を実施するための農業関係者等の連携          5) 実施のための助成          6) 実施のための雇用情報          7) 実施のための事例情報          8) 実施のためのマニュアル等          9) その他 ( )</p>
<p>◆◆◆◆◆ 上記の問9、問10を回答された方で、就労訓練事業を実施していない場合は、ここで回答終了です(ご協力ありがとうございました) ◆◆◆◆◆          就労訓練事業を実施している場合は【就労訓練事業-実務研修(記入シート)】へおすすすみください</p>	
<p>問11) 問8で「4) 今後取組む予定」、「5) 取組んでいます」と回答された方にお聞きします。就労準備支援事業(農業分野等(農業・林業・水産業)・工業分野(工業・水産業)・これらから取組むに当たっての課題についてご回答ください(主なもの3つまで)</p>	<p>1) 予算確保          2) 体制の整備          3) 農業分野等についての職員の理解          4) 地域との連携          5) 農業・福祉等の相互理解</p> <p>6) 人材の育成          7) 助成金等の情報収集          8) 取組みにかかるとの情報収集          9) その他 ( )</p>
<p>問12) 問8で「1」取り組んでいると回答された方にお聞きします。取組みを開始したきっかけは何ですか(主なもの3つまで)</p>	<p>1) 行政に頼まれて          2) 地域商社のため          3) 農協・福祉サービス事業を取り組んでいたため          4) 黒箱連携に可能性があると聞いたため          5) 黒箱連携に可能性があると聞いたため</p> <p>6) 地域農業の活性化に繋がると感じたため          7) その他 ( )</p>
<p>問13) 就労準備支援事業における取組みの進捗としてどのようなことに取り組んでいますか</p>	<p>1) 農業活動 → 問14へおすすすみください          2) 林業活動 → 問28へおすすすみください          3) 水産業活動 → 問40へおすすすみください          4) 厚生労働省(生活困窮者等の就労訓練事業) → 問41-①期間          4)-② 運営または委託し実施していますか 4)-③ これまで何人が参加しましたが 4)-④ そのような研修ですか          年度～ 年度 □ア) 直営 □イ) 委託          ( ) 名 ( ) 名          □ア) 基礎的研修 □イ) 発展的研修 □ウ) 基礎的研修・就農訓練 □エ) その他 ( )</p>

就労準備支援事業・委託先用（農業活動）

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～就労準備支援事業・委託先用版(記入シート)・農業活動～

用語の定義  
①農業活動:収入のための農産物生産を行う農業、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加等のためのゆるやか農業、自給・ケア・レクリエーション等のための農的活動  
②協力事業者等:自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者



回答の送り先/問合せ先	回答送り先メールアドレス: <a href="mailto:seikon-agnf@kri.or.jp">seikon-agnf@kri.or.jp</a> (または <a href="mailto:ike-hamada@kri.or.jp">ike-hamada@kri.or.jp</a> )
	一般社団法人JA共済総合研究所 調査研究部 瀬田(茂木)・高木
	〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル5階 電話:03-3262-9659

※もし資料があれば、メールと一緒に送っていただければと存じます。

問14) 問13で1)取り組んでいると回答された方にお聞きします。いつから取り組んでいますが農業活動にはいつから取り組んでいますか	1) 1年未満 <input type="checkbox"/> 2) 1～2年前 <input type="checkbox"/> 3) 3～5年前 <input type="checkbox"/> 4) 6年前以上 <input type="checkbox"/>
問15) 取組みを開始したきっかけは何ですか(主なもの3つまで)	<input type="checkbox"/> 1) 農業活動に生活困難者への効果があると知ったため <input type="checkbox"/> 5) 生活困難者を支援する関係者から頼られたため <input type="checkbox"/> 2) 地域農業の活性化に関心をもちたいため <input type="checkbox"/> 6) 生活困難者の希望により <input type="checkbox"/> 3) 障害者の農産物運動からヒントを得て <input type="checkbox"/> 7) 行政から依頼されたため <input type="checkbox"/> 4) 農業関係者から頼られたため <input type="checkbox"/> 8) その他( )
問16) 登録支援対象者のうち農業参加者数何名ですか	参加者数 ( ) 人
問17) 農業活動する参加者の、1)性別、2)年代、3)無就業の期間についてお答えください。	1) 男性 ( ) 人 2) 女性 ( ) 人 2) 年代 ①10代 ( ) 名 ②20代 ( ) 名 ③30代 ( ) 名 ④40代 ( ) 名 ⑤50代 ( ) 名 ⑥60代 ( ) 名 ⑦70代以上 ( ) 名 3) 無就業の期間 ①1年未満 ②1～3年未満 ③4～5年未満 ④6～10年未満 ⑤11年以上 ⑥不明 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名
問18) 農業担当の支援職員数は何名ですか	1) 専任職員 ( ) 名 2) 兼任職員 ( ) 名 合計 ( ) 名
問19) どのような形態の中での作業ですか	1) 農作業請負 2) プログラムのために自主運営する農園作業 3) 農作業請負+プログラムのために自主運営する農園作業
問20) どのような作業内容ですか(複数回答可)	1) 種まき <input type="checkbox"/> 2) 苗作り <input type="checkbox"/> 3) 苗植え <input type="checkbox"/> 4) 施肥 <input type="checkbox"/> 5) 農薬散布 <input type="checkbox"/> 6) 水管理 <input type="checkbox"/> 7) 草取り <input type="checkbox"/> 8) 収穫 <input type="checkbox"/> 9) 出荷調整 <input type="checkbox"/> 10) 梱包 <input type="checkbox"/> 11) 給水 <input type="checkbox"/> 12) 掃除 <input type="checkbox"/> 13) その他 ( ) 1) 実施していない <input type="checkbox"/> 2) 実施している <input type="checkbox"/>
問21) どのような農産物等を生産していますか(複数回答可)	1) 野菜 <input type="checkbox"/> 2) 果物 <input type="checkbox"/> 3) 花卉 <input type="checkbox"/> 4) 米 <input type="checkbox"/> 5) 乳牛 <input type="checkbox"/> 6) 肉牛 <input type="checkbox"/> 7) 豚 <input type="checkbox"/> 8) 鶏卵 <input type="checkbox"/> 9) プロロー 10) キノコ <input type="checkbox"/> 11) バイオガスエネルギー <input type="checkbox"/> 12) その他 ( ) (1) 加工や販売等は実施していますか (2) 加工や販売等を実施している場合、どのような内容ですか(複数回答可)
問22) 経営規模(農地面積、頭数)などを回答ください	◆◇◆◇以下、問19で(2)プログラムのために自主運営する農園作業(または(3)専任職員+プログラムのために自主運営する農園作業)と回答された方への追加のお聞きです。 また(1)農作業請負と回答された方は以下の問24Aをお答えください。◇◇◇◇ ①農地面積( ) ha (町) ②農地面積( ) ha (町) ③農地面積( ) ha (町) ④農地面積( ) ha (町) 1) 農地⇒①面積単位を記入下さい m2 2) 採卵鳥( )羽、プロロー( )羽 3) 乳用牛( )頭、肉用牛( )頭、交雑牛( )頭、繁殖牛( )頭 4) 肉用豚( )頭、繁殖母猪( )頭 5) 鶏、西洋( )羽、鶏、鶏、日本( )羽 1) プランター・鉢等 <input type="checkbox"/> 2) 花壇 <input type="checkbox"/> 3) 農地 <input type="checkbox"/> 4) ハウス <input type="checkbox"/> 5) 畜舎 <input type="checkbox"/> 6) その他 ( ) コロ → ( ) 自己所有地 ( ) 借地 ( ) 市民農園 ( )
問23) 実施場所(複数回答可)	1) 畑 <input type="checkbox"/> 2) 以下(3)ハおすみください。 3) ある (複数回答可)
問24) 農業プログラム日数等についてご回答ください(複数回答可)	(1) 日数の決まったプログラムの有無 (2) 日数の決まったプログラムがある場合その日数は何日くらいですか(複数回答可)

<p>(3)プログラムは毎年ですか  <input type="checkbox"/> 1) 通年ある <input type="checkbox"/> 2) 期間が決まっている <input type="checkbox"/> 3) 不定期  <input type="checkbox"/> 4) 1回の集中的な作業時間は何時間くらいですか。  <input type="checkbox"/> ① 1～2時間 <input type="checkbox"/> ② 3～4時間 <input type="checkbox"/> ③ 5～6時間 <input type="checkbox"/> ④ 7～8時間  <input type="checkbox"/> 5) 質面以外で協力し支援対象者を募り入れてくれる事業者等でも活動を実施していますか  <input type="checkbox"/> ① 実施していない <input type="checkbox"/> ② 実施している  <input type="checkbox"/> ① 変わっていない <input type="checkbox"/> ② 変わっている  <input type="checkbox"/> ① 1日当たり〇円 <input type="checkbox"/> ② 1時間当たり〇円 <input type="checkbox"/> ③ 1人当たり〇円 <input type="checkbox"/> ④ その他 ( )  <input type="checkbox"/> 1日当たり平均( )円  <input type="checkbox"/> 1時間当たり平均( )円  <input type="checkbox"/> 1人当たり平均( )円  <input type="checkbox"/> ① 加入している <input type="checkbox"/> ② 加入していない <input type="checkbox"/> ③ 加入していません  <input type="checkbox"/> ① 対人 <input type="checkbox"/> ② 人身傷害 <input type="checkbox"/> ③ 物損 <input type="checkbox"/> ④ 農産物 <input type="checkbox"/> ⑤ その他 ( )  <input type="checkbox"/> ① 個別に別々で各施設の農業活動プログラムがある <input type="checkbox"/> ② 少人数で指導できるようになっている <input type="checkbox"/> ③ 個別に指導できるようになっている <input type="checkbox"/> ④ 短期で訓練できるものになっている <input type="checkbox"/> ⑤ 合宿できるものになっている <input type="checkbox"/> ⑥ 共同生活・共同作業できるものになっている  <input type="checkbox"/> (7) 支援対象者が農業活動を行うにあたって重視していることは何ですか(複数回答可)  <input type="checkbox"/> ① 7) 外郭で訓練できるものになっている <input type="checkbox"/> ② 8) 他者のコミュニケーションを促せるようになっている <input type="checkbox"/> ③ 9) 成果が見えるようになっている (達成感を感じやすい) <input type="checkbox"/> ④ 10) 自己有用感が得られるようになっている <input type="checkbox"/> ⑤ 11) 単にこの充実感や楽しさを理解できるようになっている <input type="checkbox"/> ⑥ 12) その他 ( )  <input type="checkbox"/> (8) 農業活動を通して支援対象者に変化はありますか  <input type="checkbox"/> →ある場合、どのような変化ですか</p>	<p>1) 現状維持 <input type="checkbox"/> 2) 拡大したい <input type="checkbox"/> 3) 縮小したい <input type="checkbox"/> 4) 止める予定 <input type="checkbox"/> 5) わからない <input type="checkbox"/></p> <p>問2/5)今後の意向について、当てはまるものを記入してください  <input type="checkbox"/> →そのように考える理由または欄に記入してください(自由回答)</p> <p>問2/6) 農業活動に限り組合に当たった課題についてご回答ください(主なもの3つまで)</p> <p>問2/7) 取組みについて何か意見がありましたらご回答ください</p>
<p>1) 予算確保 <input type="checkbox"/> 2) 体制の整備 <input type="checkbox"/> 3) 農業活動についての職員理解 <input type="checkbox"/> 4) 地域との連携 <input type="checkbox"/> 5) 農業・福祉の相互理解 <input type="checkbox"/> 6) 人材の育成 <input type="checkbox"/> 7) 助成金等の情報収集 <input type="checkbox"/> 8) 取組みにかかる情報収集 <input type="checkbox"/> 9) 支援対象者に農業活動に興味をもってもらうこと <input type="checkbox"/> 10) 支援対象者を集めること <input type="checkbox"/> 11) その他 ( )</p>	<p>10) 支援対象者を集めること <input type="checkbox"/> 11) その他 ( )</p>

就労準備支援事業・委託先用（林業活動）

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～就労準備支援事業・委託先用版(記入シート)・林業活動～

用語の定義

- ①林業活動：収入のための木材を生産する仕事(苗づくり、植栽、下草刈り、枝打ち、つる伐り、除伐、間伐、主伐、搬出、運搬・林道整備、林地処理、木材加工など)、訓練等のための活動
- ②協力事業者等：自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者

回答の例

<input type="checkbox"/> (8) 頭卯	→	<input type="checkbox"/> (8) 頭卯
<input type="checkbox"/> (8) 頭卯		<input type="checkbox"/> 運んだエッ
		<input type="checkbox"/> クロックス内
		<input type="checkbox"/> をハブスでク
		<input type="checkbox"/> リップする

回答の送り先/問合せ先	回答送り先メールアドレス: seiikon-agri@kri.or.jp (または ke-hamada@kri.or.jp) 一般社団法人経済総合研究所 調査研究部 濱田(茂木)・高木 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル5階 電話: 03-3262-9659
-------------	--

※もし資料があれば、メールと一緒にお送りいただければと存じます。

問28) 林業活動にいつから取り組んでいま すか	1) 1年未満 <input type="checkbox"/>	2) 1～2年前 <input type="checkbox"/>	3) 3～5年前 <input type="checkbox"/>	4) 6年前以上 <input type="checkbox"/>								
問29) 取組みを開始したきっかけは何ですか (主なもの3つまで)	① 林業活動への関心があるため <input type="checkbox"/> ⑤ 生活困窮者支援する関係者が頼まれたため <input type="checkbox"/> ② 地域林業の活性化に関心があったため <input type="checkbox"/> ⑥ 生活困窮者の希望により <input type="checkbox"/> ③ 事業者の雇い入れからスタート後 <input type="checkbox"/> ⑦ 行政から依頼されたため <input type="checkbox"/> ④ 林業関係者から頼まれたため <input type="checkbox"/> ⑧ その他 ( ) <input type="checkbox"/>											
問30) 登録生員対象者のうち林業活動への参 加者数何名ですか	参加者数 ( ) 名											
問31) 林業活動活動する参加者の属性、1)性 別、2)年代、3)無就業の期間についてお答えく ださい。	1) 男性 ( ) 人	2) 女性 ( ) 人	2) 年代	3) 無就業の期間								
問32) 林業担当の支援職員数は何名ですか	1) 専任職員 ( ) 名 2) 兼任職員 ( ) 名 合計 ( ) 名											
問33) どのような形態の中での作業ですか	1) 林業請負 <input type="checkbox"/> 2) プログラムのために自主運営する林地での作業 <input type="checkbox"/> 3) 林業請負+プログラムのために自主運営する林地での作業 <input type="checkbox"/>											
問34) どのような作業内容ですか(複数回答 可)	1) 苗作り <input type="checkbox"/>	2) 植栽 <input type="checkbox"/>	3) 下草刈り <input type="checkbox"/>	4) 枝打ち <input type="checkbox"/>	5) つる伐り・除伐 <input type="checkbox"/>	6) 間伐 <input type="checkbox"/>	7) 主伐 <input type="checkbox"/>	8) 搬出・運搬 <input type="checkbox"/>				
問35) 林地面積、所有等についてご回答くだ さい	9) 林道整備 <input type="checkbox"/>	10) 林地残材処理 <input type="checkbox"/>	1) 林地面積 ( ) ha(町)	2) プログラムのために自主運営する林地面積 ( ) ha(町)	1. 自己所有地 ( ) ha(町)	2. 借地 ( ) ha(町)						
問36) 林業活動プログラム日数等についてご 回答ください(複数回答可)	① あり <input type="checkbox"/> 以下③へお答えください。 ② ある (複数回答可) ③ ある (1つのプログラムのみ)											
(1) 日数の決まったプログラムの日数 (2) 日数の決まったプログラムがある場合そ の日数は何日くらいですか(複数回答可)	1) 10日以内以内未満 <input type="checkbox"/>		2) 11～20日間 <input type="checkbox"/>		3) 21～30日間 <input type="checkbox"/>		4) 31～60日間 <input type="checkbox"/>		5) 61日～90日間 <input type="checkbox"/>		6) 91日以上 <input type="checkbox"/>	
(3) プログラムは連年ですか	1) 連年ある <input type="checkbox"/>		2) 期間が決まっている <input type="checkbox"/>		3) 不定期 <input type="checkbox"/>							
(4) 1回の標準的な作業時間は何時間くらい ですか。	1) 1～2時間 <input type="checkbox"/>		2) 3～4時間 <input type="checkbox"/>		3) 5～6時間 <input type="checkbox"/>		4) 7～8時間 <input type="checkbox"/>					

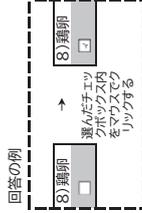
<p>林業活動の経緯や体制や取組み内容等</p>	<p>(5) 質問以外で協力・支援対象者を紹介してくれたい事業者等でも活動を展開していますか → 協力事業者等へ謝礼を支払っていますか。 → 挨拶方法 → 支払っている場合、金額はいくらですか (6) 集活動に当たって報酬には加入していませんか → 加入している場合、どのような報酬ですか(複数回答可) (7) 支援対象者が林業活動を行うにあたって重視していることは何ですか(複数回答可) (8) 林業活動を展開して支援対象者に変化はありましたか → ある場合、どのような変化ですか</p>	<p>1) 準備していない 2) 実施している 3) 1) 変化していない 4) 2) 変化している 1) 日当たり〇円 2) 期間当たり〇円 3) 1人当たり〇円 4) その他 ( ) 1日当たり平均( )円 1人当たり平均( )円 1) 加入していない 2) 加入している 2)-① 対人 2)-② 人身傷害 2)-③ 物損 2)-④ 木材・立木等 2)-⑤ その他 ( ) 1) 個別に対応できる種類の林業活動プログラムがある 2) 少人数で指導できるようになっている 3) 個別に指導できるようになっている 4) 期間で指導できるものになっている 5) 合宿できるものになっている 6) 共同生活・共同作業できるものになっている 1) 精神の状況 ① 良くなった ② 変わらなかった ③ 悪くなった 2) 体の状況 ① 良くなった ② 変わらなかった ③ 悪くなった 3) 生活リズム ① 良くなった ② 変わらなかった ③ 悪くなった 4) 疲労リズム ① 良くなった ② 変わらなかった ③ 悪くなった 5) コミュニケーション力 ① 良くなった ② 変わらなかった ③ 悪くなった 6) 繋がる人間関係者数 ① 良くなった ② 変わらなかった ③ 悪くなった 7) 自己有用感 ① 良くなった ② 変わらなかった ③ 悪くなった</p>	<p>問37) 今後の意向について、当てはまるものを選んでください 1) 現状維持 2) 拡大したい 3) 縮小したい 4) 止める予定 5) わからない 問38) 林業活動に取り組みに当たった際の課題についてご回答ください(主なもの3つまで) 1) 予算確保 2) 体制の整備 3) 林業活動についての職員の情報 4) 地域との連携 5) 農業・福祉の相互理解 6) 人材の育成 7) 助成金等の情報収集 8) 取組みにかかわる情報収集 9) 支援対象者に林業活動に興味をもってもらうこと 10) 支援対象者を基めること 11) その他 ( )</p> <p>問39) 取組みについて何か意見がありましたらご回答ください</p>
--------------------------	---	---	---

就労準備支援事業・委託先用（水産業活動）

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～就労準備支援事業・委託先用(記入シート)・水産業活動～

用語の定義  
①水産業活動:漁業・水産物加工業、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加、自給・ケア・レクリエーション等のための活動  
②協力事業者等:自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者

回答の送り先/問合せ先	回答送り先メールアドレス: <a href="mailto:seihon-agr@krt.or.jp">seihon-agr@krt.or.jp</a> (または <a href="mailto:ke-hamada@krt.or.jp">ke-hamada@krt.or.jp</a> ) 一般社団法人JA共済総合研究所 調査研究部 濱田(茂木) 滝木 〒102-0093東京都千代田区平明2-7-9JA共済ビル5階 電話:03-3262-9659
-------------	--



※し資料があれば、メールと一緒に送っていただければと存じます。

問40)水産業活動にはいつから取り組んでいますか。	<input type="checkbox"/> 1) 1年未満	<input type="checkbox"/> 2) 1～2年前	<input type="checkbox"/> 3) 3～5年前	<input type="checkbox"/> 4) 6年前以上
問41)取組みを開始したきっかけは何ですか(主なもの3つまで)	<input type="checkbox"/> 1) 水産業活動に生活困窮者への効果があると思つたため <input type="checkbox"/> 2) 地場水産業の活性化に繋がると思つたため <input type="checkbox"/> 3) 障害者の雇運連携からヒトを得て <input type="checkbox"/> 4) 水産業界関係者から頼まれたため <input type="checkbox"/> 5) 生活困窮者を支援する関係者から頼まれたため <input type="checkbox"/> 6) 生活困窮者の希望により <input type="checkbox"/> 7) 行政から依頼されたため <input type="checkbox"/> 8) その他 ( )			
問42)登録支援対象者のうち水産業活動への参加者数ですか	参加者数 ( )名			
問43)水産業活動する参加者の属性、1)性別、2)年代、3)無就業の期間についてお答えください。	1) 男性 ( )人 2) 女性 ( )人 3) 無就業の期間 ①1年未満 ( )名 ②1～3年間 ( )名 ③3～5年間 ( )名 ④6～10年間 ( )名 ⑤11年以上 ( )名	①70代 ( )名 ②60代 ( )名 ③50代 ( )名 ④40代 ( )名 ⑤30代 ( )名 ⑥20代 ( )名 ⑦10代 ( )名 ⑧不明 ( )名	①60代 ( )名 ②70代以上 ( )名	
問44)水産業担当の支援職員数は何名ですか	1)専任職員 ( )名 2)兼任職員 ( )名 合計 ( )名			
問45)どのような形態の中での作業ですか	1)水産業請負 ( )名 2)水産加工 ( )名 3)水産請負+プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 ( )名 4)その他 ( )名			
問46)どのような作業内容ですか(複数回答可) → 魚種等の具体的な内容をお答えください	1)漁獲 ( )名 2)養殖 ( )名 3)水産加工 ( )名 4)その他 ( )名			
問47)年間の延べ活動作業時間についてご回答ください	1)水産業 作業員 ( )時間 2)プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 ( )時間			
問48)水産業活動プログラム日数等についてご回答ください。(複数回答可) (1)日数の決まったプログラムの有無 (2)日数の決まらなかったプログラムがある場合は日数は何日くらいですか(複数回答可) (3)プログラムは連年ですか	<input type="checkbox"/> 1) 1日以内 <input type="checkbox"/> 2) 11～20日間 <input type="checkbox"/> 3) 21～30日間 <input type="checkbox"/> 4) 31～60日間 <input type="checkbox"/> 5) 61日～90日間 <input type="checkbox"/> 6) 91日以上 <input type="checkbox"/> 1) 連年ある <input type="checkbox"/> 2) 期間が決まっている <input type="checkbox"/> 3) 不定期			

<p>(4)1回の標準的な作業時間は何時間くらいですか。</p> <p>(5)買付採石等で協力支援対象者を要する入ってくる事業者等でも活動を実施していますか →協力事業者等へ謝礼を支払っていますか。 →換算方法</p> <p>→支払っている場合、金額はいくらですか (6)水産業活動に当たって保険には加入していますか →加入している場合、どのような保険ですか(複数回答可) (7)支援対象者が水産業活動を行ったことで重視していることは何ですか(複数回答可)</p> <p>(8)水産業活動を基盤として支援対象者に変化はありましたか →ある場合、どのような変化ですか</p>	<p>1) 支援対象者による時間短縮 ① 1~2時間 ② 3~4時間 ③ 5~6時間 ④ 7~8時間</p> <p>2) 負担の軽減 ① 軽減していない ② 軽減している ③ 支払っていない ④ 支払っている</p> <p>1) 日当たり〇円 2) 1時間当たり〇円 3) 1人当たり〇円 4) その他 ( )</p> <p>1) 日当たり平均( )円 2) 1人当たり平均( )円</p> <p>1) 加入していない 2) 加入している</p> <p>1) ①-① 対人 ( ) 2) ②-② 人身傷害 ( ) 3) ③-③ 物損 ( ) 4) ④-④ その他 ( )</p> <p>1) 船内においてできる種類の水産業活動プログラムがある 2) 少し家で指導できるものとしている 3) 船内指導できるものとしている 4) 短期で訓練できるものとしている 5) 合宿できるものとしている 6) 共同生活・共同作業できるものとしている</p> <p>1) 精神の状況 ① 良くなった ② 変わらな ③ 悪くなった</p> <p>2) 体の状況 ① 良くなった ② 変わらな ③ 悪くなった</p> <p>3) 生活リズム ① 良くなった ② 変わらな ③ 悪くなった</p> <p>4) 疲労リズム ① 良くなった ② 変わらな ③ 悪くなった</p> <p>5) コミュニケーション力 ① 良くなった ② 変わらな ③ 悪くなった</p> <p>6) 繋がる人間関係者数 ① 良くなった ② 変わらな ③ 悪くなった</p> <p>7) 自己有用感 ① 良くなった ② 変わらな ③ 悪くなった</p>	<p>1) 現状維持 2) 拡大したい 3) 縮小したい 4) 止める予定</p> <p>5) わからな</p>	<p>7) 助成金等の情報収集 8) 取組みにかかる情報収集 9) 支援対象者に水産業活動に興味をもたせようとする 10) 支援対象者を集めること 11) その他 ( )</p>
<p>水産業活動の継続や体制や取組み内容等</p> <p>問49)今後の意向について、当てはまるものを選んでください</p> <p>問50)水産業活動に取り組みに当たっての課題についてご回答ください(主なもの3つまで)</p> <p>問51)取組みについて何か意見がありましたらご回答ください</p>	<p>1) 現状維持 2) 拡大したい 3) 縮小したい 4) 止める予定</p> <p>1) 承継関係 2) 体制の整備 3) 水産業活動についての雇員の理解</p> <p>4) 地域との連携 5) 農業・福祉の相互理解 6) 人材の育成</p>	<p>7) 助成金等の情報収集 8) 取組みにかかる情報収集 9) 支援対象者に水産業活動に興味をもたせようとする 10) 支援対象者を集めること 11) その他 ( )</p>	

就労訓練事業・実施者用(基礎)

◎就労準備支援事業 就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～就労訓練事業・実施者版(記入シート)・基礎～

就労訓練事業を実施する団体等の担当者(令和2年度に事業を実施した団体等が対象)

令和元年度実績

【対象】

【回答】

【用語】

- ①農業分野等:農業活動、林業活動、水産加工(水産加工を含む)など
- ②農産物産品:農産物、高付者、生活困窮者等が農業活動に従事する取組み
- ③農業活動:収入のための農産物生産を行う農業、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加等のためのゆるやかな活動
- ④林業活動:収入のための木材を生産する仕事(苗づくり・植栽、下草刈り・植栽、伐倒・間伐、主伐・搬出、運搬、林道整備、林地腐材処理、木材加工など)、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加・自給・ケア・レクリエーション等のための活動
- ⑤水産加工:漁業、水産物加工業、訓練、生きがいづくり、健康づくり、社会参加、自給・ケア・レクリエーション等のための活動
- ⑥生活困窮者:自立相談支援窓口を通じて自立を目指す者
- ⑦団体等:地方自治体より就労準備支援事業を受託、就労訓練事業の認定を受けている社会福祉法人、農業法人、個人事業主など

団体名	
担当部署名	
担当者名	
連絡先	メール
	電話
回答の送り先(問合せ先)	回答送り先メールアドレス:seikon-agri@krior.jp(またはke-hamada@krior.jp)
	一般社団法人社会福祉総合研究所 調査研究部 瀬田(技術)・高木
	〒102-0093 東京都千代田区平野2-7-9JA経済ビル5階
	電話:03-3262-9659

回答の例

8) 鶏卵	→	8) 鶏卵
8) 鶏卵		選んだ子エッグボックス内をマウスでクリックする

※もし資料があれば、メールと一緒に送っていただければと存じます。

1) 農団体の名称	2) 農団体の住所	3) 設立年	4) 法人種別	5) NPO法人	6) 株式会社	7) その他	8) その他
1) 社会福祉協議会	2) 社会福祉法人(社協除く)	西暦	市区町村				
1) 農産物サービス事業	2) 介護保険事業	3) 医療事業	4) 保育事業	5) 農業事業	6) 林業事業	7) 水産事業	8) その他
1) 本人の収入がない、あるいは低いなどない 2) 非正規雇用の期間が長い 3) 離職を繰り返している 4) ひきこもり 5) 他社とコミュニケーションを図ることが難しい 6) 身体・知的・精神的・精神的に障害を有している。(可能性がある) 7) 発達障害を有している。(可能性がある)							
1) 取得している → 問9へおすすみください 2) 取得していない(かつて取得していた) → 問6へおすすみください 3) 取得していない(今後とも取得のつもりはない) → 問6へおすすみください 4) 今後取得の予定 → 問8へおすすみください 5) 取得の理由を後述している → 問8へおすすみください							
1) 農林水産業を営んでいない法人である 2) 農業分野等の技術がないため 3) 農業分野等を営むための施設・機材がない 4) 農地等土地を確保することが難しいため 5) 農業関係者等との連携が必要だが 6) 職員が不足し、負担になるため 7) 農業分野等に効果を得られない 8) 農林技術等を指導できる人材確保 9) 農業分野等を営むための農地確保 10) 農業分野等を営むための農機具確保 11) 農業関係者等との連携 12) 実働のための知識・情報 13) 実働のための事例情報 14) その他							
1) 農林水産業を営んでいない法人である 2) 農業分野等の技術がないため 3) 農業分野等を営むための施設・機材がない 4) 農地等土地を確保することが難しいため 5) 農業関係者等との連携が必要だが 6) 職員が不足し、負担になるため 7) 農業分野等に効果を得られない 8) 農林技術等を指導できる人材確保 9) 農業分野等を営むための農地確保 10) 農業分野等を営むための農機具確保 11) 農業関係者等との連携 12) 実働のための知識・情報 13) 実働のための事例情報 14) その他							

◆◆◆ 上記の間6、問7を回答された方は、ここで回答終了です(ご協力ありがとうございました)◆◆◆



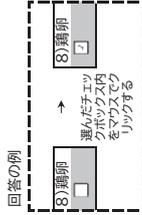
就労訓練事業・実施者用（農業活動）

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取り組み状況アンケート調査  
～就労訓練事業・実施者版（記入シート）：農業活動～

用語の定義

- ①農業活動：収入のための農産物生産を行う農業、訓練・生きがいづくり・健康づくり・社会参加等のためのゆるやかな農業、自給・シェア・レクリエーション等のための農的活動
- ②協力事業者等：自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者

回答の送り先/問合せ先	回答を送り先メールアドレス: seikon-agri@kri.or.jp (または ke-hamada@kri.or.jp) 一般社団法人IA経済総合研究所 調査研究部 浜田(あむ)・高木 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 IA 経済ビル5階 電話: 03-3262-9659
-------------	--



※記入資料があれば、メールと一緒にお送りいただけると幸いです。

問1) 問10で1)農業活動に取り組んでいると回答された方にお聞きします。いつから取り組んでいますか	1) 1年未満 2) 1～2年前 3) 3～5年前 4) 6年前以上
問2) 取組みを開始したきっかけは何ですか(主なものをついで)	<input type="checkbox"/> 1) 農業活動に生活困窮者への効果があると聞いたため <input type="checkbox"/> 2) 地域農業の活性化に賛同し始めたため <input type="checkbox"/> 3) 関係者の農産物運動イベントを通じて <input type="checkbox"/> 4) 農産物関係者から紹介されたため <input type="checkbox"/> 5) 生活困窮者を支援する関係者から紹介されたため <input type="checkbox"/> 6) 生活困窮者の希望により <input type="checkbox"/> 7) 農産物事業であったため <input type="checkbox"/> 8) その他 ( )
問3) 支援対象者の農業活動参加者数何名ですか	参加者数 ( ) 人
問4) 農業活動する参加者の1)性別、2)年代、3)無就業の期間についてお答えください。	1) 男性 ( ) 人 2) 女性 ( ) 人 2) 年代 ①10代 ( ) 名 ②20代 ( ) 名 ③30代 ( ) 名 ④40代 ( ) 名 ⑤50代 ( ) 名 ⑥60代 ( ) 名 ⑦70代以上 ( ) 名 3) 無就業 ①1年未満 ( ) 名 ②1～3年間 ( ) 名 ③4～5年間 ( ) 名 ④6～10年間 ( ) 名 ⑤11年以上 ( ) 名 ⑥不明 ( ) 名
問5) 農業活動の支援職員数は何名ですか	1) 専任職員 ( ) 名 2) 兼任職員 ( ) 名 合計 ( ) 名
問6) どのような形態の中での作業ですか	1) 農業言語 2) プログラムのために自主運営する農園作業 3) 農業言語+プログラムのために自主運営する農園作業
問7) どのような作業内容ですか(複数回答可)	1) 運まき 2) 苗作り 3) 苗植え 4) 施肥 5) 農薬散布 6) 水管理 7) 草取り 8) 収穫 9) 出荷調整 10) 給餌 11) 給水 12) 掃除 13) その他 ( ) 1) 実施していない 2) 実施している 1) 加工 2) 販売 3) 飲食店 4) その他 ( )
問8) どのような農産物等を生産していますか。(複数回答可)	1) 野菜 2) 果物 3) 花卉 4) 米 5) 卵牛 6) 肉牛 7) 豚 8) 鶏卵 9) プロロー 10) キノコ 11) バイオガスエネルギー 12) その他 ( ) 1) 農地⇒①面積単位を記入して下さい ( ) m <sup>2</sup> 2) 採卵鳥 ( ) 羽、プロロー ( ) 羽 3) 乳用牛 ( ) 頭、肉用牛 ( ) 頭、交雑牛 ( ) 頭 4) 肉用豚 ( ) 頭、繁殖豚 ( ) 頭 5) 繁殖・西洋 ( ) 箱、繁殖・日本 ( ) 箱 2) 花壇 3) 農地 4) ハウス 5) 畜舎 6) その他 ( ) 1) 無し 2) あり (複数回答可) 3) あり (一つのプログラムのみ) 1) 10日間未満 2) 11～20日間 3) 21～30日間 4) 31～60日間 5) 61日～90日間 6) 91日以上 1) 連年ある 2) 期間が決まっている 3) 不定期 ① 1～2時間 ② 3～4時間 ③ 5～6時間 ④ 7～8時間
問9) 経営規模(農地面積、頭数など)をご回答ください。	1) 農地⇒①面積単位を記入して下さい ( ) m <sup>2</sup> 2) 採卵鳥 ( ) 羽、プロロー ( ) 羽 3) 乳用牛 ( ) 頭、肉用牛 ( ) 頭、交雑牛 ( ) 頭 4) 肉用豚 ( ) 頭、繁殖豚 ( ) 頭 5) 繁殖・西洋 ( ) 箱、繁殖・日本 ( ) 箱 2) 花壇 3) 農地 4) ハウス 5) 畜舎 6) その他 ( ) 1) 無し 2) あり (複数回答可) 3) あり (一つのプログラムのみ) 1) 10日間未満 2) 11～20日間 3) 21～30日間 4) 31～60日間 5) 61日～90日間 6) 91日以上 1) 連年ある 2) 期間が決まっている 3) 不定期 ① 1～2時間 ② 3～4時間 ③ 5～6時間 ④ 7～8時間
問10) 実施場所(複数回答可)	1) プランター・鉢等 2) 花壇 3) 農地 4) ハウス 5) 畜舎 6) その他 ( ) 1) 無し 2) あり (複数回答可) 3) あり (一つのプログラムのみ) 1) 10日間未満 2) 11～20日間 3) 21～30日間 4) 31～60日間 5) 61日～90日間 6) 91日以上 1) 連年ある 2) 期間が決まっている 3) 不定期 ① 1～2時間 ② 3～4時間 ③ 5～6時間 ④ 7～8時間

<p>農業活動の経緯や体制や取組内容等</p>	<p>(5) 支援対象者へ交通費および賃金など支給額を計していますか</p> <p>→どのような雇用形態ですか</p> <p>→給付している場合、どのような給付をしていますか</p> <p>→工賃はいくらですか</p> <p>→最低賃金はいくらですか</p> <p>→最も悪い場合はいくらですか</p> <p>→賃金を給付する場合どのような支援が提供されていますか</p> <p>(6) 貴団体以外で協力し支援対象者を受け入れてくれる事業者等でも活動を実施していますか</p> <p>→協力事業者等へ謝礼を支払っていますか</p> <p>→換算方法</p> <p>→支払っている場合、金額はいくらですか</p>	<p>1) 給付していない <input type="checkbox"/></p> <p>1) 給付している <input type="checkbox"/></p> <p>2) 雇用型のみ <input type="checkbox"/></p> <p>2) 非雇用型+雇用型 <input type="checkbox"/></p> <p>3) 非雇用型+雇用型 <input type="checkbox"/></p> <p>3) 非雇用型+専食交代 <input type="checkbox"/></p> <p>3) 工賃(非雇用型) <input type="checkbox"/></p> <p>4) 最低賃金(雇用型) <input type="checkbox"/></p> <p>5) 最低賃金以上(雇用型) <input type="checkbox"/></p> <p>6) 最低賃金未満 <input type="checkbox"/></p> <p>7) 最低賃金未満(雇用型) <input type="checkbox"/></p> <p>8) 最低賃金未満(非雇用型) <input type="checkbox"/></p> <p>9) 最低賃金未満(専食交代) <input type="checkbox"/></p> <p>10) 最低賃金未満(工賃) <input type="checkbox"/></p> <p>11) 最低賃金未満(その他) <input type="checkbox"/></p>	<p>※雇用型、非雇用型、雇用型は最低賃金以上、非雇用型は最低賃金未満</p> <p>※工賃、最低賃金未満の賃金</p>
	<p>(7) 農業活動に当たって保険には加入していますか</p> <p>→加入している場合、どのような保険ですか(複数回答可)</p> <p>(8) 支援対象者が農業活動を行うにあたって重視していることは何ですか(複数回答可)</p> <p>(9) 農業活動を実施して支援対象者に変化はありましたか</p> <p>→ある場合、どのような変化ですか</p>	<p>1) 加入していない <input type="checkbox"/></p> <p>1) 加入している <input type="checkbox"/></p> <p>2) ①-① 対人 <input type="checkbox"/></p> <p>2) ①-② 人身傷害 <input type="checkbox"/></p> <p>2) ①-③ 物損 <input type="checkbox"/></p> <p>2) ①-④ 農産物 <input type="checkbox"/></p> <p>2) ①-⑤ その他 <input type="checkbox"/></p> <p>3) 1) 朝日に対しては農業活動の推進力が高まる <input type="checkbox"/></p> <p>2) 少人数で指導できる <input type="checkbox"/></p> <p>3) 個別に指導できる <input type="checkbox"/></p> <p>4) 短期で訓練できる <input type="checkbox"/></p> <p>5) 合宿できる <input type="checkbox"/></p> <p>6) 共同生活・共同作業できる <input type="checkbox"/></p> <p>7) 外部で訓練できる <input type="checkbox"/></p> <p>8) 他者のコミュニケーションを促せる <input type="checkbox"/></p> <p>9) 成果が表れる <input type="checkbox"/></p> <p>10) 自己有用感が得られる <input type="checkbox"/></p> <p>11) 働くの充実や楽しさを理解できる <input type="checkbox"/></p> <p>12) その他 <input type="checkbox"/></p>	
<p>問2) 今後の意向について、当てはまるものを選んでください</p> <p>→そのように考える理由を以下の欄に入力してください(自由回答)</p>	<p>1) 現状維持 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 拡大したい <input type="checkbox"/></p> <p>3) 縮小したい <input type="checkbox"/></p> <p>4) 止める予定 <input type="checkbox"/></p> <p>5) わからない <input type="checkbox"/></p>		
<p>問2) 今後の意向について、当てはまるものを選んでください</p> <p>→そのように考える理由を以下の欄に入力してください(自由回答)</p>	<p>1) 予備確保 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 地域の連携 <input type="checkbox"/></p> <p>3) 農業活動についての職員の理解 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 地域の連携 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 農業・福祉の相互理解 <input type="checkbox"/></p> <p>6) 人材の育成 <input type="checkbox"/></p> <p>7) 助成金等の情報収集 <input type="checkbox"/></p> <p>8) 取組にかかわる情報収集 <input type="checkbox"/></p> <p>9) 支援対象者に農業活動に興味を持ってもらうこと <input type="checkbox"/></p> <p>10) 支援対象者を集めること <input type="checkbox"/></p> <p>11) その他 <input type="checkbox"/></p>		
<p>問2) 取組みについて何か意見がありましたらご回答ください</p>			

就労訓練事業・実施者用（林業活動）

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～就労訓練事業・実施者版(記入シート)・林業活動～

用語の定義

- ①林業活動：収入のための木材を生産する仕事(苗づくり、植栽、下草刈り、枝打ち、つる刈り、除伐、間伐、主伐、搬出、運搬、林道整備、林地残材処理・木材加工など)、訓練、生きがいづくり、健康づくり・社会参加、自給・ケア・レクリエーション等のための活動
- ②協力事業者：自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者

回答の例

<input type="checkbox"/> 8) 通脚	→	<input checked="" type="checkbox"/> 8) 通脚
<input type="checkbox"/> 選んだアンケート項目を必ず回答する		

回答の送り先/問合せ先	回答送り先メールアドレス: seikon-agr@kri.or.jp (または ke-hamada@kri.or.jp) 一般社団法人JA経済総合研究所 調査研究部 濱田(茂木)・高木 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 JA林研ビル5階 電話: 03-3262-9659
-------------	--

※もし資料があれば、メールと一緒に送っていただければと存じます。

問2(5)問10で②林業活動に振り分けられていると回答された方にお聞きします。林業活動にはいつから取り組んでいますか	1) 1年未満 <input type="checkbox"/>	2) 1～2年前 <input type="checkbox"/>	3) 3～5年前 <input type="checkbox"/>	4) 6年前以上 <input type="checkbox"/>
問2(6)取組みを開始したきっかけは何ですか(生年もの年3つまで)	① 林業活動に生活困窮者への効果があると思ふため <input type="checkbox"/> ⑤ 生活困難者支援する関係者が頼まれたため <input type="checkbox"/> ② 地域林業の活性化に響かると思ふため <input type="checkbox"/> ⑥ 生活困難者の希望により <input type="checkbox"/> ③ 隣家の農地維持サポートを得て <input type="checkbox"/> ⑦ 林業が本業であったため <input type="checkbox"/> ④ 林業関係者から頼られたため <input type="checkbox"/> ⑧ その他 ( ) <input type="checkbox"/>			
問2(7)支援対象者の林業活動への参加者数何名ですか	参加者数 ( ) 名			
問2(8)林業活動活動する参加者の属性、1)性別、2)年代、3)無就業の期間についてお答えください。	1) 男性 ( ) 人 2) 女性 ( ) 人 2) 年代 ① 10代 ( ) 名 ② 20代 ( ) 名 ③ 30代 ( ) 名 ④ 40代 ( ) 名 ⑤ 50代 ( ) 名 ⑥ 60代 ( ) 名 ⑦ 70代以上 ( ) 名 3) 無就業の期間 ① 1年未満 ② 1～3年間 ③ 4～5年間 ④ 6～10年間 ⑤ 11年以上 ⑥ 不明 ( ) 名			
問2(9)林業活動の支援職員数は何名ですか	1) 専任職員 ( ) 名 2) 兼任職員 ( ) 名 合計 ( ) 名			
問3(0)どのような形態の中で作業ですか	1) 林業員 <input type="checkbox"/> 2) プログラムのために自主運営する林地での作業 <input type="checkbox"/> 3) 林業員兼+プログラムのために自主運営する林地での作業 <input type="checkbox"/>			
問3(1)どのような作業内容ですか(複数回答可)	1) 苗作り <input type="checkbox"/> 2) 植栽 <input type="checkbox"/> 3) 下草刈り <input type="checkbox"/> 4) 枝打ち <input type="checkbox"/> 5) つる刈り・除伐 <input type="checkbox"/> 6) 間伐 <input type="checkbox"/> 7) 主伐 <input type="checkbox"/> 8) 搬出・運搬 <input type="checkbox"/> 9) 林道整備 <input type="checkbox"/> 10) 林地残材処理 <input type="checkbox"/> 11) 木材加工 <input type="checkbox"/> 12) 薪づくり <input type="checkbox"/> 13) 炭づくり <input type="checkbox"/> 14) ベレットづくり <input type="checkbox"/> 15) その他 ( ) <input type="checkbox"/>			
問3(2)林地面積、所有等についてご回答ください	① 1) 林業作業員での年間延べ面積 ( ) ha(町) ② 2) プログラムのために自主運営する林地面積 ( ) ha(町) ③ 1. 自己所有地 ( ) ha(町) ④ 2. 借地 ( ) ha(町)			
問3(3)林業活動プログラム日数等についてご回答ください。(複数回答可)	① 1) 日数 → 以下(3)からお書きください。 ② ある (複数のプログラムがある) ③ ある (1つのプログラムのみ) (1) 日数の決まったプログラムの日数 (2) 日数の決まったプログラムの日数がある場合その日数は何日くらいですか(複数回答可) (3) プログラムは通年ですか ④ 1) 通年ある <input type="checkbox"/> 2) 期間が決まっている <input type="checkbox"/> 3) 不定期 <input type="checkbox"/> (4) 回の定めた作業時間は何時間 ① 1～2時間 <input type="checkbox"/> ② 3～4時間 <input type="checkbox"/> ③ 5～6時間 <input type="checkbox"/> ④ 7～8時間 <input type="checkbox"/>			

林業活動の経費や体制整備などの費用 ※雇用型、非雇用型は最低賃金以上、非雇用型は最低賃金未満 ※工賃・最低賃金未満の賃金	(5) 支援対象者へ交通費および賃金など金銭給付をしいていますか →どのよう雇用形態ですか →給付している場合、どのような給付をしていますか →工賃はいくらですか →最低賃金はいくらですか →最も高い賃金はいくらですか →賃金を給付する場合どのような支援対象者に給付していますか →支援対象者等へ謝礼金を支払っていますか →換算方法 →支払っている場合、金額はいくらですか (7) 林業活動に当たって保険には加入していますか →加入している場合、どのような保険ですか(回数返可)	(6) へおすみください 1) 給付していない <input type="checkbox"/> 1) 給付している <input type="checkbox"/> 2) 雇用型のみ <input type="checkbox"/> 3) 非雇用型+雇用型 <input type="checkbox"/> 2) 交通費 <input type="checkbox"/> 2) 交通費+昼食等代 <input type="checkbox"/> 3) 工賃(非雇用型) <input type="checkbox"/> 4) 最低賃金(雇用型) <input type="checkbox"/> 5) 最低賃金以上(雇用型) <input type="checkbox"/> 日当たり平均( )円/人 1か月当たり( )円/人 1時間当たり平均( )円/人 1時間当たり平均( )円/人 2) 給付する能力のある者のみ <input type="checkbox"/> 3) 能力に合わせた金額を給付 <input type="checkbox"/> 4) その他 <input type="checkbox"/> (7) へおすみください 1) 実施していない <input type="checkbox"/> 2) 実施している <input type="checkbox"/> 1) 支払っていない <input type="checkbox"/> 2) 支払っている <input type="checkbox"/> 1) 日当たり( )円 <input type="checkbox"/> 2) 1時間当たり( )円 <input type="checkbox"/> 3) 1人当たり( )円 <input type="checkbox"/> 4) その他 <input type="checkbox"/> 1) 日当たり平均( )円 <input type="checkbox"/> 2) 1時間当たり平均( )円 <input type="checkbox"/> 1) 加入していない <input type="checkbox"/> 2) 加入している <input type="checkbox"/> (8) へおすみください 1) 加入していない <input type="checkbox"/> 2) 加入している <input type="checkbox"/> ② 人身傷害 <input type="checkbox"/> ③ 労災 <input type="checkbox"/> ④ 木材・立木等 <input type="checkbox"/> ⑤ その他 <input type="checkbox"/> ① 1) 個別に対応できる種類の林業活動が中心である <input type="checkbox"/> ② 7) 外部で訓練できるものとしている <input type="checkbox"/> ② 2) 少人数で研修できるものとしている <input type="checkbox"/> ③ 8) 他業とのコミュニケーションを図るべくしている <input type="checkbox"/> ③ 3) 個別に研修できるものとしている <input type="checkbox"/> ④ 9) 成果が見えるようになっている(達成感を感じやすい) <input type="checkbox"/> ④ 4) 短期で研修できるものとしている <input type="checkbox"/> ⑤ 10) 自己有用感が得られるようになっている <input type="checkbox"/> ⑤ 5) 合宿であるものとしている <input type="checkbox"/> ⑥ 11) 働くことの充実感や楽しさを理解できるようにしている <input type="checkbox"/> ⑥ 6) 共同生活・共同作業を推進している <input type="checkbox"/> ⑦ 12) その他 <input type="checkbox"/>
	(8) 支援対象者が林業活動を行うにあたって重視していること何ですか(複数回答可) (9) 研修内容を充実して支援対象者に変化はありましたか →ある場合、どのような変化ですか	1) 精神の状況 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/> 2) 体の状況 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/> 3) 生活リズム ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/> 4) 就労リズム ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/> 5) コミュニケーション力 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/> 6) 繋がる人間関係者数 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/> 7) 自己有用感 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/> 1) 現状維持 <input type="checkbox"/> 2) 拡大したい <input type="checkbox"/> 3) 縮小したい <input type="checkbox"/> 4) 止める予定 <input type="checkbox"/> 5) わからぬ <input type="checkbox"/>
問3(4)今後の意向について、当てはまるものを選んでください 問3(5)林業活動に取り組むに当たっての課題についてご回答ください(主なもの3つまで) 問3(6)取組みについて何か意見がありましたらご回答ください	1) 予算確保 <input type="checkbox"/> 4) 地域との連携 <input type="checkbox"/> 7) 助成金等の情報収集 <input type="checkbox"/> 10) 支援対象者を集めること <input type="checkbox"/> 2) 体制の整備 <input type="checkbox"/> 5) 農家・畜産の相互理解 <input type="checkbox"/> 8) 取組みがわかる情報収集 <input type="checkbox"/> 11) その他 ( ) <input type="checkbox"/> 3) 林業活動についての職員の理解 <input type="checkbox"/> 6) 人材の育成 <input type="checkbox"/> 9) 支援対象者に林業活動に興味をもってもらうこと <input type="checkbox"/>	

就労訓練事業・実施者用（水産業活動）

◎就労準備支援事業・就労訓練事業における農業分野等への取組み状況アンケート調査  
～就労訓練事業・実施者版(記入シート)・水産業活動～

用語の定義

- ①水産業活動: 漁業・水産物加工業、訓練・生きがいづくり・健康づくり・社会参加・自給・ケア・レクリエーション等のための活動
- ②協力事業者等: 自らの事業所以外において訓練を行う場合の受け入れ先の事業者

回答の例

⑧) 鶏卵	→	⑧) 鶏卵
選んだ電子アンケートボックス内をマウスでクリックする		

回答の送り先/問合せ先	回答を送り先メールアドレス: seikon-agr@ikri.or.jp (または ke-hamada@ikri.or.jp) 一般社団法人社会総合研究所 調査研究部 濱田(茂木) 高木 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9/A 経済ビル5階 電話: 03-3262-9659
-------------	---

※もし資料があれば、メールと一緒に送っていただけると幸いです。

問3) 7月10日までの水産業活動に取り組んでいないと回答された方にお断じます。水産業活動にはいつから取り組んでいますか	1) 1年未満 <input type="checkbox"/> 2) 1～2年前 <input type="checkbox"/> 3) 3～5年前 <input type="checkbox"/> 4) 6年前以上 <input type="checkbox"/>
問3) 取組みを開始したきっかけは何ですか(主なもの3つまで)	1) 水産業活動に生活困窮層への効果があると聞いた <input type="checkbox"/> 5) 生活困窮層を支援する関係者から勧められたため <input type="checkbox"/> 2) 地域水産業の活性化に繋がると思ったため <input type="checkbox"/> 6) 生活困窮層の希望により <input type="checkbox"/> 3) 障害者の労働連携からヒントを得て <input type="checkbox"/> 7) 水産業が本業であったため <input type="checkbox"/> 4) 水産業関係者から勧められたため <input type="checkbox"/> 8) その他 ( ) <input type="checkbox"/>
問3) 9) 支援対象者の水産業活動への参加者数何名ですか	参加者数 ( ) 名
問4) 0) 水産業活動する参加者の属性、1) 性別、2) 年代、3) 無就業の期間についてお答えください。	1) 男性 ( ) 人 2) 女性 ( ) 人 3) 無就業の期間 ① 1年未満 ② 1～3年前 ③ 3～5年前 ④ 6～10年前 ⑤ 11年以上 ⑥ 不明 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ( ) 名 ⑦ 70代以上 ( ) 名
問4) 1) 水産業活動支援職員数は何名ですか	1) 専任職員 ( ) 名 2) 兼任職員 ( ) 名 合計 ( ) 名
問4) 2) とのよう形態の中での作業ですか	1) 水産業請負 <input type="checkbox"/> 2) プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 <input type="checkbox"/> 3) 水産業請負+プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 <input type="checkbox"/>
問4) 3) とのよう作業内容ですか(複数回答可) → 魚種等の具体的な内容をお答えください	1) 漁獲 <input type="checkbox"/> 2) 養殖 <input type="checkbox"/> 3) 水産加工 <input type="checkbox"/> 4) その他 ( ) <input type="checkbox"/>
問4) 4) 年間の延べ作業時間についてご回答ください	1) 水産業作業員 ( ) 時間 2) プログラムのために自主運営する海・陸上での作業 ( ) 時間
問4) 5) 水産業活動プログラム日数等についてご回答ください。(複数回答可) (1) 日数の決まったプログラムの有無 (2) 日数の決まったプログラムがある場合その日数は何日くらいですか(複数回答可) (3) プログラムは連年ですか	1) 10日以内未満 <input type="checkbox"/> 2) 11～20日間 <input type="checkbox"/> 3) 21～30日間 <input type="checkbox"/> 4) 31～60日間 <input type="checkbox"/> 5) 61日～90日間 <input type="checkbox"/> 6) 91日以上 <input type="checkbox"/> 1) 連年ある <input type="checkbox"/> 2) 期間が決まっている <input type="checkbox"/> 3) 不定期 <input type="checkbox"/> 1) 支援対象者による時間は異なる <input type="checkbox"/> 2) だいたい同じ時間 <input type="checkbox"/> 3) 5～6時間 <input type="checkbox"/> 4) 7～8時間 <input type="checkbox"/>
問4) 1) 回の開催的な作業期間は何時間くらいですか	① 1～2時間 <input type="checkbox"/> ② 3～4時間 <input type="checkbox"/> ③ 5～6時間 <input type="checkbox"/> ④ 7～8時間 <input type="checkbox"/>

<p>(5) 支援対象者へ交通費および賞金など金銭給付をしていますか →どのような雇用形態ですか →給付している場合、どのような給付をしていますか →工賃はいくらですか →最低賃金はいくらですか →最も高い賃金はいくらですか →賞金を給付する際、どのような支援対象者に給付していますか →協賛採算以外で協賛し支援対象者を支援入れている事業者等でも活動を実施していますか →協賛事業者へ謝礼を支払っていますか。</p> <p>→換算方法</p> <p>→支払っている場合、金額はいくらですか</p> <p>(7) 水産業活動に当たって報酬には加入していますか →加入している場合、どのような報酬ですか(種別/単価)</p>	<p>1) 給付していない <input type="checkbox"/> (6)へおすすみください</p> <p>1) 給付している <input type="checkbox"/></p> <p>1) 非雇用型のみ <input type="checkbox"/> 2) 雇用型のみ <input type="checkbox"/> 3) 非雇用型+雇用型 <input type="checkbox"/></p> <p>1) 交通費 <input type="checkbox"/> 2) 交通費+食費等代 <input type="checkbox"/> 3) 工賃(非雇用型) <input type="checkbox"/> 4) 最低賃金(雇用型) <input type="checkbox"/> 5) 最低賃金未満の賃金 <input type="checkbox"/></p> <p>1日当たり平均( )円/人 1時間あたり平均( )円/人 1か月あたり( )円/人 1時間あたり平均( )円/人 1時間あたり平均( )円/人 1) 全員に給付 <input type="checkbox"/> 2) 給付する能力のある者のみ <input type="checkbox"/> 3) 能力に応じた金額を給付 <input type="checkbox"/> 4) その他 <input type="checkbox"/></p> <p>1) 実施していない <input type="checkbox"/> (7)へおすすみください</p> <p>1) 支払っていない <input type="checkbox"/> 2) 実施している <input type="checkbox"/></p> <p>1) 交換している <input type="checkbox"/> 2) 交換していない <input type="checkbox"/></p> <p>1日あたり平均( )円 1時間あたり平均( )円 1) 加入していない <input type="checkbox"/> 2) 加入している <input type="checkbox"/> (8)へおすすみください</p> <p>1) 加入している場合、金額はいくらですか →加入している場合、どのような報酬ですか(種別/単価)</p>	<p>1) 報酬に該当する水産業活動(ワグム)がある <input type="checkbox"/> 2) ④魚貝・藻類等物 <input type="checkbox"/> 2) ⑤その他 <input type="checkbox"/></p> <p>1) 個別に対応できる種別の水産業活動(ワグム)がある <input type="checkbox"/> 2) 少量で指導できるものとしている <input type="checkbox"/> 3) 個別に指導できるものとしている <input type="checkbox"/> 4) 短期で訓練できるものとしている <input type="checkbox"/> 5) 合宿できるものとしている <input type="checkbox"/> 6) 共同生活・共同作業できるものとしている <input type="checkbox"/></p>	<p>(9) 支援対象者を支援して支援対象者に変化はありましたか →ある場合、どのような変化ですか</p>	<p>1) 精神の状況 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>2) 体の状況 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>3) 生活リズム ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>4) 労力リズム ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>5) コミュニケーション力 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>6) 繋がる人間関係者数 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>7) 自己有用感 ① 良くなった <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 悪くなった <input type="checkbox"/></p> <p>1) 現状維持 <input type="checkbox"/> 2) 拡大したい <input type="checkbox"/> 3) 縮小したい <input type="checkbox"/> 4) 止める予定 <input type="checkbox"/> 5) わからぬ <input type="checkbox"/></p>	<p>(7) 助成金等の情報収集 <input type="checkbox"/> 10) 支援対象者を集めること <input type="checkbox"/></p> <p>(8) 取組みにかかる情報収集 <input type="checkbox"/> 11) その他 ( ) <input type="checkbox"/></p> <p>(9) 支援対象者に水産業活動に興味を持ってもらうこと <input type="checkbox"/></p>
<p>水産業活動の経緯や体制や取組み内容等</p> <p>問4(8) 追加について何か意見がありましたらご回答ください</p>					

## VII. 参考資料

### 1. 実施モデル事業

自立支援相談窓口の斡旋を受けた就労準備を必要とする、そして農業分野等でのキャリア形成を希望する生活困窮者を対象に、農業分野等のモデル事業として労働力支援モデル事業および広域モデル事業を設定し、2県において生活困窮者を受け入れ事業を実施した。

#### (1) 実施モデル概要

- 1) 労働力支援モデル：就労訓練事業（県域）
- 2) 広域モデル：就労訓練事業（全国域）

事業名	主な内容
労働力支援モデル	県域において認定就労訓練事業所が農業者より農作業を受託し、生活困窮者を送り込み、JAグループの協力を得て、雇用型の農作業体験を実施した。取組みに当たって中間支援組織（C-DA九州事務所）を設け、県・市の生活困窮者担当部署、関係する農業者団体、認定就労訓練事業所などとの調整を図り実施した。 ※全農おおいたでは地元のJAやパートナー企業等と連携し、野菜や果樹の収穫・選別を中心に幅広く農作業を請負い、「労働力支援事業」に取り組んでいる。パートナー企業が就労訓練事業所となり、本労働力支援モデル事業にかかる生活困窮者等のさまざまな人々を労働力として農家等へ送った。
広域モデル	農業分野でのプログラムを提供する宿泊施設を有する認定就労訓練事業所（NPO法人 北陸青少年自立援助センター）において、全国から生活困窮者を受け入れ農作業体験を実施した。

**現金日払い  
登録制  
送迎付き**

「パン」

**\*現金日払い・・・**  
日給は働いた日の帰りに  
手渡しします。

**\*登録制・・・面接→日雇い契約の登録**  
→日程調整→農作業

**\*送迎付き・・・集合場所まで各自** ⇨  
送迎車両に乗車 ⇨ 農家  
※現地集合も可

⇨ 登録先事業者 ⇨

**株式会社 菜果野アグリ**  
大分県大分市古国府1220  
(JA全農おいた敷地内)

お問合せは**C-DA九州事務所**へ

**Career Design Approach**

お問合せは お気軽に！

厚生労働省モデル事業  
JA労働力支援事業と就労支援

**C-DA 九州事務所**

**Career Design Approach**

〒870-0035

大分県大分市中央町2丁目2-18 豊国屋ビル202

TEL:080-8560-8283  
FAX:097-574-6109  
Mail:cda.jimukyoku@gmail.com  
(受付:月～土曜日・10:00～17:00)

さあ、夢の夕水をまこう！  
あなたの『働きたい!』を  
『農業』で応援します！

**C-DA 九州事務所**

**Career Design Approach**

厚生労働省モデル事業  
JA労働力支援事業と就労支援

『空いた日に働きたいなあ』

- 子育ても終わってゆとりができた
- 今の仕事はやめたくない
- 短期間でいいの？

・・・と思っている方！



『農業ってどんなことをするの？』

- 具体的な作業を知りたい
- カはないんだけど

大丈夫かなあ

・・・と思っている方！



『経験がなくても大丈夫？』

- ついでにける自信がない
- 興味があるだけでもいいのかなあ
- 人と関わるのが苦手だけど...
- 社会参加の

きんかへけがほしい

・・・と思っている方！



\*1日からでもOK!

\*ダブルワークの調整可能

\*働く日数はあなたの希望を聞きます



\*野菜や果実の収穫、箱・パック詰め、草取り、苗の植え付けなど...  
 わざわざしい作業はありません

\*あなたの体力に合わせた作業があります



\*ほとんどのの方が初めて

\*みんなで一緒に作業します

\*とにかく体験してみよう



### 農業は魔法！

就職試験に何度も落ち、日払いが魅力で体験してみた。面接では色々聞かれず「まずやってみよう」と言われて驚いた。初めての作業で不安だったが、見よう見まねで何とかやれた。汗をかいて、その日にお金をいただけ、すっきりした。かかった。



### 体験エピソード

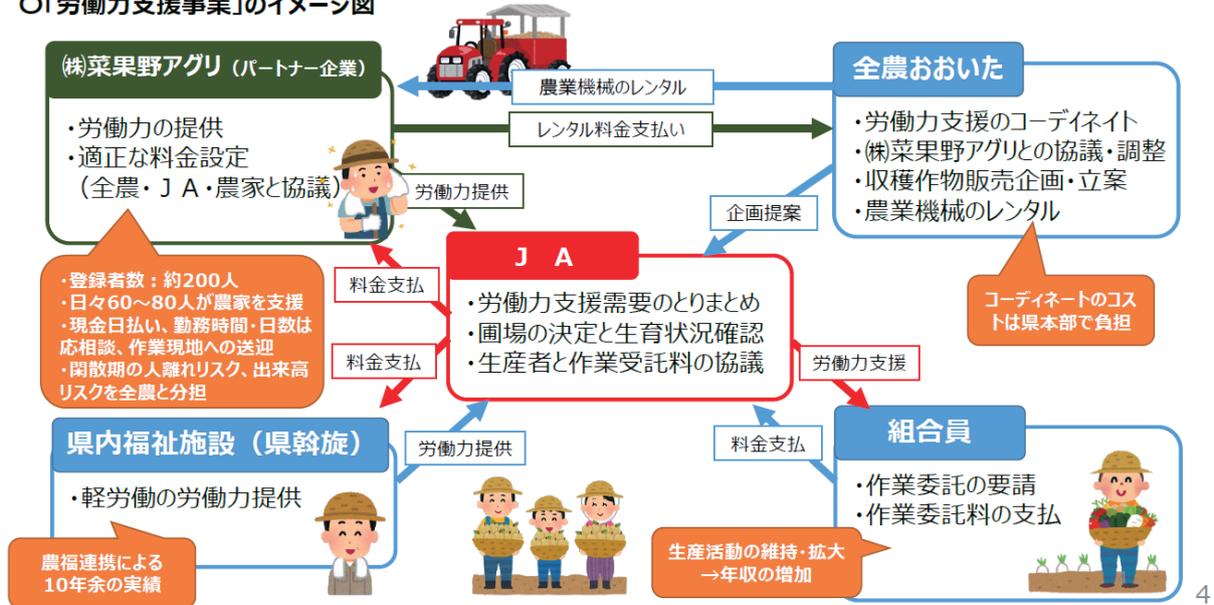
**農業は新鮮！**  
 食卓に上る野菜の産地を見てとても感動した。見たことのない景色に出会えてうれしい。土に触れて癒されるし、お小遣い稼げることができる。



## (取組事例) J A 全農おいたの「労働力支援事業」

- 農家の生産活動は、家族などの基幹従事者だけでなく、近隣地域からの臨時的従業者の確保によって成立してきたが、人口減少によって労働力確保が困難になってきている。
- そこで、必要な臨時的従事者となる人材を都市部から移動させることを事業化し、組合員が必要な時に必要なだけ労働力を投入できる仕組みを構築。

### ○「労働力支援事業」のイメージ図



出典：まち・ひと・しごと地方創生本部「資料22 地方就労・自立支援事業について」  
r02-07-21-shiryoku22.pdf (kantei.go.jp) より

**2020年度厚生労働省委託事業**

## 農業の合宿型就労体験・訓練プログラムの案内 ～ 全国から受け入れ可能！ ～

### 生活困窮者の農福連携労働力支援モデル事業

対象者	申込み方法
<p>自立相談支援窓口を通して就労支援を受けている方(自立相談支援事業、就労準備支援事業等)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・農業に興味、関心がある方</li><li>・居住地を離れた土地での就労支援を希望する方</li></ul>	<p>全国の自立相談支援窓口から応募 申込期限: 1月末まで (オンライン等による事前面談あり)</p>

#### 実施場所

**NPO法人 北陸高少年自立援助センター**  
〒 939-2204 富山県富山市万願寺 144  
☎ 076-467-0969  
Eメール info@haguregumo.jp  
ホームページ <https://www.haguregumo.jp/>



## カリキュラム

- ① 農作業・農業体験作物の知識に関する研修
- ② 農業機械の操作方法・メンテナンスに関する研修
- ③ 農生、地域住民との交流
- ④ 支援対象者に対する生活相談・個別相談 など

## プログラム

<h3>実施コース</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・10日間体験コース</li><li>・2カ月コース(※)</li></ul> <p>(※)10日間コースを体験後希望者</p>	<h3>募集人数</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・年間10名程を予定 (1回につき2名程度)</li></ul> <h3>費用</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・原則本人負担なし (交通費、宿泊費、食費等、個定完備)</li></ul>
---	---



Peaceful House

はぐれ雲

NPO法人 北陸青少年自立援助センター



### 実施場所

**NPO法人 北陸青少年自立援助センター**

〒939-2204 富山県富山市万願寺144

☎ 076-467-0969

Eメール info@haguregumo.jp

ホームページ <https://www.haguregumo.jp/>



### 交通アクセス

#### 電車でお越しの場合

- ⇒大阪より 特急 約3時間30分
- ⇒大宮より 新幹線 約1時間45分
- ⇒名古屋より 特急 約3時間30分 (米原回り、高山回り)

富山駅下車後、バス停留所5ポールより31・32系統  
※バス乗車前に一度ご連絡ください。バス停まで迎えに行きます。

#### 飛行機でお越しの場合

- ⇒富山空港より車で15分 (タクシー・レンタカーあり)
- 東京4便・札幌便もあり
- ★詳しくは各航空会社HPにてお調べください

(裏面)

## 参考情報

就労訓練事業所が全国から生活困窮者の希望者を受入れ、農業にかかる合宿型体験・訓練プログラム（短期間コース、長期間コース）を実施した。

- |                          |
|--------------------------|
| ① 農作業・農業体験作物の知識に関する研修    |
| ② 農業機械の操作方法・メンテナンスに関する研修 |
| ③ 寮生、地域住民との交流            |
| ④ 支援対象者に対する生活相談・個別相談     |

### 《実施コース》

- ・10日間体験コース
- ・2カ月コース（10日間コースを体験後希望者）

### 《募集人数》

- ・年間10名程度

### 《費用》

- ・原則本人負担なし

## ◆プログラム概要

### ① 日課

#### 午前

- 6:30 起床・散歩
- 朝食
- 7:00 清掃・片付け
- 8:00 勉強会等
- 9:30 作業（農繁期は早くなる）
- 11:00 昼食準備（当番）
- 12:00 昼食

#### 午後

- 13:30 作業
- 16:00 自由時間
- 17:00 夕食準備（当番）
- 18:00 夕食
- 片付け
- ～自由時間～

### ② 作業内容

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 3月 田植え準備        | 9月 稲刈り・乾燥調製・出荷   |
| 4月 苗出し（20,000枚） | 10月 同 秋野菜定植      |
| 5月 田植え補助 春野菜定植  | 11月 圃場整備・秋野菜収穫   |
| 6月 圃場周辺草刈り 野菜管理 | 12月 倉庫整備・周辺環境整備  |
| 7月 草刈り・野菜収穫販売   | 1月 雪かき・道路整備アルバイト |
| 8月 同            | 2月 同             |

- ・外出やスポーツ・体力向上トレーニング等も行う
- ・地域のイベント・大会にも参加

## 2. シンポジウム開催報告資料

### (1) 開催案内

厚生労働省委託事業

生活困窮者自立支援制度における  
農業分野等との連携強化モデル事業シンポジウム

# 生活困窮者の 就労に向けて

～農業での新たな人生へのチャレンジ～



▶ オンラインセミナー

参加費無料

事前申込制

先着順

**開催日** ▶ 1日目 2021年2月16日(火) 13:30～16:00  
2日目 2021年2月17日(水) 9:30～12:30

**開催方法** ▶ Zoomビデオウェビナーによる配信

**参加対象** ▶ 地方自治体職員、関係団体の方等  
(先着順。募集締切後に申し込みをいただいた場合は、後日メールにてHP掲載のご案内をいたします)

**参加費** ▶ 無料

**申込方法** ▶ インターネット <https://jiji.smartseminar.jp/public/application/add/1932>  
メール [sol@grp.jiji.co.jp](mailto:sol@grp.jiji.co.jp) FAX 裏面のFAX申込用紙をご利用ください。 締め切り:2021年2月15日(月)

スマートフォンは  
こちらから



### 【プログラム】

◎1日目 2月16日(火)	◎2日目 2月17日(水)
①挨拶および行政報告	③行政報告
13:30～13:45 厚生労働省	9:30～9:45 農林水産省
②モデル事業報告	④先進事例報告
13:45～14:30 (労働力支援モデル) 有限責任事業組合大阪職業教育協働機構 西岡 正次 就労支援室長 特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット 矢野 茂生 専務理事	9:45～10:15 社会福祉法人わたむきの里福祉会 酒井 了治 常務理事 「地域の生活困窮者を含む多様な人々の働きを支援」
14:30～14:40 休憩	10:15～10:45 特定非営利活動法人農スクール 小島 希世子 代表理事 「働きづらさを抱える人々が農で学び、自立へ」
14:40～15:10 (広域モデル) 特定非営利活動法人北陸青少年自立援助センター 川又 直 理事長	10:45～10:55 休憩
15:10～15:40 (全国アンケート調査等報告) 一般社団法人JA共済総合研究所 濱田 健司 主席研究員	10:55～11:25 全国農業協同組合連合会 花木 正夫 労働力支援対策室専任室長 「障害者、ミッシングワーカーなどの社会参加と「副業」としての農業～労働力支援～」
15:40～16:00 質疑応答	11:25～11:55 労協センター事業団(ワークスコープ)但馬地域福祉事業所 上村 俊雄 所長 「さまざまな人々が自ら経営し働く協同による林業」
	11:55～12:15 コメント(西岡就労支援室長、濱田主席研究員)
	12:15～12:30 質疑応答

主催：一般社団法人JA共済総合研究所

お問い合わせ ▶ セミナーへの参加について：時事通信社 担当/宮川 E-mail [sol@grp.jiji.co.jp](mailto:sol@grp.jiji.co.jp) TEL 03-3524-6697 FAX 03-3545-1125  
プログラムについて：一般社団法人JA共済総合研究所 担当/茂木・高木・濱田 E-mail [seikon-agri@jkri.or.jp](mailto:seikon-agri@jkri.or.jp)

(表面)

参加のお申し込みは便利なインターネット(二次元コード) または メール、下記FAX申込用紙で

スマートフォンは  
こちらから

インターネット

<https://jiji.smartseminar.jp/public/application/add/1932>



### 開催趣旨

農福連携については、2019年6月に「農福連携推進ビジョン」が取りまとめられ、生活困窮者についても「福」の広がりへの支援として、国・地方公共団体が一体となって体制を整備するとともに、農作業を通じた就労・社会参加支援を実践している事例等収集、情報発信を行うこととされています。

本シンポジウムは、「農業での新たな人生へのチャレンジ」として、今年度より実施している「生活困窮者自立支援制度における農業分野等との連携強化モデル事業」に関する成果を報告すると共に、全国の先進事例を紹介し、効果的なモデルの普及を目的に開催いたします。

FAXでお申し込みの際は下記に必要事項をご記入の上、こちらの番号へ申込用紙をお送りください。

セキュリティの都合などで当セミナーのホームページにアクセスできない場合は、当FAX申込用紙に必要事項をご記入の上、左記の番号へFAX送信してください。申し込み完了後、視聴用のURLが記載されたメールを差し上げます。

**FAX:03-3545-1125**

募集締切後に申し込みをいただいた場合は、後日メールにてHP掲載のご案内をいたします。

### オンラインセミナー

## 「生活困窮者の就労に向けて～農業での新たな人生へのチャレンジ～」

貴団体名	TEL		
	FAX		
所在地 住所	〒 都・道・府・県		
所属部署	役職名	貴氏名	E-Mail ※必須(正確にご記入ください)
資料送付・各種情報案内を希望しますか? (○をつけてください)		希望する	／ 希望しない

お問い合わせは、下記へ

セミナーへの参加について

時事通信社 担当/宮川

E-mail [sol@grp.jiji.co.jp](mailto:sol@grp.jiji.co.jp)

TEL 03-3524-6697

FAX 03-3545-1125

プログラムについて

一般社団法人JA共済総合研究所 担当/茂木・高木・濱田

E-mail [seikon-agri@jkri.or.jp](mailto:seikon-agri@jkri.or.jp)

(裏面)

(2) メディア掲載報告

内容	媒体名	日付	タイトル
事業開始	日本農業新聞	9/13	農体験で自立後押し【1面】
告知	時事通信社 iJAMP	1/21 1/22 1/25 2/1 2/8	生活困窮者自立支援制度における農業分野等との連携強化モデル事業シンポジウム開催案内【ネットのバナー】【メール】
告知	日刊アグリ・リサーチ	2/5	生活困窮者自立支援制度における農業分野等との連携強化モデル事業シンポ【10面】
告知	日本農民新聞	2/5	生活困窮者自立支援制度における農業分野等との連携強化モデル事業シンポ【WEB版】
告知	日本農業新聞	2/13	共済総研ウェブで～モデル事例を報告へ～【JA面】
開催報告	時事通信社 iJAMP	2/17	生活困窮者ら農業で自信
開催報告	日本農業新聞	2/18	共済総研シンポ～生活困窮者の自立支援で～【5面】
アンケート調査結果	日本農業新聞	2/21	自立支援に農業“有効”【1面】
開催報告	時事通信社中央官庁だより	2/22	目指すは日本農業の関係人口増＝農水省①
開催報告	福祉新聞	3/1	厚生労働省 就労支援は農業で【3面】
開催報告	日刊アグリ・リサーチ	3/4	生活困窮者自立支援と農業テーマにシンポ、全農が大分の事例紹介＝JA共済総研【6-7面】

(3) シンポジウム動画の URL

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLiP5dEsi-FQcni5M14aZCikjnMG5DUTvy>